

2
0
1
4
年
度
年
報



大
阪
大
学
国
際
教
育
交
流
セ
ン
タ
ー

大阪大学国際教育交流センター
Center for International Education and Exchange, Osaka University

巻 頭 言

大阪大学国際教育交流センター長
有 川 友 子

国際教育交流センターは、平成 22 年 4 月の留学生センターからの改組以降も、大阪大学の国際化に引き続き貢献し、質の高い留学生教育交流支援を目指すという大きな目標のもと、4WD（日本語教育研究、短期プログラム開発研究、交流アドバイジング研究の 3 チーム＋サポートオフィス）体制にて各種活動に積極的に取り組んでおります。この度、平成 26 年度の活動につきまして報告いたします。最初に本年度のトピックス、その後各活動について詳細に報告しております。

国際教育交流センターは全大阪大学のニーズに柔軟に対応した教育、各種交流や支援に関わる活動、各教員の専門分野に応じた研究活動を行っております。例えば大阪大学の全留学生の 8 割強の 1,700 名程度が、本センター日本語教育研究チームによる多様なニーズに対応した各種日本語科目を受講中もしくは受講経験をもっております。また本センターの短期プログラム開発研究チームは通常の学期をベースとした交換留学に加えて、米国カリフォルニア大学や豪州の協定校の学生を主な対象とした短期間の J-ShIP や超短期プログラムを開発し先駆的に実施してきた実績を持っております。また受入だけでなく、交換留学や短期研修プログラム等、本学学生の派遣についても全学的な立場から相談対応や支援、コーディネートを行っております。更に交流アドバイジング研究チームは IRIS（留学生交流情報室）をベースに、留学生相談対応は勿論、学生間交流、地域との交流等、関係部局等と緊密な連携とネットワークを活用して活動を行っております。そしてサポートオフィスは外国人留学生と研究者受け入れに関わり、主にビザに関わる支援と宿舎情報提供を全学的に行っております。

さて、大阪大学の留学生総数は平成 26 年度 5 月 1 日現在で 2,012 名となり、約 10 年前と比較すると 1,000 名以上の倍増となりました。留学生数増と各種コースやプログラムの多様化の進む中で、留学生・一般学生に関わる教育交流支援の質の保証が益々重要となっております。留学生が大阪大学の学生として教育研究を含む各種活動について一般学生と同じ機会を持つこと、言語文化等多様な背景をもつ留学生に対して大学として必要なサポートを充実させていくこと、いずれも不可欠です。

これからも関係部局等と連携しつつ、国際教育交流センターは留学生中心の部局として、大阪大学の国際化に積極的に貢献してまいります。

大阪大学国際教育交流センター
2014年度 年報

目 次

巻 頭 言

| | |
|--------------------------------------|----|
| I. 本年度のトピックス | 1 |
| 1. 日韓学生会議 | 1 |
| 2. AEARU Student Summer Camp 2014 | 3 |
| 3. 2014年度国際教育交流センタースピーチコンテスト | 9 |
| 4. CIEE 協議会シリーズ—多文化交流の最前線— | 12 |
| 5. 総長顕彰・総長奨励賞 | 16 |
| 6. 超短期プログラム「アカデミック・ジャパニーズの基礎」 | 17 |
| 7. 中級日本語のカリキュラムと教材の開発 | 19 |
| 8. 平成26年度部局長裁量未来戦略経費の採択 | 21 |
| 9. Project HELP! 概要 | 23 |
| 10. OUSSEP（高度教養・専門複合型プログラム）の将来について | 24 |
| II. 現 況 | 26 |
| 1. 運営形態 | 26 |
| 2. 組 織 | 27 |
| 3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等 | 28 |
| 4. 今年度の動き | 29 |
| III. 留学生対象日本語プログラム | 30 |
| 概 要 | 30 |
| 1. 日本語集中（研修）コース | 31 |
| 2. 留学生日本語選択コース | 38 |
| 3. 全学共通教育 | 39 |
| 4. 国際交流科目 | 41 |
| 5. 学際融合教員科目 | 42 |
| IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム | 43 |
| 1. 時間割 | 43 |
| 2. 学生数と進学先 | 44 |
| 3. 平成26年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会 | 44 |
| 4. 韓国国際教育院および大阪韓国教育院からの来訪者への対応 | 45 |
| V. 国際教養・専門複合型プログラム | 46 |
| 1. 行 事 | 47 |
| 2. 2014年度春学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト | 48 |
| 3. 2014年度秋学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト | 50 |
| 4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数 | 53 |
| 5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み | 54 |
| VI. 『超短期』プログラム | 58 |
| 1. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』J-ShIP | 58 |
| 2. ショートステイ日本語・防災プログラム | 62 |

| | |
|---|-----|
| VII. 留学生支援 | 63 |
| 1. 生活・就学支援 | 63 |
| 2. 地域との連携 | 69 |
| 3. 留学生に対するキャリア支援 | 72 |
| VIII. 海外派遣留学支援 | 76 |
| 1. 海外研修・異文化体験プログラム | 76 |
| 2. 海外留学オリエンテーション | 78 |
| 3. 大学間交換留学者数 | 79 |
| 4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション | 82 |
| 5. 留学報告会 | 83 |
| 6. 海外留学相談とアドバイス | 85 |
| IX. サポートオフィスの活動 | 88 |
| 1. 査証（ビザ）関連手続きの支援 | 88 |
| 2. 住宅・宿舎手配の情報提供・支援 | 89 |
| 3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催 | 89 |
| 4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催 | 90 |
| 5. 留学生・外国人研究者受入担当者向け説明会の開催 | 90 |
| 6. ホームページの管理運営 | 91 |
| 7. 各種印刷物の改訂版作成・配布 | 92 |
| X. 大学院・学部教育 | 94 |
| 1. 授業担当 | 94 |
| 2. 研究指導 | 100 |
| 3. 研究指導学生学位論文 | 103 |
| 4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ | 103 |
| XI. その他の活動 | 104 |
| 1. 各種行事 | 104 |
| 2. 留学フェアへの参加 | 107 |
| 3. 海外出張・海外研修 | 108 |
| 4. 出版物・印刷物等 | 109 |
| 5. 来訪者対応 | 110 |
| 6. 日本語プログラム KOAN 手続きに関する説明会 | 111 |
| 7. 研究者・配偶者の日本語学習支援 | 111 |
| 8. にほんごテーブル | 113 |
| XII. 教員個人データ | 116 |
| 資料 1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2014 年度 時間割 | 148 |
| 資料 2 2014 年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数一覧 | 152 |
| 資料 3 国際交流科目授業時間割 | 154 |
| 資料 4 日本語授業についてのアンケート | 156 |
| 資料 5 国際交流科目 授業アンケート（質問票） | 160 |
| 資料 6 国際交流科目 授業アンケート（結果） | 162 |

I. 本年度のトピックス

1. 日韓学生会議

本企画は大阪大学と神戸大学、関西大学、関西学院大学の4大学の間でつくられた地域コンソーシアム「阪神地区大学国際化推進ネットワーク」（阪神ネット；2011年度結成）による共同事業として、コンソーシアム形式のSS/SVプログラムとして開始された。2012年度（2013年2月）にはまず日本で、2013年度にソウル慶熙大で当該ワークショップを開催してきた。3回目にあたる2014年度については、コンソーシアムから神戸大が抜け、残った3大学が韓国側パートナーの慶熙大・漢陽大から学生を招くことになった。今回は関西大学南千里国際プラザで2月4日から10日において開催。韓国側から慶熙大5名、漢陽大4名の計9名、日本からは関西学院大学、関西大学、阪大からそれぞれ4名の12名、計21名の学生によるワークショップを実施した。

主催は阪神ネットで、本年の主幹大学は関西学院大学という位置づけである。関西大学が宿舎を提供し、本学からは学長リーダーシップ経費などの措置を受けて、来日学生の渡航費などを助成し、それぞれが応分に運営を負担した。なお、本年は日本学生支援機構に短期受入プログラムとしての申請を行ったものの、残念ながら採択には至っていない。講義や学生ケア等については日本側の三大学が分担し、慶熙大学からは教員・職員などが来日して交流を行った。本センター教員一名は本企画のコーディネータとして参加し、2月5日に授業を実施して学生のディスカッションなどをコーディネート。引き続いて2月9日に行われたワークショップ発表会での採点などに携わった。

韓国人学生・日本人学生の「泊まり込み」を前提とするプログラムであり、7日間にわたって寝食を共にする経験を通じ、日韓の若い学生たちの間に非常に緊密な関係が生まれており、対応した教職員としても手応えを感じた一週間となった。

| 2015 日韓学生会議スケジュール | | | | |
|-------------------|-----------------|-----------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 日時 | 時間 | 内容 | 場所 | 備考 |
| 2015/2/4 (水) | 10:35 | 8:50 ソウル→関西空港到着 (KE2725) | | |
| | 10:40 | 出迎者集合 | 関西空港 | KU: 佃さん、KGU: 中村 |
| | 11:15 | 両替、昼食 | 関西空港 | |
| | 12:30 | 関空出発 | | 中型バス |
| | 12:30 | 日本人学生 集合 | プラザ寮・国際学生寮 | |
| | 13:30 | 関西大学到着→入寮 | プラザ寮・国際学生寮 | |
| | 15:00 | 学生顔合わせ、オリエンテーション グループ分け | プラザ寮 | スケジュール確認、参加費徴収 |
| | 17:00~ | 開講式歓迎会 | プラザ寮(教室) プラザ寮(多目的ホール) | 司会: KU、挨拶: KU、高さん 乾杯: |
| 2015/2/5 (木) | 9:30~ 11:00 | 講義1 テーマ: | プラザ寮 | 講師: (関西大学) |
| | 11:00~ 12:30 | 講義2 テーマ: | プラザ寮 南千里駅周辺 | 講師: (関西学院大学) |

| | | | | |
|------------------|-----------------|---------------------------|----------------|----------------------------|
| 2015/2/5 (木) | 12:30~ 13:30 | 昼食 各自 | プラザ寮 南千里駅周辺 | |
| | 13:30~ 15:00 | 講義 3 テーマ : | プラザ寮 | 講師 : (大阪大学) |
| | 15:00~ 18:00 | ワークショップ | プラザ寮 | ※講師 1 名に残って指導お願い する |
| | 18:00~ | 夕食・入浴他 | プラザ寮 | |
| 2015/2/6 (金) | | 朝食 各自 | | |
| | 9:30~ 12:00 | ワークショップ | プラザ寮 | PC 3 台を準備 (KU) |
| | 12:00~ 13:00 | 昼食 各自 | | 入寮者は wi-fi 使用可 |
| | 13:00~ 16:00 | ワークショップ | プラザ寮 | |
| | 17:00~ | 夕食・入浴他 | | |
| 2015/2/7 (土) | | 朝食 各自 | | |
| | 8:30 | プラザ寮出発 | | KU : 東條さん、KG : 中村 |
| | 8:45 | 南千里駅発 (淡路・十三経由) | | |
| | 9:29 | 池田駅着 | | |
| | 9:40~ 11:00 | インスタントラーメン発明記念館 見学 | | 9:30 開館 チキンラーメンファクトリー満席 |
| | 11:00~ 12:00 | 昼食 各自 | | |
| | 12:05 | 池田駅発 (梅田/大阪経由) | | |
| | 13:01 | JR 芦原橋駅着 | | 芦原橋駅から 600m |
| | 13:20~ 15:00 | 大阪人権博物館見学 | | |
| | 15:16 | JR 芦原橋駅発 | | |
| | 15:37 | JR 大阪城公園駅着 | | |
| | 16:00~ 17:00 | 大阪城天守閣見学 見学後解散 | | 大阪城天守閣 17 時閉館 |
| | | 自由行動・夕食 | | |
| | プラザ寮 | | | |
| 2015/2/8 (日) | | 朝食 各自 | | |
| | 終日 | 自由行動 | | |
| 2015/2/9 (月) | | プラザ寮 | | |
| | | 朝食 各自 | | |
| | 9:30~ 12:00 | ワークショップ | | パワーポイント使用 |
| | 15:00~ 17:00 | 合同発表会 | | 講師 3 名に出席いただく。 |
| | 17:30~ | 修了式、歓送会 | 南千里クリスタルホテル | 司会 : KU、 挨拶・修了書授与 : KG |
| | | 朝食 各自 | | |
| | 中型バス出迎え | | | |
| 2015/2/10 (火) | 8:30 | 関西大学出発 | | |
| | 9:50 | 関西空港到着 | | |
| | 11:50 | 関西空港→13:55 ソウル (KE724) | | |

2. AEARU Student Summer Camp 2014

AEARU（東アジア研究型大学協会）で行われる「学生サマーキャンプ」であるが、H26年度は本学が幹事校になり、8月19日から26日に1週間あまりにわたって大阪・兵庫で開催された。その実施については、学生交流推進課とともに、国際教育交流センターから教授1、准教授3の教員がコーディネータとして企画段階から参画し、その他に理学研究科、外国語学部、工学研究科、基礎工学研究科などの教員からの応援も受けている。

主たる活動としては5月に学生による実行委員会を結成させ、サマーキャンプ中の様々な活動（企業見学など）やワークショップ内容などについて、学生主導の活動をサポートする方向で進めた。大阪大学生のコミッティー参加者は33名。イベントを貫くモットーは「Enjoy Locally, Communicate Globally」と定め、本学以外のAEARU加盟大学からの参加者は、4ヶ国12機関から28名となった。

サマーキャンプ期間中は学外からの参加者は蛍池のビジネスホテルをほぼ「貸し切り」として宿泊させ、本学の実行委員会学生も同宿して親交を深めた。また後半の8月25日から26日にかけては兵庫県淡路島の「淡路夢舞台」に宿泊。好天にも恵まれ、鳴門の渦潮やバーベキューなど「大阪湾の対岸」である淡路島の自然を満喫するとともに、ワールドクラスのコンフェレンス施設で議論を深め、今後の国際化された大学のあり方（世界トップクラスの大学に必要な条件とは？）について学生なりの観点からアイデアを競った。

さて、参加者間ではSNS等を通じて、それぞれの母国・在籍校に戻ったあとも活発な交流が続いていた。こういった学生同士の交流をとぎらせないため特別経費「学長のリーダーシップの発揮」を更に高めるための特別措置枠の助成を受け、2015年2月13日から15日の二泊三日で京都を舞台として「同窓会」をあわせて実施、引き続き学生の実行委員会が深くコミットして、国内外から27名の参加を得て旧交を温めることができた。この「同窓会」に関しても、学生交流推進課および本センターの教職員が同行し、学生に対する指導を行った。

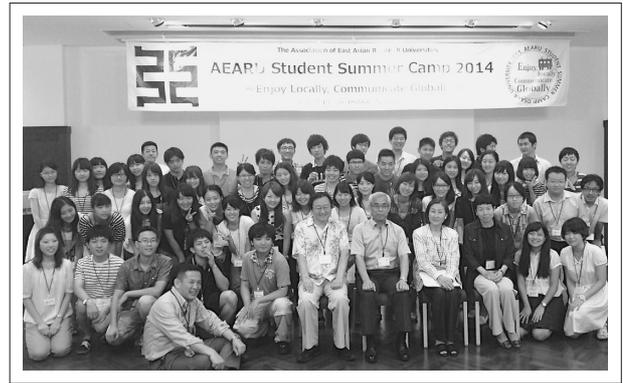
（夏プログラム「大阪大学」参加者）

| | 執行部 | 担当 | 所属学部・研究科等 | 学年 |
|----|-----|----------------|-----------|----|
| 1 | | グッズ | 人間科学部 | U2 |
| 2 | | 大阪 | 理学部 | U2 |
| 3 | | 大阪 | 理学部 | U3 |
| 4 | 委員 | 淡路島 | 医学部保健学科 | U2 |
| 5 | 委員 | 企業（淡路島） | 基礎工学部 | U3 |
| 6 | | 研究室 | 基礎工学研究科 | M2 |
| 7 | | 研究室 | 外国語学部 | U2 |
| 8 | | 大阪 | 法学部 | U3 |
| 9 | | 大阪 | 人間科学部 | U4 |
| 10 | 委員 | グッズ | 外国語学部 | U2 |
| 11 | 委員 | エンターテイメント（淡路島） | 法学部 | U2 |
| 12 | | 企業 | 医学部 | U2 |
| 13 | | 企業 | 外国語 | U1 |
| 14 | | 淡路島 | 外国語学部 | U2 |
| 15 | | エンターテイメント | 外国語学部 | U2 |
| 16 | | グッズ | 工学部 | U4 |
| 17 | | 大阪 | 医学部 | U1 |
| 18 | | エンターテイメント | 外国語学部 | U4 |
| 19 | | 大阪 | 外国語学部 | U4 |
| 20 | | 企業 | 基礎工学部 | U3 |

| | | | | |
|----|------|-----------|-------|----|
| 21 | | 企業 | 経済学部 | U3 |
| 22 | | 大阪 | 経済学部 | U3 |
| 23 | | 淡路島 | 経済学部 | U2 |
| 24 | | 大阪 | 経済学部 | U2 |
| 25 | 委員 | 大阪 | 経済学部 | U2 |
| 26 | 副委員長 | グッズ | 工学部 | U3 |
| 27 | | エンターテイメント | 工学部 | U2 |
| 28 | | 企業 | 人間科学部 | U2 |
| 29 | | 企業 | 外国語学部 | U3 |
| 30 | 委員長 | 研究室 | 法学部 | U3 |
| 31 | | 淡路島 | 基礎工学部 | U4 |
| 32 | | 研究室・企業 | 人間科学部 | U2 |
| 33 | | 研究室 | 基礎工学部 | U1 |

(夏プログラム「阪大外」からの参加者)

| | University | Faculty/Department | Grade | Major discipline |
|----|------------|--|-------|---|
| 1 | 北京大学 | College of Chemistry and Molecular Engineering | U2 | Chemical Biology |
| 2 | 北京大学 | Law | U2 | Law |
| 3 | 北京大学 | The School of Foreign Languages | M1 | The Korean Language and Culture |
| 4 | 北京大学 | The Korean language and Culture Department | M1 | The Korean Linguistics |
| 5 | 清華大学 | Department of Precision Instruments | U2 | Measure and Control Technology and Instruments |
| 6 | 清華大学 | 経済管理学院/School of Economics and Management | U1 | 工商管理類 (会計学) |
| 7 | 南京大学 | School of business | U2 | Economics |
| 8 | 南京大学 | School of Architecture and Urban Planning | U3 | Architecture |
| 9 | 復旦大学 | Polymer Science | U2 | Polymer Science |
| 10 | 復旦大学 | School of Philosophy | U2 | Philosophy |
| 11 | 中国科学技術大学 | Department of Gifted Young | U3 | Statistics |
| 12 | 中国科学技術大学 | electronic engineering and information science | U3 | microwave communication |
| 13 | 国立台湾大学 | College of Liberal Arts | U3 | Japanese Language and Literature |
| 14 | 国立台湾大学 | Department of Anthropology | U3 | Anthropology |
| 15 | 国立清華大学 | Computer Science | U3 | Data mining |
| 16 | 国立清華大学 | Student | U3 | Foreign Language and Literatures |
| 17 | 国立清華大学 | Economic | U4 | Economic |
| 18 | 国立清華大学 | Computer Science | U3 | Computer Graphics |
| 19 | KAIST | Civil and Environmental Engineering | U5 | Environmental Engineering |
| 20 | KAIST | Biological Sciences | U3 | Biological Sciences, Business and Technology Management |
| 21 | POSTECH | Industrial and Management Engineering | U3 | Industrial and Management Engineering |
| 22 | POSTECH | Materials Science and Engineering | U3 | Electronic materials |
| 23 | 京都大学 | Law | U4 | Law |
| 24 | 筑波大学 | Faculty of medicine | U3 | Medicine |
| 25 | 筑波大学 | 生命環境学群 生物資源学類 | U1 | |
| 26 | 東北大学 | Science Department | U4 | Physics |
| 27 | 東北大学 | law | U4 | diplomacy |
| 28 | 東北大学 | Pedagogy | U1 | |



(歓迎会)



(好天に恵まれた淡路島)

The Preliminary Schedule for the AEARU Summer Camp 2014 in Osaka (as of July) **

**The details and venues for the program might be subject to change.

| Date | From | To | Program | Venue |
|-----------|---------------|----|---|---|
| 19 TUE | | | Arrival in Osaka, Check-in Hotel Tsujii (Hotarugaikae) | Hotarugaikae, Toyonaka City, Osaka |
| | | | | *For Pick-up at Kansai Intl Airport on Aug 19', please refer to the attachment. (Students expenses). |
| 20 WED | 9:00 - 12:00 | | Campus tour, Keynote lecture, Orientation and quick guidance, Welcome reception | Toyonaka Campus |
| | 12:00 - 13:00 | | Campus tour (Toyonaka, Suita, Minoh) | |
| | 13:00 - 14:00 | | Lunch | Canteen |
| | 14:10 - 15:00 | | Tour to the Museum of Osaka University | |
| | | | Keynote lecture by the Vice President | Osaka University Hall |
| | | | | *Toshiya HOSHINO, Ph.D., Vice President |
| | 15:10 - 17:00 | | Orientation and quick guidance | Osaka University Hall |
| | 17:10 - 19:00 | | Welcome reception | |
| 21 THR | 9:00 - 9:40 | | Laboratory visit | Toyonaka & Suita Campus |
| | 10:00 - 11:00 | | Gather at Toyonaka Campus and go to Suita Campus | |
| | 11:00 - 12:00 | | Laboratory visit (1) *divide into 3 groups | Suita Campus |
| | 12:00 - 13:00 | | Laboratory visit (2) *divide into 3 groups | |
| | 13:00 - 14:00 | | Lunch (*lunch box) | IC Hall, Suita Campus |
| | 14:00 - 15:00 | | Laboratory visit (3) *divide into 3 groups | |
| | 15:00 - 16:00 | | Laboratory visit (4) *divide into 3 groups | |
| | 16:15 - 17:30 | | Go back to Toyonaka Campus | |
| | 17:30 - 18:30 | | Getting-to-know-each-other session | Toyonaka Campus, Osaka University Hall |
| | 18:30 - | | Dinner | Canteen |
| | | | Excursion around Toyonaka Campus (only for applicants) | Minoh Waterfall Illumination, Minoh City, Osaka |
| 22 FRI | 9:00 | | Firm visit | |
| | 9:30 - 11:30 | | Group 1 : Gather at Toyonaka Campus and move on bus | |
| | 11:40 - 12:40 | | The Instant Ramen Museum | Ikeda City, Osaka |
| | 13:00 - 14:30 | | Lunch and move on bus | |
| | 14:40 - 17:10 | | Home Amenity's Experience Studio / Sekisui House, Ltd. | Kizugawa City, Kyoto |
| | 17:30 - | | Move on bus to Toyonaka Campus | |
| | | | To be determined | |
| | 8:30 | | Group 2: Gather at Toyonaka Campus and move on bus | |
| | 10:00 - 11:30 | | The ASICS Institute of Sports Science | Kobe City, Hyogo |
| | 11:40 - 12:40 | | Lunch and move on bus | |
| | 13:00 - 14:30 | | Asahi Breweries Suita Factory | Suita City, Osaka |
| | 14:40 - 15:10 | | Move on bus to Toyonaka Campus | |
| | 15:30 - | | To be determined | |
| 23 SAT | 9:00 | | Osaka Excursion ~ Day 1 OSAKA NORTH AREA ~ | |
| | 9:30 - 10:00 | | Gather at Hotarugaikae Station | Toyonaka City, Osaka |
| | 10:00 - 12:00 | | Travel by train | |
| | 12:00 - 16:00 | | Tour to the Osaka Museum of Housing and Living | Osaka City, Osaka |
| | 16:00 - 16:20 | | Stroll along the Tenjinbashisuji Shopping Street | |
| | 16:20 - 18:30 | | Tour to Tekijuku (The origin of Osaka University) | |
| | 19:00 - 21:00 | | Go to Umeda by train | Umeda (Osaka City) |
| | 21:00 - | | Stroll around the Umeda area | |
| | | | Dinner | Restaurant at Umeda |
| | | | Return to hotel | |
| 24 SUN | 9:00 | | Osaka Excursion ~ Day 2 OSAKA SOUTH AREA ~ | |
| | 9:20 - 10:00 | | Gather at Hotarugaikae Station | |
| | 10:00 - 11:30 | | Travel by train | |
| | 11:30 - 12:00 | | Tour to Osaka Castle | Osaka City |
| | 12:20 - 13:50 | | Go to the Shinsekai area by train | Osaka City |
| | 13:50 - 15:00 | | Lunch (Kushi-Katsu) | Restaurant at Shinsekai |
| | 15:00 - 15:10 | | Stroll around the Shinsekai area | |
| | 15:10 - 18:30 | | Go to Namba by train | |
| | 18:30 - 20:00 | | Stroll around the Namba and Shinsaibashi area | Namba / Shinsaibashi (Osaka City) |
| | * 15:30 | | Tombori River Cruise (Group 1) | |
| | * 16:00 | | Tombori River Cruise (Group 2) | |
| | 18:30 - 20:00 | | Dinner (Okonomiyaki) | Restaurant at Namba |
| | 20:00 - | | Return to hotel | |
| 25 MON | 7:30 | | Awajishima Island Excursion ~Day 1 ~ | |
| | 7:50 - 10:20 | | Gather at Toyonaka Campus | |
| | 10:20 - 10:50 | | Go to Awajishima Island by bus | |
| | 10:50 - 11:50 | | Shopping at "Uzushio-Dome Nanairo-Kan" | Minami-awaji City, Hyogo |
| | 11:50 - 12:10 | | Sightseeing Boat : The Naruto whirlpools | |
| | 12:10 - 14:00 | | Go to the Awajishima Farm by bus | |
| | 14:00 - 15:30 | | Lunch (BBQ) | Restaurant at Awajishima Farm |
| | 15:30 - 16:15 | | Activities in the Awajishima Farm | |
| | 16:15 - | | Go to The Westin Awaji Island by bus | |
| | 17:15 - 18:45 | | Check in the hotel and short break | Awaji City, Hyogo |
| | 19:00 - 21:00 | | Dinner | Restaurant at The Westin Awaji Island |
| | 21:00 - | | Preparation for final presentation | Conference room at the hotel |
| | | | Event to be determined | |
| 26 TUE | 7:30 | | Awajishima Island Excursion ~Day 2 ~ | |
| | 8:30 - 11:00 | | Breakfast | Restaurant at The Westin Awaji Island |
| | 11:00 - 12:10 | | Final presentation and closing | Conference room at the hotel |
| | 12:00 - | | Leave the hotel and go to Sannomiya Station by bus | |
| | | | End up at Sannomiya Station | Kobe City, Hyogo |

(27年2月「同窓会」イベントスケジュール)

AEARU 同窓会 1 日目 (2/13)

| 時間 | ～ 時間 | 項目 |
|-------|---------|------------------------|
| 12:30 | | 集合 (JR京都駅八条口改札アスティロード) |
| 12:40 | | バス乗車 (団体バス乗り場) |
| 12:45 | ～ 13:20 | 平等院へ移動 |
| 13:20 | ～ 13:30 | 集合時間・場所の確認等 |
| 13:30 | ～ 14:30 | 平等院拝観 |
| 14:30 | ～ 16:10 | 自由時間 |
| 16:10 | | 集合・バス乗車 |
| 16:20 | ～ 17:00 | 旅館に移動 |
| 17:00 | ～ 17:15 | チェックイン |
| 18:00 | ～ 20:00 | 夕食 |
| 20:00 | ～ | 翌日の説明 |

AEARU 同窓会 2 日目 (2/14)

| 時間 | ～ 時間 | 項目 |
|-------|---------|-----------------|
| 7:30 | ～ 8:30 | 朝食 |
| 8:50 | | 旅館ロビー集合 |
| 9:00 | | 丸太町通でバス乗車 |
| 9:00 | ～ 9:15 | 夢館に移動 |
| 9:15 | ～ 10:15 | 夢館で着物着付け |
| 10:15 | ～ 10:30 | 茶道資料館に移動 |
| 10:30 | ～ 11:30 | 茶道資料館見学 |
| 11:30 | ～ 11:40 | 夢館に戻る |
| 11:40 | ～ 12:00 | 着物返却 |
| 12:00 | ～ 12:30 | 八つ橋庵とししゅうやかたに移動 |
| 12:30 | ～ 13:30 | 昼食 |
| 13:30 | ～ 14:30 | 生八つ橋作り体験 |
| 14:30 | ～ 14:50 | 清水寺に移動 |
| 14:50 | ～ 15:00 | 集合時間・場所等の確認 |
| 15:00 | ～ 16:10 | 清水寺見学・自由時間 |
| 16:10 | | 集合・バス乗車 |
| 16:20 | ～ 16:50 | 旅館に移動 |
| 17:00 | ～ 19:00 | 夕食 |
| 19:00 | ～ 19:30 | ディスカッション準備 |
| 19:30 | ～ 21:00 | ディスカッション |
| 21:00 | ～ 22:00 | レクリエーションと翌日の説明 |

AEARU 同窓会 3 日目 (2/15)

| 時間 | ～ 時間 | 項目 |
|-------|---------|---------------|
| 7:30 | ～ 8:30 | 朝食 |
| 8:50 | | 荷造りしてロビー集合 |
| 9:00 | | チェックアウト |
| 9:00 | ～ 9:30 | まんがミュージアムまで移動 |
| 9:30 | ～ 12:00 | まんがミュージアム見学 |
| 12:00 | | 解散 |



同窓会の際には、旅館に宿泊し、着物の着付け体験なども女子学生には特に好評だった

3. 2014 年度国際教育交流センタースピーチコンテスト

2014 年度には、以前より実施されている「留学生による日本語スピーチコンテスト」と「海外帰国者スピーチコンテスト」を合同で開催した。「留学からわたしが得たもの」という共通のテーマのもとで、大阪大学で学ぶ外国人留学生と留学帰国者がともにスピーチを披露し、成果を競い合った。事前審査を通過した外国人留学生 8 名と留学帰国者 2 名がスピーチを行い、審査の結果、国際教育交流センター所属の NYESTE ZSOLT さん（日本語集中（研修）コース）が最優秀賞に輝いた。審査委員は、国際教育交流センターの有川友子センター長、千里ロータリークラブ会長の金子薫様、工学研究科の藤田清士教授、国際教育交流センターの村岡貴子教授、大谷晋也准教授が務めた。授賞式では、審査委員長を務めた有川友子 国際教育交流センター長が、参加者のレベルが高く、審査が難航したことに言及し、各受賞者に受賞理由が述べられた。その後、賞状、そして千里ロータリークラブ会長の金子薫様より副賞が授与された。

【2014 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト 受賞者】

| | | | |
|------|---------------------|------------|----------------------|
| 最優秀賞 | NYESTE ZSOLT | 国際教育交流センター | 「謙譲と尊敬」 |
| 優秀賞 | 金 宰漢 | 文学部 | 「短くて長い日本生活」 |
| 優秀賞 | KIM JUNU | 工学部 | 「わたしの観点から見た『観測の重要性』」 |
| 特別賞 | 岩本 莉子 | 外国語学部外国語学科 | 「クリスチャンの自尊心」 |
| 特別賞 | BATTULGA DULGUUN | 法学研究科 | 「両親の愛を理解させてくれた留学」 |
| 特別賞 | LASHKEVICH NATALIYA | 文学部 | 「私を変えた経験」 |
| 特別賞 | HOANG THI KIM DUNG | 経済学部 | 「有意義な人生を目指して！」 |

【参加者と審査委員】



【プログラム】

2014年度大阪大学国際教育交流センター
スピーチコンテスト

主催：大阪大学国際教育交流センター

協賛：国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ

日時：2014年12月22日（月）16：30～18：40

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター1階研修室

↑ プ ロ グ ラ ム ↑

- 総合司会： 国際教育交流センター 特任助教 歳岡冨香
- 16：30～16：35
- ① 開会の挨拶： 国際教育交流センター長 教授 有川 友子
千里ロータリークラブ 会長 金子 薫
- 16：35～16：38
- ② 審査委員紹介： 国際教育交流センター長 教授 有川 友子
千里ロータリークラブ 会長 金子 薫
工学研究科 教授 藤田 清士
国際教育交流センター副センター長 教授 村岡 貴子
国際教育交流センター 准教授 大谷 晋也
- 16：38～16：40
- ③ 説明： スピーチコンテストの流れ、および審査方法の説明
- 16：40～18：10
- ④ 出場者スピーチ： テーマ「留学からわたしが得たもの」
1. クリスチャンの自尊心 岩本 莉子
 2. アメリカで通用するためには 水野 康文
 3. 学校・旅行・友達 蔡 喬修
 4. 謙譲と尊敬 NYESTE ZSOLT
 5. 両親の愛を理解させてくれた留学 BATTULGA DULGUUN
 6. 内省的な留学 LAGRUE EDOUARD
 7. わたしの日本での留学生活 DUTTA GAURAV
 8. 私を変えた経験 LASHKEVICH NATALIYA
 9. 短くて長い日本生活 金 宰漢
 10. 有意義な人生を目指して！ HOANG THI KIM DUNG
 11. わたしの観点から見た「観測の重要性」 KIM JUNU
- 18：10～18：25
- ⑤ 休憩
- 18：25～18：35
- ⑥ 表彰式： 国際教育交流センター長 教授 有川 友子
千里ロータリークラブ 会長 金子 薫
- 18：35～18：40
- ⑦ 閉会の挨拶： 国際教育交流センター副センター長 教授 村岡 貴子
- 18：45～19：05
- ⑧ ティーパーティー： IC Hall @ IRIS（2階）へ移動

【募集要項】

2014 年度大阪大学国際教育交流センター
スピーチコンテスト発表者募集要項

| | |
|--------------------|--|
| 1. 日 時 | 2014 年 12 月 22 日 (月) 午後 16 : 30 ~ 18 : 30 (選考・表彰式・写真撮影を含む) |
| 2. 場 所 | 吹田キャンパス コンベンションセンター 1F 研修室 |
| 3. 題 目 | 「留学から私が出たもの」 ※内容に合わせて副題をつけてください。 |
| 4. 主 催 協 賛 | 大阪大学国際教育交流センター 国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ |
| 5. 応募資格 | ① 本学に在籍する日本語を母語としない留学生 ② 本学の交換留学制度を利用し、海外に 1 学期間以上留学した経験を持つ学生 (学部生院生・国籍を問わない) で大阪大学に在籍している者 |
| 6. 応募方法 | 国際教育交流センターのホームページにある応募用紙 (概要 400 字程度) と学生証コピーをメールに添付して送付してください。または、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室へ提出してください。 |
| 7. 応募用紙 | Word ファイル (Office2003 以上) を以下からダウンロードしてください。 【2014 年度留学生スピーチコンテスト応募用紙】 URL : http://www.ciee.osaka-u.ac.jp/ |
| 8. 応募締切 | 2014 年 11 月 30 日 (日) |
| 9. 書類審査と 発表者の決定 | 応募者の中から書類選考を通過し、実際のスピーチコンテストにて発表して頂く学生へ 12 月 8 日 (月) (予定) までに当選者に直接メールで連絡します。また、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室にて掲示を予定しています。 |
| 10. スピーチ要領 | ・日本語で 8 分以内 (パワーポイント使用可能) ・応募資格者②の方は、日本語で 5 分以内、留学先で使用した主な言語で 3 分以内 |
| 11. 審査基準 | スピーチの内容や構成、メッセージのアピール力や表現能力などを総合的に評価します。言語運用能力は評価項目の一つです。 留学生の場合は、日本語学習歴、滞在期間を考慮して審査を行います。 |
| 12. 表彰・副賞 | スピーチコンテストの後に、表彰式を行います。 ●最優秀賞：賞状・2 万円分図書カード (1 名) ●優 秀 賞：賞状・1 万円分図書カード (2 名) ●特 別 賞：賞状・5000 円分図書カード (4 名) ※出場者全員に参加賞があります。 |
| 13. 応募先・ 問い合わせ先 | 国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室 E-mail : iris@ciee.osaka-u.ac.jp (件名に「スピーチコンテスト応募」と明記してください。) |
| 14. そ の 他 | ・表彰式終了後、IRIS にてティーパーティーを予定しています。 ・受賞者の方々には、海外留学オリエンテーション等において体験談の依頼をする場合があります。 |

4. CIEE 協議会シリーズ—多文化交流の最前線—

例年と同様、平成 26 年 2 月に 3 つの研究協議会を主催した。以下、それぞれの概要とプログラムについて報告する。

2 月 5 日（木）：国立大学法人留学生指導研究協議会

本協議会では文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室長井上卓己氏から「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策」についてのご説明の後、「原点から考える留学生受け入れの意義—地域と住環境における取組から—」をテーマとした協議を行った。まず留学生との交流プログラムを長年実施してきた(公財)とよなか交際交流協会世話人会の安藤綾子氏と大阪大学国際教育交流センター留学生交流情報室 (IRIS) から、そして留学生と日本人など一般学生との混住寮における活動に長年実績を持つ一橋大学阿部仁准教授から事例を紹介し、その後 3 つの分科会にわかれてディスカッションを実施した。



分科会での討議、全体討論を通して、留学生受け入れの意義について改めて検討した。

<出席者：109 名（学内 32 名・学外 77 名）>

2 月 17 日（火）：第 8 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

グローバル化に伴い、国や地域を超えた人、物、情報の動きが激化し、大学においても国際化を巡る動きは一層加速している。本協議会においては、グローバル時代を生き抜くための力の養成と大学における日本語教育を主なテーマとし、異なる学問領域からの情報や知恵の共有を行い、今後の日本語教育・研究への示唆を得たいと考えた。



「支援 (SHIEN) 学」および企業におけるコミュニケーション論の観点から、2 名の専門家の先生方よりご講演をいただくとともに、本センターからも、大学におけるビジネス日本語コミュニケーション教育のデザインと実践について研究発表を行った。全体討論では、様々な立場の参加者から質疑が交わされ、活発な論議が展開された。

<出席者：65 名（学内 33 名・学外 32 名）>

2 月 19 日（木）：大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

第 23 回となる本協議会では、大阪大学国際同窓会の活動報告のあと、日本で働く大阪大学元留学生 5 名（いずれも大阪大学国際同窓会のメンバー）がパネリストとなり、「日本で活躍する大阪大学元留学生と一緒に考えるこれからの日本と国際交流」というテーマでパネルディスカッションを実施した。本協議会ではホストファミリー、家主など、地域にて様々な形で留学生支援に関わるボランティアや国際交流団体関係者等と大阪大学関係者が一堂に会し、留学生支援に関わる本学と地域とのネットワークを更に充実させている。出席者：137 名（学内 26 名・学外 111 名）



平成 26 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会
兼 第 42 回大阪大学留学生教育・支援協議会

主 題：「原点から考える留学生受け入れの意義－地域と住環境における取組から－」

日 時：平成 27 年 2 月 5 日（木）13：30～19：00（懇談会を含む）

場 所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館 3 階阪急電鉄・三和銀行ホール

次 第：（敬称略）

[総合司会 大阪大学国際教育交流センター 有川 友子]

挨拶（13：30－13：40） 大阪大学理事・副学長 東島 清

I. 留学生受入れに関する施策

1 説 明（13：40－14：10）

「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」

文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室長 井上 卓己

2 質疑応答（14：10－14：20）

[Ⅱ&Ⅲ&Ⅳコーディネーター：茨城大学留学生センター 教授 安 龍洙]

II. 事例紹介（14：30－15：30）

1 「留学生との交流プログラムを通してつながる地域と大阪大学」

（公財）とよなか国際交流協会 世話人会 安藤 綾子

大阪大学国際教育交流センター 特任准教授 魚崎 典子

同センター 留学生交流情報室（IRIS）特任職員 村田いづみ

段家 恭子

2 「留学生宿舎から真の国際学生宿舎へ」

一橋大学 国際教育センター 准教授

留学生・海外留学相談室室長 阿部 仁

休憩・移動（15：30－15：45）

III. 分科会「原点から考える留学生受け入れの意義－地域と住環境における取組から－」

（15：45－16：35）

A：「地域にとっての留学生との交流の意義」

ファシリテーター：佐賀大学全学教育機構 准教授 中山亜紀子

B：「地域との交流プログラムをコーディネートする大学にとっての意義」

ファシリテーター：京都大学大学院人間・環境学研究科 講師 藤田 糸子

C：「留学生と日本人など一般学生の混住寮における交流の意義」

ファシリテーター：電気通信大学国際交流センター 教授 池田 裕

IV. 各分科会からの報告と全体討論（16：40－17：10）

閉会の挨拶（17：10－17：20） 大阪大学国際教育交流センター長 有川 友子

第8回 大阪大学専門日本語教育研究協議会
グローバル時代を生き抜く力の養成と大学における日本語教育を考える
—大学から社会への橋渡しを視野に—

日時：2015年2月17日（火） 13:00～17:00

場所：大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター 2階 会議室2

主催：大阪大学国際教育交流センター

[総合司会 大阪大学国際教育交流センター 准教授 義永美央子]

- 13:00-13:05 開会の挨拶 国際教育交流センター センター長 有川 友子
- 13:05-14:10 講演1：不透明な時代における生き方・働き方—支援学の視座から—
静岡大学大学院工学研究科 事業開発マネジメント専攻 教授 館岡 康雄
- 14:10-14:20 休憩
- 14:20-15:10 講演2：グローバル企業におけるブリッジ人材のコミュニケーション
—元日本語学習者のビジネスパーソンの事例を中心に—
大阪大学経済学研究科 経営学系専攻経営情報講座 助教 戎谷 梓
- 15:10-16:00 研究発表：大学におけるビジネス日本語コミュニケーション教育の挑戦
—持続可能な社会と個人の幸福を目指して—
大阪大学国際教育交流センター日本語教育研究チーム特任准教授 金 孝卿
- 16:00-16:05 休憩
- 16:05-16:55 全体討論：グローバル時代を生き抜く力の養成と大学における日本語教育を考える
[司会 大阪大学国際教育交流センター 教授 西口 光一]
- 16:55-17:00 閉会の挨拶 国際教育交流センター 副センター長 村岡 貴子

「第 23 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会」

日時：平成 26 年 2 月 19 日（木） 13：30－16：30

場所：大阪大学 吹田キャンパス

銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール

主催：大阪大学国際教育交流センター

<プログラム>

(敬称略)

13：30－13：40 挨拶 理事・副学長 岡村 康行

13：40－13：55 「大阪大学国際同窓会」の活動について
大阪大学国際同窓会会長 ラナトゥンガ・ヴィジタ

14：00－15：30 パネルディスカッション
「日本で活躍する大阪大学元留学生と一緒に考えるこれからの日本と国際交流」

パネリスト

Ranatunga, Vijitha (ラナトゥンガ・ヴィジタ)

情報科学研究科 2007 卒・ソニー株式会社・スリランカ

郭小龍 (カク・ショウリュウ)

工学研究科 2007 卒・日本 IBM・中国

Sudarto (スダルト)

工学研究科 2009 卒・株式会社ファーストリテイリング・インドネシア

Baidar, Nima (バイダル・ニマ)

工学部 2011 卒・パークレイズ・ネパール

Maina, Victor (マイナ・ヴィクタ)

工学研究科 2009 卒・株式会社 IHI インフラシステム・ケニア

15：30－15：40 挨拶 国際教育交流センター長 有川 友子

15：45－16：30 懇談会

懇談会では松田與三市郎様からのご寄付による国際教育交流センター交流アドバイジング研究チーム助成金より軽食をご用意しております。

5. 総長顕彰・総長奨励賞

総長顕彰は、大阪大学に勤務する教員のうち、教育、研究、社会・国際貢献又は管理運営上の業績が特に顕著であると認められた者を顕彰し、大学の一層の発展を期することを目的として、また、総長奨励賞は、若手教員（概ね 40 歳以下の者）のうち、教育及び研究の業績があると認められるなど、同分野で将来活躍することが期待される者を顕彰し、奨励することを目的として行われている（大阪大学 HP より抜粋）。第 3 回総長顕彰・総長奨励賞（平成 26 年度）において、国際教育交流センター教員 2 名が受賞した。

第 3 回総長顕彰・総長奨励賞（平成 26 年度）受賞者（国際教育交流センター）

| 総長顕彰・ 総長奨励賞 の別 | 部 門 | 受賞者名 | チーム名 | 職 名 | 受 賞 業 績 名 |
|----------------------|---------|-------|----------------|-----|---|
| 総長 顕 彰 | 教 育 部 門 | 村岡 貴子 | 日本語教育 研究チーム | 教 授 | 日本語によるアカデミック・ライティング能力育成に 資する研究成果に基づいた教材開発 |
| 総長奨励賞 | 研 究 部 門 | 義永美央子 | 日本語教育 研究チーム | 准教授 | 科研費基盤 C（課題番号 25370589・日本語教育学研 究の体系化および方法論の確立）の獲得 |

6. 超短期プログラム「アカデミック・ジャパニーズの基礎」

国際教育交流センターでは、平成27年1月30日から2月20日の約3週間、新たな留学生受け入れプログラムである「アカデミック・ジャパニーズの基礎」を実施した。本プログラムの目的は、韓国の学部学生の上級日本語学習者を対象として、日本語によるリーディング、ライティング、オーラルコミュニケーションの能力を総合的に向上させ、かつ研究職やビジネスパーソンとして将来活躍できる人材となるための準備に資することである。参加者は釜山大学から11名、ソウルのカトリック大学から1名の計12名であった。

授業は「1. 大学での研究生活に必要なとされるリテラシーへの理解」「リーディングとライティングのための協働的タスク活動」「オーラルコミュニケーションのための協働的タスク活動」の3種類を段階的に組み合わせた内容で実施した。プログラム期間中には、特にビジネス場面で求められるコミュニケーションについて2回の特別講義を実施し、社会人としての協働的な態度を涵養するとともに、大阪大学の現役の大学院生をビジターとして授業に呼び、ディスカッションを行う機会を設け、アカデミックなコミュニケーション能力養成のための交流活動を行った。プログラム期間中、参加学生は全員がホームステイをして、日本のファミリーと交流し、日本の社会や文化を知る機会も得られた。

本プログラムの参加費は21万円であるが、大阪大学より8万円の「平成26年度総長裁量経費によるフロンティアラボ・ミニ等による超短期留学生受け入れ奨学金」が支給された。プログラムに参加し、所定の成績を修めた者に対しては、2単位が付与された。日本語教育研究チームと短期プログラム開発研究チームが協力してプログラムを運営し、日本語プログラムの提供とともに、学外研修では京都の寺社見学、大阪でのお好み焼きや金平糖作り体験なども実施し、参加者から好評を得た。



写真1：授業風景



写真2：学生によるブックトーク発表会

表 1 : 超短期プログラム「アカデミック・ジャパニーズの基礎」参加者の情報

| | 性別 | 在籍校 | 学年 | 専攻 |
|----|----|----------|----|--------------------------------|
| 1 | F | 釜山大学校 | 1 | Japanese Language & Literature |
| 2 | F | 釜山大学校 | 1 | Mechanical Engineering |
| 3 | F | 釜山大学校 | 2 | Mechanical Engineering |
| 4 | F | 釜山大学校 | 2 | Public Policy |
| 5 | F | 釜山大学校 | 3 | Political Science & Diplomacy |
| 6 | M | 釜山大学校 | 2 | Japanese Language & Literature |
| 7 | M | 釜山大学校 | 2 | Japanese Language & Literature |
| 8 | M | 釜山大学校 | 2 | International trade |
| 9 | M | 釜山大学校 | 2 | International trade |
| 10 | M | 釜山大学校 | 2 | Psychology |
| 11 | M | 釜山大学校 | 4 | Art, culture and image |
| 12 | M | カトリック大学校 | 4 | Japanese Language & Literature |



写真 3 : 京都の寺社見学



写真 4 : 大阪でのお好み焼き・金平糖作り体験

本カリキュラムと教材の開発は日本語教育における長年の課題であった「基礎後の教育の課題」に対する大阪大学としての「答え」であり、今後は出版に向けてさらなる整備を続ける予定である。

* 『A New Approach to Elementary Japanese—テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）

**大阪大学国際教育交流センター編（2013）『留学生大量受け入れ時代に向けた大学における新たな日本語教育スタンダードの構築』研究成果報告書（平成21年度～平成24年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究課題番号 21320093 研究代表者 西口光一）

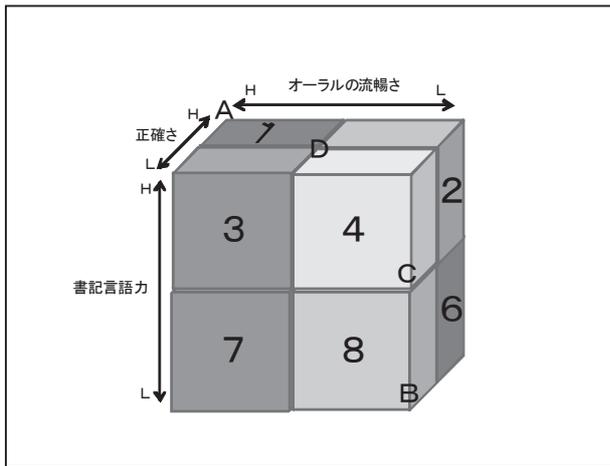


図2 基礎（初級）学習者の日本語力の発達の概念図

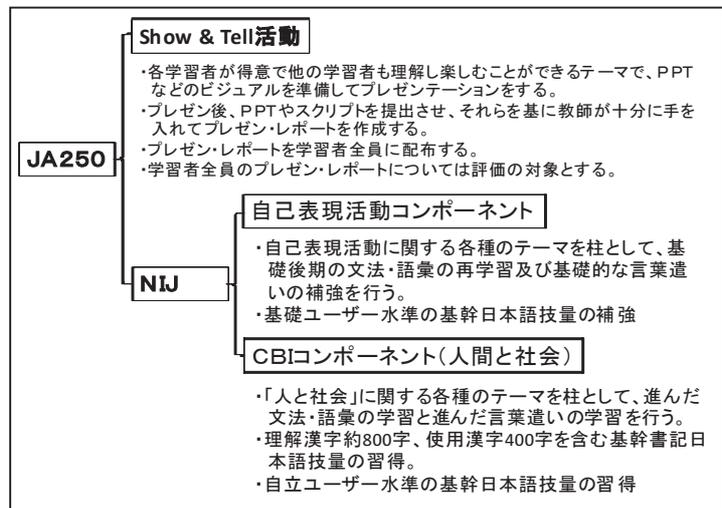


図3 カリキュラムの構想

※ 図は、西口光一（2014）「総合中級日本語のカリキュラム・教材開発のスキーム」『多文化社会と留学生交流』第18号より。

8. 平成26年度部局長裁量未来戦略経費の採択

平成26年度、国際教育交流センターは「部局長裁量未来戦略経費（5,000千円）」に「グローバルキャンパス4WD（Forward）戦略」と題して申請し、申請のあった18件（19部局）の中から、採択された6部局の1件として、平成27年度の予算配分が決定された。申請書類である取組成果報告書に対する総長からのコメントには、①日本語教育研究チーム、②短期プログラム開発研究チーム、③交流アドバイジング研究チーム、④サポートオフィス、による体制への再編整備の結果、大阪大学のグローバル化推進に貢献したとの高い評価と今後への期待が示された。

以下には、国際教育交流センターの有川友子センター長が、平成27年3月17日に開催された部局長懇談会において取組内容及び成果について報告した際の配布資料を添付する。

部局長懇談会 報告資料 平成27年3月17日

**グローバルキャンパス
4WD(Forward)戦略**

質の高い留学生教育・交流・支援
留学生のQOLにつながる環境整備

国際教育交流センター(CIEE)
Center for International Education and Exchange

1

国際教育交流センター
グローバルキャンパス4WD戦略 大阪大学
「留学生4,000人計画」

国際教育交流センター

平成26年
10月1日現在
留学生数
2,356人

2

時間軸でのサポート

「日本の実家」IRIS(留学生交流情報室)

来日前 来日 入学 卒業 卒業後

ビザ申請
宿舎情報提供

ホストファミリープログラム
各種サポート
キャンパスツアー
来日時オリエンテーション

一般学生への留学相談
留学生へのアドバイス及び生活相談

学生活動サポート(留学生会(SO)など)
英語による国際交流科目
日本語による授業
論文発表
研究活動
就職相談コーナー

就職活動講座
就職相談コーナー

国際同窓会

3

学内外コミュニティによるサポート

地域ボランティアとの交流・活動

部局と連携協力したサポート

国際教育交流センター

IRIS

サポートオフィス

国際同窓会

友人・一般学生等を含む学内コミュニティ

学校・諸団体等
地域とのネットワーク

4

日本語教育研究チーム

CIEEにおける日本語教育の特徴

全大阪大学のニーズに柔軟に対応した教育

CIEEで日本語科目受講中・受講経験有の概数
在学留学生の8割強（1,700名程度）

5

全大阪大学のニーズに柔軟に対応した教育

(1) 多様性への対応 ← 一般学生向け外国語教育との違い

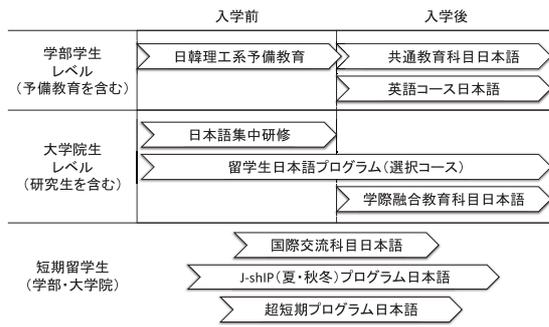
| | |
|--|--|
| 身分・在籍段階 学部入学前 学部正規生 大学院生 研究生 短期留学生 | 日本語レベル 入門レベル ～超上級まで 6レベル |
| 学習ニーズ 研究(アカデミック) 生活コミュニケーション | 背景 専門分野: 理系/文系/社会科学系 母語文化: 出身100カ国以上 漢字圏/非漢字圏 |

多様性への対応

(2) 時間的制約の厳しい教育
学習・研究活動と並行して受講。留学のQOLに直結

6

多様な日本語プログラム



7

受入れ学生数プログラム別(平成26年度)

1) 正規生向け:

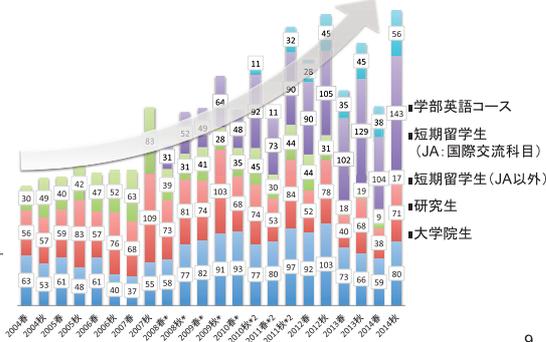
- ・共通教育「日本語科目」(基礎セミナー乗入れ延べ人数): 522名
- ・学部英語コース「日本語科目」: 94名

2) 主として非正規生向け:

- ・日韓共同理工系学部留學生予備教育(毎年後期5-8名)
(第1期第1次~現在まで15年間の合計91名): 7名
- ・日本語集中コース(国費研究留學生向け): 57名
- ・日本語選択コース(大学院生/研究生向け): 276名
- ・国際交流科目JA(短期留學生向け): 247名
- ・J-ShIP(米国/豪州向け夏季・冬季): 66名
- ・超短期(タイ/韓国向け夏季・冬季): 25名

8

留學生日本語プログラム(共通教育、KOSMOS、冬季短期を除く) 履修登録者数の推移



9

短期プログラム開発研究チーム

(1) 短期留學生受入

- ・半年から1年間の交換留學プログラム(OUSSEP)運営・コーディネート(平成25年度134名)
- ・iExPO(部局分散受入)、その他のプログラム支援
- ・学期期間中のJ-ShIPプログラム開発・運営(平成25年度55名)
- ・超短期プログラム開発・運営(平成25年8月実施33名)
- ・FrontierLab@OsakaUのコーディネートに参画
- ・韓国上級者向け超短期プログラム(平成27年2月13名)

(2) 阪大生派遣

- ・交換留學プログラムにつながる相談対応と支援(大学間交換留學推薦者 平成24年度募集119名)
- ・短期語学研修プログラムのコーディネート(「国際交流科目として単位化」平成24年度蒙州モナシユ大学研修41名、平成25年度英国エセックス大学研修39名)

(3) 国際交流科目

- ・英語を教授言語とする授業(平成26年度延べ42科目:日本語科目以外)
- ・短期語学研修プログラムを「国際交流科目」として単位化
- ・国際交流科目に係るコーディネートとFD

10

サポートオフィス

- ・来日前からスタートするビザと宿舎を中心としたサポート
- ・受入部局教職員の負担軽減

(1) ワンストップでのビザ関連手続き支援

CESR(在留資格認定証明書)ウェブ申請 平成25年度 804件

(2) 宿舎情報提供

平成25年度 483名

(3) 各種情報提供(HP、各種ハンドブック、ガイドブック)

"Coming to Osaka", "Living in Osaka"等

(4) 新規来日外国人対象オリエンテーションの実施

平成25年度202名参加

(5) 受入部局担当者対象の研修会・説明会の実施

研修会:平成25年度69名 説明会:平成25年度101名

11

交流アドバイジング研究チーム

(1) 3キャンパスにおいて同じサポート体制

- 吹田IRIS(留學生交流情報室)・豊中分室・箕面分室
- ・相談件数 平成25年度 7,565件(来訪・メール・電話による対応の延べ)
- ・利用者数 平成25年度 36,583名(留學生、日本人など一般學生、ボランティア、学校関係者含む)

(2) 学内関係者との緊密な連携協力体制

- 留學生のQOL向上と問題発生を未然に防ぐ「予防」
- ・大阪大学留學生支援フロントスタッフネットワーク
- ML及び毎年定例4回のミーティング、第64回開催(平成25年12月3日)
- ・大阪大学留學生会(OUISA)等との連携

(3) 地域との連携協力体制

- ・ホストファミリープログラム 平成25年度11の地域団体等と協力 259件組合せ
- ・小中高等学校国際理解教育に協力 平成25年度37件402名の留學生を派遣

(4) 教育の国際化への取組み

- ・「教育の国際化のためのFDワークショップ」平成16年度から25年度 116名
- 「学習者中心のアプローチ」大阪大学教員対象英語による短期集中型ワークショップ

12

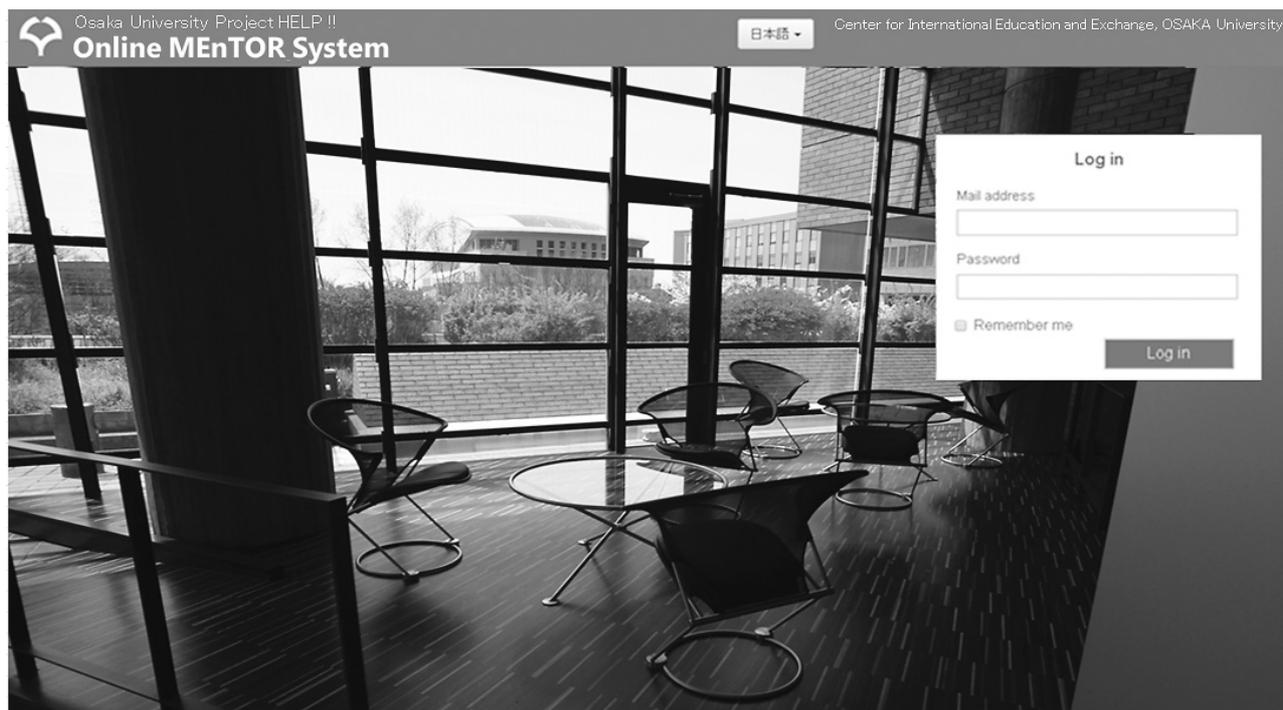
9. Project HELP! 概要

HELP は、Harmonized English Learning Program の略称である。本プロジェクトでは、本学学生と留学生に、英語検定試験（IELTS）対策を媒介とした交流の機会を提供する。具体的には、一定の英語運用能力を持つ留学生が Mentor として、英語圏留学を目指す本学学生（Mentee）に対し、特にスピーキング・ライティング試験にむけた学習の補助を行う。プロジェクトは次の3つを柱とし、それぞれについて、使用、運用にむけた準備を進めている。

- ✓ IELTS 学習用教材の作成
- ✓ Mentor 育成研修プログラム（インターンシップ認定有）の開発
- ✓ Mentee の学習カルテ管理と Mentoring の管理を行う ‘MEnTOR System’ の開発

このプロジェクトにより、英語圏留学を志す本学学生は、スピーキング・ライティングの実践的な学習の機会が得られる。また、留学生にも、本学学生と知り合い、日本文化への理解を深める良い機会となることが期待される。

本プロジェクトに特化したシステム（MEnTOR System）の画面

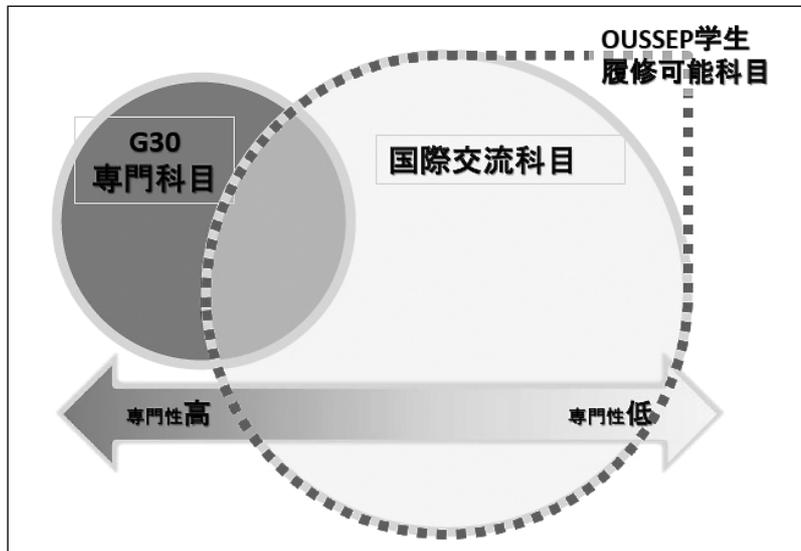


10. OUSSEP（高度教養・専門複合型プログラム）の将来について

高度教養・専門複合型プログラムについては、H19年の阪大・阪外大統合や、日本学生支援機構（JASSO）の奨学金施策と連動しながら、そのあり方を不断に変えてきている。おおざっぱなところでは、H18にはそれまでの「秋入学1年間」のスタイルを、両学期入学、1年もしくは1セメスターの柔軟な受入方法に変え、それに加えて、日本語日本文化研修コースの設置と歩調を合わせた OUSSEP-AJL (Advanced Japanese Learners) の設置を行っている。日本語中心の超短期プログラムである J-ShIP の実施にあわせては、日本語の速成コースを組み込んだバリエーションとして OUSSEP-J (H26年度；実質的には H24、H25年度も) も実施した。これは学内での日本語未習者・初習者を受け入れるプログラムの欠如を埋める試みであった。また JASSO による奨学金支援が各大学のプログラム上限数を撤廃したのに伴い、自主研究に従事する者と従事しない者を区別した OUSSEP-R、Conventional OUSSEP (H26年度) などの運用をした時期もある。H08 生まれの歴史あるプログラムとして、比較的安定的に運用され、また協定校からの信頼も篤い老舗プログラムとして実験的な試みを率先して行いうる条件が整っていた。

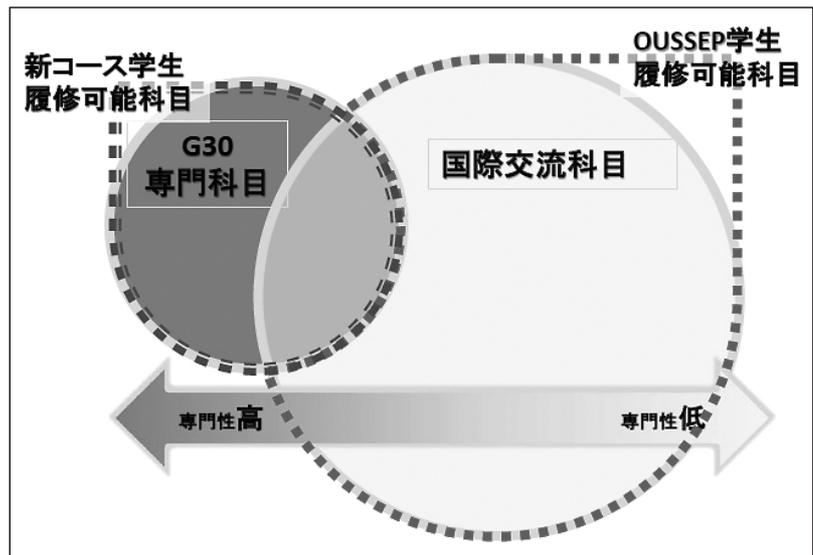
さて、20名ほどで出発した当プログラムも、種々の変遷を経て、各セメスターに80名ほどが在籍、以前は冗談のように話していた「複数台の大型バスでの旅行」も現実のものとなっている。小中学校ではないが「30人学級」あたりが、コーディネータの目が届く適正な規模ではないかと経験的に考えているが、現状ではそのサイズを大きく上回り、早晩何らかの手を打つ必要があると考えられる。

OUSSEP 教育の根幹部分である「国際交流科目」については、一部研究科などからは提供されていないなどの問題はあがあるが、依然として全学からのサポートを頂いており、まさに「高度教養」そして「専門」までを見通した授業構成となっている。そのような中、近年目立つのは各部局で始まっている、特に文系を中心とした「英語正規科目」「専門科目」の国際交流科目への開放である。なかでも G30 などで開設された授業科目についてそのような動きが目立っている。ちなみに、そのような措置によって OUSSEP 学生のみならず「国際交流科目」として、開講部局以外の他学部の学生などが当該科目を受講できる機会が圧倒的に増えた。そのような英断を下して下さった開講部局に対して、OUSSEP の運営にあたっているひとりとして感謝に堪えないところである。



その一方で、どうしても気になるのは、学部正規科目であるにもかかわらず、一旦国際交流化された授業については実質的に「誰でも」受講できることだ。このことにより、本来的な授業参加者である学部正規生と国際交流科目受講者との間に科目に対するギャップが生まれ、結果的に正規学生の「足を引っ張り」また教育の質を損なうことである。参加者の専門分野などを限定しない OUSSEP では、そのあたりを注意深く運営する必要があると考えている。右上図では現行の OUSSEP 学生が受講できる授業範囲を模式化した。

この弊害を除くためには、G30 専門科目などを専ら受講する一群の学生をまとめてプログラム化し、英語コースなどを運営している部局と国際教育交流センターが連携しながら新たなプログラムとして運営してはいかかだろうかと考えている。これは現在の肥大化した OUSSEP からスピナウトするかたちで新プログラムとして位置づけることになり、専門的に配慮しながら正規科目を学ぶ学生グループをプログラム化するという考え方である。学



生の選考や修了認定などについても、実施部局の意向を強く反映させる方向になるだろう。そしてロジスティクスなどについては、これまでのノウハウを活かし、国際教育交流センターの短期プログラムチームがお手伝いをするという目論見である。

各部局で英語による授業が増えていく中、授業の質を担保しながら、高度教養教育という側面が強調されがちな、ある意味雑多な OUSSEP という学生集団から、もう少し学問的な均質性を保った小グループに分割し、それぞれの興味関心に従いつつ、プログラムを運営していくのも一案だろうと考えている。

Ⅱ. 現 況

1. 運営形態

国際教育交流センターは、平成6年に設置された留学生センターが平成22年4月に発展的に改組してできた学内共同教育研究施設である。国際教育交流センターはその最高意思決定機関として国際教育交流センター教授会を置いている。国際教育交流センター教授会は、国際教育交流センター長、国際教育交流センター教員10名（専任教員9名と特任准教授2名、平成25年4月1日現在で以下同様）、及び各研究科から選ばれた教授または准教授15名、計26名の本学教員で構成されている。本教授会において国際教育交流センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月1回（8月を除く）定例教授会が開かれた。

国際教育交流センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の5つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、国際教育交流センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、国際教育交流センター教員連絡調整会議が毎月1回（8月を除く）開催されている。同会議は、国際教育交流センター長と国際教育交流センター教員13名全員（専任教員10名、特任准教授3名、特任助教1名）及び学生交流推進課学生交流企画係長と係員が構成員となっている。この会議を通して、センターの運営や各種業務や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

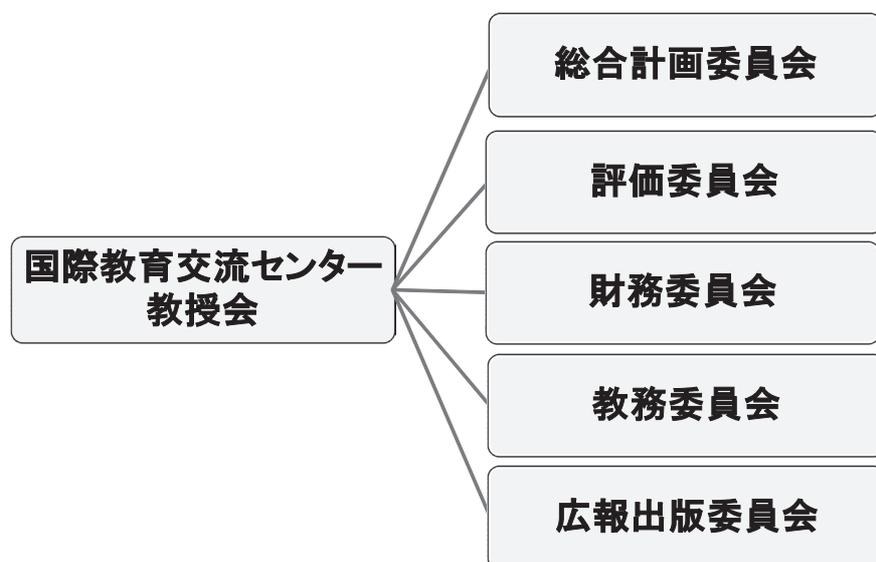


図1 国際教育交流センター教授会と各種委員会

2. 組 織

国際教育交流センターは、交流アドバイジング研究チーム（教授 1、准教授 2）、短期プログラム開発研究チーム（教授 1、准教授 1、特任助教 1）、日本語教育研究チーム（教授 2、准教授 4、特任准教授 2）の 3つのチームとサポートオフィスで構成されている。そして、教員を中心として、特任事務職員（交流アドバイジング研究チーム 2、短期プログラム開発研究チーム 2、日本語教育研究チーム 1、サポートオフィス 2）も参画して、実際の業務にあたっている。

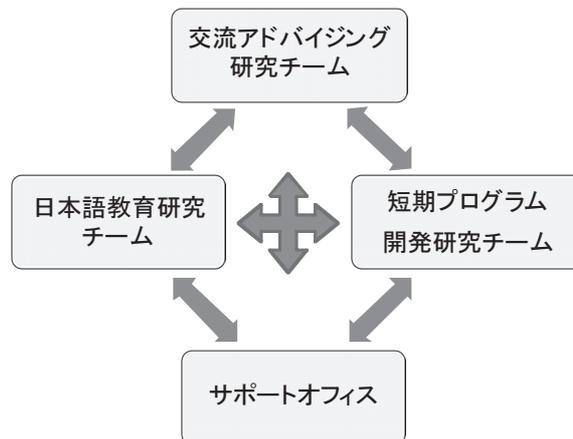


図2 国際教育交流センターのチームとサポートオフィス

また、各チームは必要に応じて相互支援・協力をしながら各種の業務に当たっている。センターが行っている主な業務は以下の通り。

| 教育 | 留学生受け入れ支援 | 海外留学派遣支援 | 地域・社会貢献 | サポートオフィス |
|--|--|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 日本語研修コース 留学生日本語プログラム 国際交流科目 全学共通教育（日本語と多文化コミュニケーション） 全学共通教育基礎セミナー 大学院教育 大学院高度副プログラム、大学院高度プログラム 超域イノベーション博士課程プログラム、未来共生イノベーター博士課程プログラム 学部英語プログラムにおける日本語科目と教養科目 各種の超短期プログラム | <ul style="list-style-type: none"> OUSSEP 運営 超短期プログラムの開発と運営 海外留学相談・アドバイス 留学生オリエンテーション 留学生を対象としたカウンセリング 受け入れ・派遣に関わるコーディネーション 大阪大学留学生会（OUISA）との連携・支援 Brothers and Sisters Program (BSP) の支援 留学生日本語スピーチコンテストの企画・運営 留学生のキャリア支援 | <ul style="list-style-type: none"> 短期派遣留学プログラムの開発と運営 海外留学相談・アドバイス 海外留学・研修等危機管理オリエンテーション 海外留学帰国学生と派遣内定者との交流会 海外留学帰国者スピーチコンテストの企画・運営 | <ul style="list-style-type: none"> 留学生交流情報室（IRIS） 留学生支援ボランティア協議会 いちよう日本語プログラム ホストファミリープログラム 公立学校教員初任者研修 国際理解教育への協力 にほんごテーブル運営のボランティアグループの支援 | <ul style="list-style-type: none"> 新規来日留学生・外国人研究者等への情報提供 ビザ取得手続き等各種手続きのサポート 宿舍手配の支援 新規来日者オリエンテーション 各種ハンドブックやホームページの作成・更新 |
| 研究活動 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育のカリキュラム・教材開発と日本語学習・教育支援システムの開発 多文化社会と留学生交流研究会の開催 留学生指導研究協議会等各種の研究会や研究協議会の開催 日本語教育に関する研究・開発、留学生教育、留学生交流に関する研究 | | | | |

図3 国際教育交流センターの業務の概要

3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等

※ 2014年5月現在

| | | |
|-----------|-----------|---|
| センター長 | | 有川 友子 (Ph.D、Education) |
| 交流アドバイジング | 教授 | 有川 友子 |
| 研究チーム | 准教授 | 伊藤ゆかり (博士 (国際公共政策)) |
| | 准教授 | 魚崎 典子 (特任、博士 (工学)) |
| 短期プログラム開発 | 教授 | 近藤佐知彦 (Ph.D、Social Science) |
| 研究チーム | 准教授 | 宮原 啓造 (Ph.D、Mechanical Engineering) |
| | 助教 | 歳岡 冴香 (特任、博士 (言語文化学)) |
| 日本語教育研究 | 教授・副センター長 | 村岡 貴子 (博士 (言語文化学)) |
| チーム | 教授 | 西口 光一 (博士 (言語文化学)) |
| | 准教授 | 大谷 晋也 (修士 (言語文化学)) |
| | | 難波 康治 (教育学修士) |
| | | 西村 謙一 (法学修士) |
| | | 義永美央子 (博士 (言語文化学)) |
| | | 磯野 英治 (特任、博士 (日本語教育学)) |
| | | 金 孝卿 (特任、博士 (応用言語学)) |
| 兼任教員 | 留学生受入れ | 鄭 聖汝 (講師、文学研究科) |
| | 専門教育教員 | 上田 博司 (講師、人間科学研究科) |
| | | ペドリサ・ルイス (准教授、法学研究科) |
| | | ウィラワン・ドニー・ダハナ (准教授、経済学研究科) |
| | | 浦川 理 (講師、理学研究科) |
| | | 藤田 清士 (教授、工学研究科) |
| | | 寺井 智之 (講師、工学研究科) |
| | | 金子 聖子 (助教、工学研究科) |
| | | 中橋 真穂 (助教、工学研究科) |
| | | 柴山 允留 (講師、基礎工学研究科) |
| 非常勤講師 | | 岡崎 洋三、林 洋子、山崎 深雪、福良 直子、藤澤 好恵、小原 俊彦、 岡田亜矢子、梅本 仁美、伊藤 創、滝井 未来、菅 摂子、浦木 貴和、 井上加寿子、櫻井 千穂、野々口ちとせ、蔭山 拓、上仲 淳、新庄あいみ、 竹内 茜、田中 真衣、大平 幸、花井 理香、村上 康代 |
| 日本語TA | | 藤原 京佳、ブアサエンタム・アノン、陳 雪蓮、笹川恵美子、麻 子軒、 欧 麗賢、甲斐 朋子、仲本 早紀、大河内 瞳 (2014年11月1日から) |
| 特任事務職員 | | 村田いずみ (留学生交流情報室)、段家 恭子 (留学生交流情報室) 川上 圭子 (短期チーム)、山村 賛美 (短期チーム)、 黒川 愛実 (サポートオフィス)、三輪久美子 (サポートオフィス)、 小関 祐子 (日本語教育) |
| 事務補佐員 | | 根津 大輔 (短期チーム)、福井めぐみ (短期チーム) ローラン 恵子 (サポートオフィス)、林 サユリ (サポートオフィス) |

4. 今年度の動き

平成 26 年 4 月 1 日付けで、有川友子教授がセンター長に着任した。古城紀雄元センター長（2006・2007 年度）以来の 2 人目のセンター内からのセンター長である。

4 月 16 日には、金孝卿特任准教授が着任した。金准教授は、ビジネス日本語教育の実践と研究に充実した経験があり、留学生のキャリア支援担当とも連携しながら、大阪大学にふさわしいビジネス日本語教育のカリキュラム・教材の開発と実践が期待されている。

特任事務職員等においてもさまざまな動きがあった。上の 3 にあるように、留学生交流情報室（以下、IRIS とする）のスタッフであった村田いずみさんと新任の段家恭子さんが IRIS の特任事務職員として着任した。また、これまでも日本語教育研究チームの事務補佐員をしてくださっていた小関祐子さんが特任事務職員としてより充実した形で仕事を続けてくださることとなった。短期プログラム開発研究チームでは、新たに川上圭子さんと山村賛美さんが特任事務職員となり、短期プログラムと超短期プログラムをそれぞれ担当してくれている。サポートオフィスにおいても、新たに黒川愛実さんと三輪久美子が特任事務職員として配置され、それぞれビザ関係の業務と宿舎関係の業務を中心となって行っている。他に事務補佐員として、ローラン・恵子さんと林サユリさん（サポートオフィス）、鹿島美夢さん（日本語教育研究チーム）、福井めぐみさん（短期プログラム開発研究チーム）、山下景子さん（センター箕面分室）がそれぞれ採用され、業務を支援してくれている。

Ⅲ. 留学生対象日本語プログラム

国際教育交流センターでは、下記表に見るとおり、全学の留学生を対象に各種日本語プログラムを実施・提供している。学生の身分によって異なる日本語学習ニーズに応じ、総合的な日本語科目および専門日本語科目を中心としたプログラム内容となっている。未習者を対象とした入門レベル（100レベル）から、日本語能力試験N1相当以上の超上級レベル（600レベル）まで6段階のレベルを設定している。

*単位あり正規科目

| 対 象 留 学 生 | プ ロ グ ラ ム 名 | レ ベ ル | |
|---------------------|--------------------|-----------------------|---------|
| 大学院生・研究生 (研究留学生) | 国費大使館推薦 | 1. 留学生日本語集中(研修)コース | 100~300 |
| | 全 学 | 2. 留学生日本語選択コース | 100~600 |
| 学 部 留 学 生 | 一 般 正 規 生 | 3. 全学共通教育：第2外国語/国際教養* | 600 |
| | 学部英語コース | 3'. : 第1外国語* | 100~500 |
| 短 期 留 学 生 | 4. 国際交流科目(日本語)* | 100~500 | |
| 日韓共同理工系留学生プログラム生 | 5. 日韓共同理工系留学生プログラム | 400・500 | |

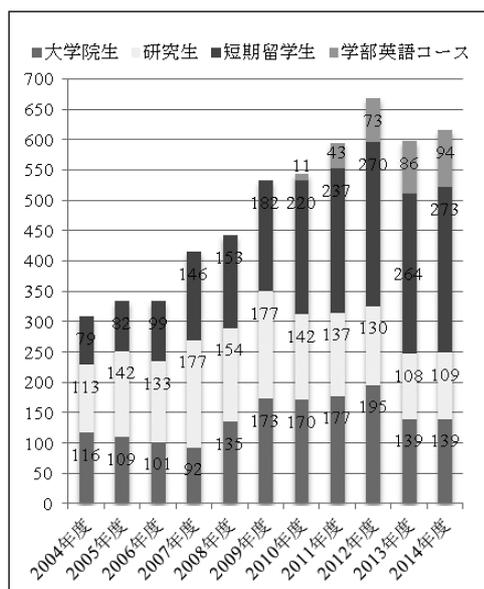


図1 年度ごと身分別履修者数の推移
(学部一般正規生(上表の3)は含んでいない)

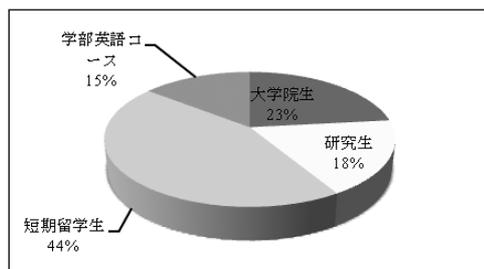


図2 履修者身分別分布

2014年度の春学期・秋学期の履修者数合計は615名で、履修者数が650名を超えた2012年度には及ばないものの、前年度比では18名増となっている(図1)。身分別分布(図2)の44%と最大履修者数を占める短期留学生は、最大の履修者数であった2012年度よりもさらに増加し、273名にのびた。また、G30学部英語コース生も94名と過去最高の履修者数に達している。

10年前(2004年度)と比較すると、総履修者数は約2倍に増加している。2004年度以降の推移(図1)からは、短期留学生増(3.4倍)およびG30学部英語コース新設が日本語履修者数急増の要因となっていることがわかる。G30による留学生増の方針を実現するために開始された学部英語コースや短期留学生の積極的受け入れといった大学の国際化戦略を反映した結果である。

この急増傾向への対応は、OUスタンダードによるカリキュラム開発を加速させ、国際交流科目日本語科目の2トラック体制をさらに拡充するなど着実に実行されている。また、従来課題とされてきた初級レベルと中級レベルの接続について、短期留学生・G30学部英語コース生用クラスで初中級レベルのクラスを新設し、教育の質保証のために力を尽くしている。

上記1~4のプログラムの春学期および秋学期の開講科目の時間割、および、選択コースの履修登録状況は、巻末記載の資料1、資料2に示している。

1. 日本語集中（研修）コース

日本語集中（研修）コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした15週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語研修生の大部分は文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生および短期留学生）も受け入れている。

日本語研修生（以下、学生）は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、IJ100, IJ200, IJ300の3クラス（春学期はIJ150も含む4クラス）に分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期中2回発表会を実施している。1回は、中間発表会で「私のこと（出身地、研究生活、趣味）」について、もう1回は、修了発表会で、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。また、大学での研究活動を行うにふさわしい日本語教育を提供するために、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした教材開発を行い、それらを授業で活用し、さらに改善を重ねている。

(1) IJ100/150 クラス

① 概要

100クラスは、コース開始時に日本語の学習経験が全く、もしくはほとんどない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。例年受講生が多い春学期には、より学生のレベルに応じたきめ細かい教育を実施するため、100/150/200/300の4クラス体制をとっている。100クラスは日本語学習経験が全くない学生、150クラスはカタカナやひらがながかろうじて読め、挨拶程度の日本語が使えるレベルの学生を対象とする。いずれも授業時間数は1週間当たり15コマで、うち4コマを漢字と語彙のクラスにあてている。100/150クラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

② 時間割

第40期・第41期 日本語集中（研修）コース IJ100, IJ150 クラス時間割（平成26年度）

第40期

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---------------------|------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 1時間目 8:50~10:20 | | | アクティビティ IJ100のみ | | |
| 2時間目 10:30~12:00 | チュートリアル (漢字と語彙) IJ100, IJ150 | チュートリアル (漢字と語彙) IJ100, IJ150 | コンピュータと プレゼンテーション IJ100, IJ150 | チュートリアル (漢字と語彙) IJ100, IJ150 | チュートリアル (漢字と語彙) IJ100, IJ150 |
| 12:00~13:00 昼休み | | | | | |
| 3時間目 13:00~14:30 | コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150 | コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150 | コンピュータと プレゼンテーション IJ100, IJ150 | コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150 | コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150 |
| 4時間目 14:40~16:10 | コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150 | コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150 | アクティビティ IJ150のみ | コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150 | コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150 |

第41期

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1時間目 8:50~10:20 | | | コンピュータと プレゼンテーション IJ100 | | |
| 2時間目 10:30~12:00 | チュートリアル (漢字と語彙) IJ100 | チュートリアル (漢字と語彙) IJ100 | コンピュータと プレゼンテーション IJ100 | チュートリアル (漢字と語彙) IJ100 | チュートリアル (漢字と語彙) IJ100 |
| 12:00~13:00 昼休み | | | | | |
| 3時間目 13:00~14:30 | コミュニケーション 行動 IJ100 | コミュニケーション 行動 IJ100 | アクティビティ IJ100 | コミュニケーション 行動 IJ100 | コミュニケーション 行動 IJ100 |
| 4時間目 14:40~16:10 | コミュニケーション 行動 IJ100 | コミュニケーション 行動 IJ100 | | コミュニケーション 行動 IJ100 | コミュニケーション 行動 IJ100 |

(2) IJ200 クラス

① 概 要

200 クラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は1週間当たり12コマで、10コマの200クラス専用授業とチュートリアル1コマおよび選択必修の漢字・語彙クラスで構成されている。なお、「漢字・語彙クラス」は漢字系か非漢字系かに分かれて受講する（下記の時間割参照）。「200クラス日本語（コミュニケーション行動）（IJ200）」は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。

② 時間割

第40期・第41期日本語研修コース200クラス時間割（平成26年度）

第40期・第41期

| | 月 曜 日 | 火 曜 日 | 水 曜 日 | 木 曜 日 | 金 曜 日 |
|---------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1時間目 8:50~10:20 | | | 漢字と語彙 漢字系 JK202 | | 漢字と語彙 非漢字系 JK201 |
| 2時間目 10:30~12:00 | コミュニケーション 行動 IJ200 | コミュニケーション 行動 IJ200 | チュートリアル | 読解 IJ200 | プレゼンテーション 基礎 IJ200 |
| 12:00~13:00 昼休み | | | | | |
| 3時間目 13:00~14:30 | コミュニケーション 行動 IJ200 | コミュニケーション 行動 IJ200 | 読解 IJ200 | コミュニケーション 行動 IJ200 | プレゼンテーション 基礎 IJ200 |
| 4時間目 14:40~16:10 | | | | コミュニケーション 行動 IJ200 | |

※漢字と語彙：JK201は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK202は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

(3) IJ300 クラス

① 概要

300 クラスは、日本語を1～2年、約200～300時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は1週間当たり9コマで、「コミュニケーション行動」5コマ、「文法・読解」2コマ、「漢字と語彙」1コマ、そして個別学習指導（「チュートリアル」）1コマで構成されている。「コミュニケーション行動」はトピックベースの授業で、政府資料等の生教材を使用して読解、聴解、ディスカッション、ライティングを行い、「漢字と語彙」および「文法・読解」で語彙や文法を学習する。

② 時間割

春学期、秋学期とも、同一のトピック・ユニットで学習した。扱ったトピックは、気候・地理、食べる、家族、住む、大阪、男性と女性、若者・教育、環境問題、文化の歴史、社会の歴史である。

第40期・第41期日本語研修コース300クラス時間割（平成26年度）

第40期

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---------------------|--------------------------|----------------|--------------------------|--------------------------|---------|
| 1時間目 8:50～10:20 | | | 漢字と語彙 漢字系 JK302 | 漢字と語彙 非漢字系 JK301 | |
| 2時間目 10:30～12:00 | | 文法・読解 IJ300 | コミュニケーション 行動 IJ300 | コミュニケーション 行動 IJ300 | チュートリアル |
| 12:00～13:00 昼休み | | | | | |
| 3時間目 13:00～14:30 | | 文法・読解 IJ300 | コミュニケーション 行動 IJ300 | コミュニケーション 行動 IJ300 | |
| 4時間目 14:40～16:10 | コミュニケーション 行動 IJ300 | | | | |

第41期

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|---------------------|--------------------------|----------------|--------------------------|--------------------------|---------|
| 1時間目 8:50～10:20 | | | 漢字と語彙 漢字系 JK302 | 漢字と語彙 非漢字系 JK301 | |
| 2時間目 10:30～12:00 | | 文法・読解 IJ300 | コミュニケーション 行動 IJ300 | コミュニケーション 行動 IJ300 | チュートリアル |
| 12:00～13:00 昼休み | | | | | |
| 3時間目 13:00～14:30 | コミュニケーション 行動 IJ300 | 文法・読解 IJ300 | コミュニケーション 行動 IJ300 | コミュニケーション 行動 IJ300 | |
| 4時間目 14:40～16:10 | | | | | |

※漢字と語彙：JK301は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK302は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

○ 2014年4月 日本語集中（研修）コース受講生渡日直後スケジュール

| 日 | 曜日 | 午 前 | 午 後 | 備 考 |
|----|----|--|--|-----------------------------|
| 1 | 火 | | | |
| 2 | 水 | | | |
| 3 | 木 | 追加募集の面接 /placement test | | 講義室 2&3 |
| 4 | 金 | 追加募集の面接 /placement test (予備日) | | 講義室 2&3 この日までに来日 (予定) 国費 |
| 5 | 土 | | | |
| 6 | 日 | | | |
| 7 | 月 | 10:00～ 事務等オリエンテーション (4F 会議室) | 13:00～ 面接・プレテ (Room5,6→Room1,2,3) 16:00～ 研究室訪問 (希望者のみ) | |
| 8 | 火 | (各自市役所等手続き) 追加募集: 面接結果連絡 (午前) | 13:30～ HF との出会いの会 Room1-6 17:00～ 研究室訪問 (希望者のみ) | |
| 9 | 水 | 10:30～ 日本語オリエンテーション (Room5,6→Room1～3) | 研究室訪問 (希望者のみ) | |
| 10 | 木 | 授業開始 | | |
| 11 | 金 | | | |

○ 2014年10月 日本語集中（研修）コース受講生渡日直後スケジュール

| 日 | 曜日 | 午 前 | 午 後 | 備 考 |
|-----|----|---|---|------------|
| 1 | 水 | | | 1日で来日 (予定) |
| 2 | 木 | | | |
| 3 | 金 | 10:30～ 追加募集選考 (Room1,2,3) | ◎津雲台宿舎に入居の学生 18:00～ 寮オリエンテーション (ゆうちょ口座開設) | |
| 6 | 月 | 10:00～ 事務等オリエンテーション (4F 会議室) | 12:00～ 吹田キャンパスツアー ◎津雲台宿舎以外に入居の学生 13:30～ ゆうちょ口座開設 研究室訪問 (学内・希望者のみ) (吹田) 14:00～ | |
| 7 | 火 | 10:30～ 面接・プレテ (Room5,6) | 14:00～15:30 HF との出会いの会 | |
| 8 | 水 | 10:30～ 日本語オリエンテーション (4F 会議室→Room1,2,3) ≪日本語選択コース開始≫ | | |
| 9 | 木 | 日本語集中コース開始 | | |
| 15 | 水 | | 16:30～18:00 アミーゴのバザー (Room5&6) | |
| 20 | 月 | | 16:30～ 自転車講習会 (银杏会館 3F) | |
| 11月 | | | | |
| 4 | 火 | 9:30～11:30 健康診断 (女子) | 13:30～15:30 健康診断 (男子) | |

○ コーディネータ

村岡貴子（全体・IJ200 クラス）、西村謙一（IJ300 クラス）、義永美央子（IJ100, IJ150 クラス）

○ 学生数と身分別内訳（IJ150 は春学期（第 40 期）のみ開講のため秋学期（第 41 期）は“－”と記す）

クラス別 人数

| | IJ100 | IJ150 | IJ200 | IJ300 | 計 |
|------|-------|-------|-------|-------|----|
| 第40期 | 10 | 6 | 7 | 7 | 30 |
| 第41期 | 11 | － | 6 | 10 | 27 |
| 合計 | 26 | 6 | 13 | 13 | 58 |

身分別人数

| | 大使館推薦 ※1 | 教員研修 ※2 | 学内応募 ※3 | 計 |
|------|----------|---------|---------|----|
| 第40期 | 21 | － | 9 | 30 |
| 第41期 | 13 | 7 | 14 | 34 |
| 合計 | 34 | 12 | 23 | 64 |

※1 大使館推薦クラス別内訳

| | IJ100 | IJ150 | IJ200 | IJ300 | 計 |
|------|-------|-------|-------|-------|----|
| 第40期 | 9 | 6 | 4 | 2 | 21 |
| 第41期 | 7 | － | 3 | 3 | 13 |
| 合計 | 16 | 6 | 7 | 5 | 34 |

※2 教員研修クラス別内訳

| | IJ100 | IJ150 | IJ200 | IJ300 | 計 |
|------|-------|-------|-------|-------|---|
| 第40期 | － | － | － | － | － |
| 第41期 | 7 | － | 0 | 0 | 7 |
| 合計 | 7 | 0 | 0 | 0 | 7 |

教員研修生を除く、大使館推薦の配置（進学）先別内訳

| | IJ100 | | IJ150 | | IJ200 | | IJ300 | | 計 |
|------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|----|
| | 学内 | 学外 | 学内 | 学外 | 学内 | 学外 | 学内 | 学外 | |
| 第40期 | 7 | 2 | 4 | 2 | 1 | 3 | 1 | 1 | 21 |
| 第41期 | 4 | 0 | － | － | 5 | 1 | 9 | 1 | 20 |
| 合計 | 11 | 2 | 4 | 2 | 6 | 4 | 10 | 2 | 41 |

※3 学内応募クラス別内訳

| | IJ100 | IJ150 | IJ200 | IJ300 | 計 |
|------|-------|-------|-------|-------|----|
| 第40期 | 1 | 0 | 3 | 5 | 9 |
| 第41期 | 4 | － | 3 | 7 | 14 |
| 合計 | 5 | 0 | 6 | 12 | 23 |

○ 学生出身国と配置（進学）先一覧

研修生の出身国

| 国名 | 第40期 | 第41期 |
|--------------|------|------|
| イラン | 1 | 1 |
| インド | 2 | 0 |
| インドネシア | 1 | 3 |
| エルサルバドル | 1 | 0 |
| オランダ | 1 | 0 |
| キプロス | 1 | 0 |
| グアテマラ | 0 | 1 |
| コートジボワール | 2 | 0 |
| サントメ・プリンシペ | 0 | 1 |
| スーダン | 2 | 0 |
| セネガル | 1 | 0 |
| タイ | 2 | 4 |
| 大韓民国 | 1 | 0 |
| 中国 | 5 | 7 |
| ドイツ | 1 | 0 |
| トルコ | 1 | 0 |
| ニュージーランド | 1 | 0 |
| パナマ | 0 | 1 |
| ハンガリー | 0 | 1 |
| バングラデシュ | 0 | 2 |
| フィリピン | 2 | 1 |
| ブラジル | 0 | 1 |
| 米国 | 0 | 1 |
| ベトナム | 0 | 1 |
| ボスニア・ヘルツェゴビナ | 1 | 0 |
| ボリビア多民族国 | 1 | 0 |
| マケドニア | 1 | 0 |
| マレーシア | 0 | 1 |
| ミャンマー | 1 | 0 |
| ヨルダン | 1 | 0 |
| リトアニア | 0 | 1 |
| 総計 | 30 | 27 |

配置（進学）先一覧

| 配置（進学）先 | 第40期 | 第41期 |
|-----------------|------|------|
| 経済学研究科 | 2 | 0 |
| 理学研究科 | 2 | 1 |
| 法学部 | 1 | 0 |
| 医学系研究科 | 5 | 2 |
| 歯学研究科 | 1 | 1 |
| 工学研究科/工学部 | 2 | 5 |
| 言語文化研究科 | 0 | 2 |
| 国際公共政策研究科 | 2 | 0 |
| 情報科学研究科 | 3 | 3 |
| 生命機能研究科 | 2 | 0 |
| 産業科学研究所 | 1 | 1 |
| 接合科学研究所 | 0 | 2 |
| 免疫学フロンティア研究センター | 1 | 0 |
| 大阪教育大学 | 0 | 7 |
| 大阪市立大学 | 0 | 1 |
| 大阪電気通信大学 | 1 | 0 |
| 奈良先端科学技術大学 | 7 | 0 |
| 和歌山大学 | 0 | 1 |
| 近畿大学 | 0 | 1 |
| 総計 | 30 | 27 |

2. 留学生日本語選択コース

選択コースの主要な履修対象留学生は、すでに研究科において研究活動を開始している全学の大学院生および研究生である。日本語を用いて論文の執筆やプレゼンテーション、口頭コミュニケーションなどの研究活動をするための「専門日本語」科目に力点を置くとともに、その基礎となる「一般日本語」科目として総合日本語科目や漢字と語彙科目も開講し、幅広く学内の留学生の日本語学習ニーズに対応している。

履修登録はすべてウェブ上でを行い、チェックした該当日本語レベル（入門 100 レベルから超上級 600 レベルまでの 6 レベル）の科目群の中から、留学生が各自の日本語学習ニーズと日本語学習に充当可能な時間等を勘案して、必要な科目を週当たり 1～数科目選択できるように設定されている。

○ 開講科目

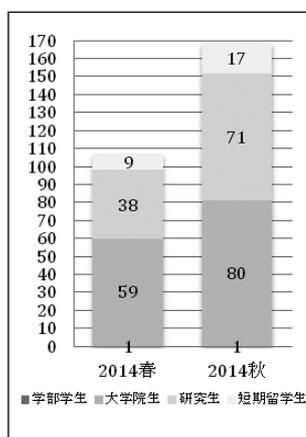
100 から 300 までの入門～中級前半レベルでは、総合日本語・漢字と語彙・文法講義・英文和訳で構成される一般日本語科目を提供している。一方、400 以上の中級～超上級レベルでは、専門をより深く学ぶための日本語を各スキル（リーディング・ライティング・コミュニケーション・プレゼンテーション）ごとに学ぶ専門日本語科目や、キャリア形成を視野に入れたビジネス日本語講義を提供している。

| | 一般日本語科目 | | | | 専門日本語科目 | | | | |
|-------------------|---------------------|----------------------|------------|---------------------------|-------------------|-------------------|----------------------|----------------------|----------------|
| | 総合日本語 (JB) | 漢字と語彙 (JK) | 文法講義 (JG) | 英文和訳 (EJS, EJ1) | アカデミックライティング (JR) | アカデミックライティング (JW) | アカデミックプレゼンテーション (JC) | アカデミックプレゼンテーション (JP) | ビジネス日本語講義 (BS) |
| 100/150 (入門/中級前半) | JB100 ¹⁾ | | | | | | | | |
| 200 (中級) | JB200 ¹⁾ | JK ²⁾ 201 | | | | | | | |
| 300 (中級前半) | JB300 ¹⁾ | JK ²⁾ 301 | | | | | | | |
| 400 (中級後半) | | | JG 300/400 | EJS 300/400 | JR400 | JW400 | JC400 | JP400 | |
| 500 (上級) | | | | EJ1 ³⁾ 500/600 | JR 500/600 | JW 500/600 | JC 500/600 | JP 500/600 | BS 400/500/600 |
| 600 (超上級) | | | | | | | | | |

¹⁾ JA履修者は履修できません。²⁾ 他語で漢字を習得した人のためのクラスです。³⁾ 毎週で漢字を習得する人のためのクラスです。
⁴⁾ 履修登録はウェブ上で行います。1) 履修登録はウェブ上で行います。2) 履修登録はウェブ上で行います。3) 履修登録はウェブ上で行います。4) 履修登録はウェブ上で行います。

○ 履修登録者数

実数で春学期 107 名、秋学期は 169 名、計 276 名が選択コースを履修した。身分別内訳では、大学院生が約半数を占め最も多く、次いで研究生、短期留学生の順となっている。部局別では、工学研究科を筆頭に、19 研究科/学部および 4 研究所 2 センター（巻末に一覧）と、学内の日本語学習ニーズに広く応えていることがわかる。



FALL 2014 Japanese Language Program

Center for International Education and Exchange, Osaka University

Elective Japanese Language Course

Registration period: (Fri) October 3 - (Wed) October 22
 Instruction begins: (Wed) October 8
 For more details, please check Q: <http://www.ciee.osaka-u.ac.jp>

Web履修登録受付期間: 10月3日(金)～10月22日(水)
 秋学期 授業開始: 10月8日(水)
 詳細は Q: <http://www.ciee.osaka-u.ac.jp>

選 択 コー ス

留学生日本語プログラム

大阪大学国際教育交流センター

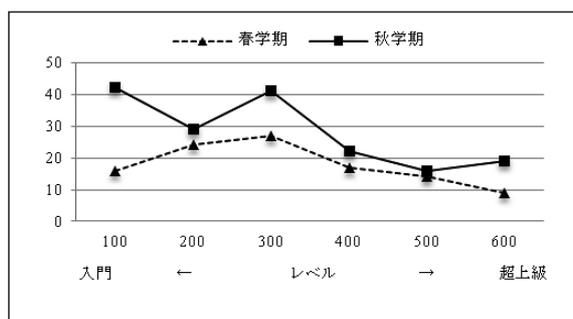
Registration: through the CIEE website

○ 履修者のレベル分布

入門（レベル 100）～中級前半（レベル 300）程度の履修者が多く、その傾向は秋学期においていっそう顕著である。

○ 履修者の出身国・地域

春学期は 33 カ国・地域、秋学期は 39 カ国・地域に及ぶ。



3. 全学共通教育

全学共通教育における日本語関係科目は、他の外国語科目と同様、「第2外国語」と「国際教養2」の科目として開講されている。学部留学生の多様なバックグラウンドやニーズを勘案した結果、科目構成は「総合日本語」「専門日本語」「多文化コミュニケーション（日本語）」の三本立てとし、前二者を「第2外国語」として、後者を「国際教養2」として履修する位置づけとしている（ただし、G30学生は「第1外国語」と「国際教養2」の科目として履修している）。「総合日本語」では大学生活全般に役立つ日本語能力を総合的に身につけることを目指し、「専門日本語」ではより専門的な日本語能力を養成することを目指す。また、「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と一般学生と一緒にプロジェクトワークに取り組むことによって、多文化間における実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的としている。科目の設定にあたっては、各科目の性格を明確にし、学生が自分のレベルやニーズに応じて履修する科目を組み合わせることのできる柔軟性を持たせることに意を用いた。

2009年度に2コマ増設した「多文化コミュニケーション（日本語）」および1コマ増設した「専門日本語」（吹田キャンパスで開講）、2011年度に2コマ増設した「専門日本語」に加え、2014年度は、さらに受講者のニーズに配慮して授業を展開するため、「総合日本語」と「多文化コミュニケーション（日本語）」をそれぞれ2コマずつ増設するとともに、後期からは緩やかな定員制を導入し、語学教育／多文化教育として適切なクラスサイズが実現できるようにした。

以上の留学生向け科目以外に、一般学生が受講する「基礎セミナー」（「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同開講）を加え、計29コマ（実質20コマ）を提供した。

なお、2011年度まで全学共通教育を担ってきた組織である「大学教育実践センター」は発展的に解消され、「全学教育推進機構」が発足して、共通教育は2012年度より新体制の下で実施されている。

○ 全学教育推進機構兼任教員

- ・村岡 貴子 教授：企画開発部言語教育部門
- ・近藤佐知彦 教授：企画開発部海外教育部門
- ・大谷 晋也 准教授：実施調整部言語教育部会

○ 提供科目とコマ数

(1) 第2外国語

- ・総合日本語（1単位：前期3コマ・後期2コマ計5コマ提供）

大学生活全般に役立つ総合的な日本語能力の養成を目的とする。

- ・専門日本語（1単位：前期3コマ・後期3コマ計6コマ提供）

各自の専門を学習・研究する際に役立つ日本語能力の養成を目的とする。

(2) 国際教養2

- ・多文化コミュニケーション（日本語）（2単位：前期5コマ・後期4コマ計9コマ提供）

下記(3)の「多文化コミュニケーションセミナー」を受講する一般学生と、本科目を受講する留学生とが、協働してプロジェクトワークを実践する活動を通じ、多文化社会でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

(3) 基礎セミナー

・多文化コミュニケーションセミナー（2単位：前期5コマ・後期4コマ計9コマ提供）

上記(2)の「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同で開講。

○ 共通教育提供科目・担当者一覧

前 期

後 期

(1) 第2外国語

| 授 業 科 目 名 | 担 当 者 |
|-----------|-------|
| 総合日本語 | 大谷 晋也 |
| 総合日本語 | 金 孝卿 |
| 総合日本語 | 磯野 英治 |
| 専門日本語 | 磯野 英治 |
| 専門日本語 | 難波 康治 |
| 専門日本語 | 村岡 貴子 |

| 授 業 科 目 名 | 担 当 者 |
|-----------|-------|
| 総合日本語 | 磯野 英治 |
| 総合日本語 | 金 孝卿 |
| 専門日本語 | 難波 康治 |
| 専門日本語 | 大谷 晋也 |
| 専門日本語 | 村岡 貴子 |

(2) 国際教養2

| | |
|-------------------|-------|
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 伊藤ゆかり |
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 宮原 啓造 |
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 大谷 晋也 |
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 磯野 英治 |
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 有川 友子 |

| | |
|-------------------|-------|
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 伊藤ゆかり |
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 西村 謙一 |
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 大谷 晋也 |
| 多文化コミュニケーション（日本語） | 磯野 英治 |

(3) 基礎セミナー

| | |
|------------------|-------|
| 多文化コミュニケーションセミナー | 伊藤ゆかり |
| 多文化コミュニケーションセミナー | 宮原 啓造 |
| 多文化コミュニケーションセミナー | 大谷 晋也 |
| 多文化コミュニケーションセミナー | 磯野 英治 |
| 多文化コミュニケーションセミナー | 有川 友子 |

| | |
|------------------|-------|
| 多文化コミュニケーションセミナー | 伊藤ゆかり |
| 多文化コミュニケーションセミナー | 西村 謙一 |
| 多文化コミュニケーションセミナー | 大谷 晋也 |
| 多文化コミュニケーションセミナー | 磯野 英治 |

4. 国際交流科目

本学では、英語（あるいはその他の外国語）で実施する正規科目として国際交流科目を提供している。国際教育交流センターでは、同科目の枠組みで、短期留学生を主な対象として日本語科目を提供している。また、本科目は、学部英語コースの学生も第一外国語科目として履修している。

本年度は、各学期 100 レベルから 500 レベルまでの従来の 5 種類の日本語科目各 2 トラックに加え、初中級レベルとして新たに 1 科目設置した。日本語教育では一般に初級終了段階と中級段階の間に学習者の実際の日本語力と教育内容の間にギャップがあり課題となっており、本学でもその課題が認められたため、新たにカリキュラムを開発し教材を作成して設置したものである。詳細については、以下の※の論文を参照。

各 JA クラスでは、90 分の授業が週に 3 コマ提供され、話す・聞く・読む・書くの各技能が総合的に習得できるようにカリキュラムが編成されている。

※西口光一（2014）「総合中級日本語カリキュラム・教材開発のスキーム」『多文化社会と留学生交流』第 18 号 大阪大学国際教育交流センター

○ 提供科目と担当者一覧

平成 25 年度 春学期

| 授業科目名 | 担 当 者 |
|--------------|-------------------|
| JA100 トラック 1 | 金 孝卿・埋橋 淑子・花井 理香 |
| JA100 トラック 2 | 金 孝卿・櫻井 千穂 |
| JA200 トラック 1 | 磯野 英治・上仲 淳・滝井 未来 |
| JA200 トラック 2 | 磯野 英治・岡崎 洋三・上仲 淳 |
| JA250 | 西口 光一・岡崎 洋三・花井 理香 |
| JA300 トラック 1 | 西口 光一・新庄あいみ |
| JA300 トラック 2 | 西口 光一・蔭山 拓・浦木 貴和 |
| JA400 トラック 1 | 難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵 |
| JA400 トラック 2 | 難波 康治・滝井 未来 |
| JA500 トラック 1 | 大谷 晋也・田中 真衣・小原 俊彦 |
| JA500 トラック 2 | 大谷 晋也・伊藤 創・岡崎 洋三 |

平成 26 年度 秋学期

| 授業科目名 | 担 当 者 |
|--------------|-------------------|
| JA100 トラック 1 | 金 孝卿・岡田亜矢子・花井 理香 |
| JA100 トラック 2 | 金 孝卿・櫻井 千穂 |
| JA200 トラック 1 | 磯野 英治・上仲 淳・滝井 未来 |
| JA200 トラック 2 | 磯野 英治・岡崎 洋三・上仲 淳 |
| JA250 | 西口 光一・岡崎 洋三・花井 理香 |
| JA300 トラック 1 | 西口 光一・新庄あいみ |
| JA300 トラック 2 | 西口 光一・蔭山 拓・浦木 貴和 |
| JA400 トラック 1 | 難波 康治・菅 摂子・藤澤 好恵 |
| JA400 トラック 2 | 難波 康治・滝井 未来 |
| JA500 トラック 1 | 大谷 晋也・田中 真衣・小原 俊彦 |
| JA500 トラック 2 | 大谷 晋也・伊藤 創・岡崎 洋三 |

5. 学際融合教育科目

従来、大学院留学生（正規学生）のための日本語教育は、選択コース（単位なし科目）として提供していたが、大学院における研究活動を遂行するために必要なアカデミックな日本語能力の必要性が高まる中、平成 26 年度より「上級専門日本語・アカデミックリーディング A/B」「上級専門日本語・アカデミックライティング A/B」「上級専門日本語・アカデミックプレゼンテーション A/B」「上級専門日本語・アカデミックコミュニケーション A/B」を学際融合教育科目として、前後期とも提供することになった。

学際融合教育科目は、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指して平成 25 年度より設置された科目区分である。各科目を履修し、所定の評価を得た受講生は 1 科目あたり 2 単位を取得することができる。学期ごとの開講科目名および担当者は下記の通りである。

○ 学際融合教育科目・担当者一覧

| 前 期 | | 後 期 | |
|---------------------------------|-------|---------------------------------|-------|
| 授 業 科 目 名 | 担 当 者 | 授 業 科 目 名 | 担 当 者 |
| 上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) A | 西村 謙一 | 上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) B | 西村 謙一 |
| 上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) A | 村岡 貴子 | 上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) B | 村岡 貴子 |
| 上級専門日本語 (アカデミック・プレゼンテーション) A | 難波 康治 | 上級専門日本語 (アカデミック・プレゼンテーション) B | 難波 康治 |
| 上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) A | 義永美央子 | 上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) B | 義永美央子 |

IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生プログラム（以下、KOSMOS プログラム）とは、日本の国立大学の理工系学部で韓国人留学生を受け入れる留学生事業であり、大阪大学では、プログラム初年度の平成12年度より受入を開始した。本プログラムでは、学部入学前に1年間の予備教育を行っており、前半を韓国で、後半を大阪大学で実施している。

全学的な受け入れ体制のもとで実施されている KOSMOS プログラムは、日本語教育と専門教科教育の2つの教育課程から構成されている。数学、物理、化学、英語といった専門教科は受け入れ学部の専門教育教員が担当し、日本語科目については、国際教育交流センター教員がコーディネーターとなり、授業の計画および実施に携わっている。

週8コマ開講されている日本語科目では、日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションを行い、かつ大学生活で必要とされる総合的な日本語を運用する能力を養成することを目標とし、多様な科目を配置している。さらに、大学では自ら問題を発見し、分析し、その結果を発信する能力が求められることから、発表やディスカッション、レポート作成といった活動も重視している。

また、国際教育交流センターの日本語教育研究チームの教員が「ホームルーム」の時間を活用して生活面でのアドバイスをおこなっている。さらに、交流アドバイジング研究チームとも連携して、課外活動として地域の学校における国際理解教育プログラムへの参加も促している。

1. 時間割

第2次第5期日韓共同理工系学部留学生対象予備教育時間割（平成26年度）2014.10-2015.2

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|----------------------|-------------------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| | (吹田) | (豊中) | (吹田) | (豊中) | (吹田) |
| 1 時間目 8:50-10:20 | | 共通教育 数学聴講 解析学 | 理系 日本語 (村上) Room4 | | |
| 2 時間目 10:30-12:00 | 専門基礎 日本語① (蔭山) Room4 | 専門教科 化学 (立光) C-S4 | 理系 日本語 (村上) Room4 | 日本事情・ 異文化適応 (蔭山) C204 | 専門基礎 日本語③ (上仲) Room 4 |
| 3 時間目 13:00-14:30 | 専門教科 物理 (崔) Room4 | 専門教科 化学 (立光) A311 | ホームルーム | 専門教科 数学 (下村) C-S4 | 専門基礎 日本語④ (上仲) Room 4 |
| 4 時間目 14:40-16:10 | 専門教科 物理 (寺井) Room4 | 専門教科 数学 (宮田) A311 | | 専門基礎 日本語② (磯野) C-S4 | 専門基礎 日本語⑤ (山崎) Room4 |
| 5 時間目 16:20-17:50 | | | | | 英語 (井上) Room 4 |

※月曜日・水曜日・金曜日は吹田で授業（国際教育交流センターICホールで授業）

※時間割は次の順で記載・・・授業名、()内：講師名、下段：講義室名

2. 学生数と進学先

平成 26 年度は、7 名の学生を受け入れた。進学先は、工学部 3 名、基礎工学部 2 名、理学部 2 名である。

3. 平成 26 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会

6 月 27 日に北海道大学が当番校となって日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催され、本学からは寺井智之・工学研究科講師、村岡貴子・本センター教授、西村謙一・同准教授、学生交流推進課の齋藤美佐緒係員と八幡美穂係員の 5 名が参加した。同協議会は、日本の文部科学省と韓国国立国際教育院、日本側受入大学と韓国側の予備教育担当大学である慶熙大学の関係者が一同に会し、予備教育を含めた本事業の現状とその問題点等について認識の共有を図り、より効果的な事業実施に向けて検討を行うことを目的としている。

(1) 日 程：2013 年 6 月 27 日(金)

(2) 場 所：北海道大学学術交流会館

(3) 主な協議内容

(1) 配置実績の少ない大学への学生配置に関する問題

①これまでの学生配置実績の少ないある大学より、配置可能性が見込めないのであれば本事業からの撤退も視野に入れざるを得ず、文部科学省の配置計画等について確認したい旨の発言があった。

②これに関して、本年 4 月にソウルで実施された配置実績の少ない 3 大学の説明会についての紹介があり、地方大学の理工系教育の質は大規模大学のそれと遜色がないこと等、地方大学の利点を粘り強く PR することの重要性が指摘された。

③文部科学省からは、各大学への配置人数の上限をこれまでの 7 名から 5 名にし、あわせて最低配置人数を明確化するなどして、より多くの大学に学生が配置されるような措置を検討していきたい旨の説明があった。

(2) 理工系以外の分野への事業拡大に関する問題

①これまで理工系に限定されていた分野を文科系へも拡大する予定の有無について質問があった。

②文部科学省より、第二次期間中には拡大予定はないものの、第三次には拡大の可能性をさぐることも検討している旨説明があった。ただし、同省としては、分野拡大よりも留学生事業の双方向化により関心があること、分野拡大にあたっては一般の国費学部留学生事業との違いをどのように明確化するか等の課題があることもあわせて指摘された。

③上記議論に関して、本学の寺井講師より、文系・理系別の予備教育の実施方法等の課題があることが指摘された。

(3) 予備教育期間中の成績不良者の進学可否に関する問題

①予備教育期間中の修学態度に問題があって予備教育を修了できない学生への対処について問題提起がなされた。

②北海道大学より、予備教育期間中の成績管理および本事業学生の問題案件への対応について紹介があった。同大学では、予備教育を修了できない学生については学部教育課程への進学を許可しないことを学則に明記して以降、全ての学生が予備教育を予定通りに修了するようになったとのこと。

- ③いくつかの大学での対応事例の紹介が行われ、本学についても村岡教授より受入学部担当教員と本センター教員との間の緊密な連携によって対応している旨紹介した。
- ④日本側から、日本語能力とともに、遅刻や欠席の問題を含む学習態度についても広く事例が紹介された。韓国側からは、今期第2次第4期の学生への予備教育では一層指導を強化した結果、現状では昨年度のような問題はかなり減少しているとの報告があった。
- ⑤文部科学省より、予備教育期間中の成績不良者については学部への進学を認めない対応が可能であること、ただし進学を不許可にする場合には当該学生に対する丁寧なフォローを求めること等について説明があった。また、学部進学後については、一般の学部留学生事業と同様、留年した場合には奨学金を止める対応を求める旨説明があった。

4. 韓国国際教育院および大阪韓国教育院からの来訪者への対応

- (1) 日 程：2015年3月12日(木)
- (2) 場 所：I Cホール4階会議室
- (3) 来訪者：韓国教育部国立国際教育院 Hwang, Hyejeong 氏ほか
対応者：国際教育交流センター 村岡 貴子 教授
 学生交流推進課 今井 京子 課長
- (4) 主な協議内容
 - ①第2次第4期日韓生の学習状況や生活態度に関する件
 - ②本プログラムの大阪大学在籍学生や卒業生の成績や進路等に関する諸問題
 - ③日韓双方の関係者間の連携強化の必要性

V. 国際教養・専門複合型プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（英語名 OUSSEP）は、大阪大学短期留学特別プログラムとして運用を開始された 1996 年以来、国際交流委員会が管掌する本学の交換留学プログラムの中核として 700 人を優に超える交換留学生を受け入れてきた。G30 によって非正規生を含めた留学生の受け入れに数値目標を設定する動きの中で、Junior Year Abroad タイプのプログラムとしての留学生の受け皿として、学内におけるその役割はますます重くなっている。同時に、日本人学生と留学生が英語で専門科目（国際交流科目）を共に学ぶ状況を学内に作るための戦略的プログラムとしての性格も色濃くなっている。なお国際交流科目の一部は「G30 英語コース」の履修科目としても指定されており、様々な背景を持つ学生が一堂に集うカリキュラムが充実している。

平成 26 年度の OUSSEP では、日本学生支援機構の奨学金付与方針の変更に伴い、自主研究を行う学生と行わない学生を一本化して、柔軟運用が出来るようにしている。また主として修学金受給者を主対象として UR 都市機構と連携した宿舎を用意した。職制上変則的ではあるものの、プログラムコーディネータが管理会社の協力の下に運営している。なお平成 20 年度以来、留学生センター所属のコーディネータおよびサブコーディネータの二人体制（教員 1、職員 1）で運用されているが、平成 21 年度には G30 選定に伴い、サブコーディネータが G30 特任職員となり、教員 3（教授、准教授、特任助教）、職員 3（うち特任職員 1 はスーパーグローバル創成支援事業によって増員）並びに事務補佐員 2 名から構成される「短期留学開発研究チーム」により運営されている。また OUSSEP 向け英語授業担当者を対象とした FD 研修会を各学期授業前に開催し、英語授業の質の向上やノウハウの継承に努めている。

1. 行 事

OUSSEP および国際交流科目関係の行事（2014年4月から2015年3月まで）

| 月 | 日 | 曜 日 | 行 事 等 |
|-------|--------------|----------------------------|---|
| 4 | 1 | 火 | 4月受け入れ学生 大阪到着 市役所手続き等（～4/4（金）） |
| | 7 | 月 | 交換留学生オリエンテーション（OUSSEP, FrontierLab, iExPO） |
| | | | 吹田キャンパスツアー |
| | | | OUSSEP オリエンテーション |
| | | | OUSSEP Buddy との顔合わせ 自主研究指導教員面談 |
| | 8 | 火 | UR 学生オリエンテーション ホストファミリーとの出会いの会 |
| | | | 9 |
| | 豊中キャンパスツアー | | |
| | IT オリエンテーション | | |
| | 自主研究指導教員面談 | | |
| 10 | 木 | 国際交流科目（平成26年度第1学期）開始 | |
| 8～14 | | 学生定期健康診断（豊中キャンパス） | |
| 16～24 | | 学生定期健康診断（吹田キャンパス） | |
| 21 | 月 | 国際交流科目（平成26年度1学期）履修届提出締め切り | |
| 5 | 1 | 木 | いちょう祭準備 授業休講 |
| | 2～3 | | いちょう祭 祭日 |
| | 4 | 日 | いちょう祭片付け |
| | 12 | 月 | 自主研究 Registration&Study Plan Form 提出締め切り |
| 6 | 7 | 土 | 見学旅行（高野山） |
| | 8 | 日 | |
| 8 | 4 | 月 | フェアウェルパーティー |
| | 8 | 金 | 国際交流科目（平成26年度第1学期）終了 |
| | 9 | 土 | 夏季休業開始 終了学生随時帰国 |
| 9 | 16 | 火 | 9月受け入れ学生大阪到着（～9/19（金）） 市役所手続き等（～9/25（木）） |
| | 26 | 金 | 吹田オリエンテーション |
| | 29 | 月 | 吹田オリエンテーション |
| | 30 | 火 | 豊中オリエンテーション |
| 10 | 1 | 水 | 国際交流科目（平成26年度2学期）授業開始 |
| | 14 | 火 | 国際交流科目（平成26年度2学期）履修届提出締め切り |
| | 27 | 月 | 自主研究 Registration&Study Plan Form 提出締め切り |
| 11 | 1 | 土 | まちかね祭大学祭（～11/3（月）） |
| | 4 | 火 | My Country & My University 発表会（吹田キャンパス理工学図書館） 大学祭片付け授業なし |
| 12 | 6 | 土 | 見学旅行（宮島・広島） |
| | 7 | 日 | |
| | 23 | 火 | 冬期休業（～1/4（日）） |
| 1 | 16 | 金 | 大学入試センター準備のため休講 |
| 2 | 2 | 月 | フェアウェルパーティー |
| | 13 | 金 | 国際交流科目（平成26年度2学期）終了 |
| | 14 | 土 | 2月終了学生随時帰国 |

2. 2014 年度春学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2014 年度 春学期 OUSSEP 学生名簿

| 番号 | 性別 | 学年 | 国籍 | 在籍大学名 | 配属部局 |
|----|----|----|---------|---------------------------------|-----------|
| 1 | 男 | U4 | アメリカ合衆国 | テキサス A&M 大学 | 外国語学部 |
| 2 | 男 | U3 | アメリカ合衆国 | ワシントン大学 | 外国語学部 |
| 3 | 男 | U5 | アメリカ合衆国 | ジョージア大学 | 人間科学部 |
| 4 | 男 | U3 | アメリカ合衆国 | ジョージア大学 | 人間科学部 |
| 5 | 女 | U4 | インドネシア | ガジャマダ大学 | 工学部 |
| 6 | 女 | U3 | オランダ | グローニンゲン大学 | 人間科学部 |
| 7 | 男 | U3 | カナダ | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 文学部 |
| 8 | 男 | U3 | カナダ | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 経済学部 |
| 9 | 男 | U2 | スウェーデン | リンネ大学 | 人間科学部 |
| 10 | 女 | U3 | スペイン | マドリッド自治大学 | 人間科学部 |
| 11 | 女 | U3 | タイ | チュラロンコン大学 | 文学部 |
| 12 | 女 | U3 | タイ | チュラロンコン大学 | 人間科学部 |
| 13 | 男 | U2 | タイ | マヒドン大学 | 工学部 |
| 14 | 女 | U2 | タイ | マヒドン大学 | 工学部 |
| 15 | 女 | U5 | タイ | チュラロンコン大学 | 人間科学部 |
| 16 | 男 | U2 | タイ | ゲッティンゲン大学 | 人間科学部 |
| 17 | 男 | U3 | ドイツ | アーヘン工科大学 | 工学部 |
| 18 | 女 | M2 | ドイツ | エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学 | 経済学研究科 |
| 19 | 男 | U3 | ドイツ | アウグスブルグ応用化学大学 | 工学部 |
| 20 | 女 | U4 | ドイツ | コペンハーゲン大学 | 文学部 |
| 21 | 男 | M1 | ドイツ | カールスルーエ工科大学 | 基礎工学研究科 |
| 22 | 男 | M1 | ドイツ | アーヘン工科大学 | 情報科学研究科 |
| 23 | 女 | U4 | ドイツ | ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 | 人間科学部 |
| 24 | 女 | U3 | ドイツ | ルール・ボーフム大学 | 経済学部 |
| 25 | 男 | U3 | ドイツ | ルール・ボーフム大学 | 人間科学部 |
| 26 | 男 | U3 | ドイツ | ハイデルベルク大学 | 理学部 |
| 27 | 女 | U3 | フィンランド | オーボアカデミー大学 | 人間科学部 |
| 28 | 男 | U5 | ブラジル | サンパウロ大学 | 基礎工学部 |
| 29 | 女 | U3 | フランス | グルノーブル大学連合 | 文学部 |
| 30 | 男 | U3 | フランス | ストラスブール大学 | 外国語学部 |
| 31 | 男 | U3 | フランス | リール政治学院 | 外国語学部 |
| 32 | 女 | U3 | フランス | リール政治学院 | 外国語学部 |
| 33 | 女 | U3 | ベトナム | ホーンバーン国際大学 | 外国語学部 |
| 34 | 女 | U4 | メキシコ | メキシコ国立自治大学 | 工学部 |
| 35 | 女 | U3 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 外国語学部 |
| 36 | 女 | U3 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 外国語学部 |
| 37 | 女 | U3 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 外国語学部 |
| 38 | 女 | U3 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 外国語学部 |
| 39 | 女 | U3 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 外国語学部 |
| 40 | 女 | M1 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 人間科学研究科 |
| 41 | 男 | M1 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 言語文化研究科 |
| 42 | 男 | U2 | 香港 | 香港科学技術大学 | 基礎工学部 |
| 43 | 男 | U2 | 香港 | 香港科学技術大学 | 基礎工学部 |
| 44 | 女 | M3 | 台湾 | 国立成功大学 | 人間科学研究科 |
| 45 | 男 | U4 | 台湾 | 国立台湾大学 | 理学部 |
| 46 | 女 | U4 | 台湾 | 国立台湾大学 | 経済学部 |
| 47 | 女 | U5 | 台湾 | 国立台湾大学 | 経済学部 |
| 48 | 女 | U4 | 大韓民国 | 慶熙大学校 | 法学部 |
| 49 | 男 | U4 | 大韓民国 | ソウル大学校 | 工学部 |
| 50 | 男 | U3 | 大韓民国 | ジョージア大学 | 外国語学部 |
| 51 | 男 | U3 | 大韓民国 | ジョージア大学 | 人間科学部 |
| 52 | 女 | U3 | 中国 | 浙江大学 | 経済学部 |
| 53 | 女 | U3 | 中国 | 華東政法大学 | 法学部 |
| 54 | 女 | U3 | 中国 | 華東政法大学 | 法学部 |
| 55 | 男 | U3 | 中国 | 浙江大学 | 法学部 |
| 56 | 女 | U3 | 中国 | 北京師範大学 | 人間科学部 |
| 57 | 女 | M2 | 中国 | 同濟大学 | 文学研究科 |
| 58 | 女 | M2 | 中国 | 慶熙大学校 | 国際公共政策研究科 |
| 59 | 女 | U3 | 中国 | ワシントン大学 | 経済学部 |
| 60 | 男 | U3 | 中国 | パデュー大学 | 経済学部 |

2014 年度 春学期 国際交流科目開講リスト

| | 科 目 名 (和 文) | 科 目 名 (英 文) | 科目提供部局 | 主担当教員名 |
|----|--|--|------------|----------------|
| 1 | 哲学的思考と日本の伝統 | Philosophical Thinking and Japanese Traditions | 文学部 | 上野 修 |
| 2 | 異文化理解演習 | Seminar Course for Intercultural Understanding | 外国語学部 | 堀川 智也 |
| 3 | 日本法の諸問題 | Topics in Japanese Law | 法学部 | Pedrizza Luis |
| 4 | バイオエシックスとヘルス・ロー： バイオテクノロジー、先端医療、ヘルスケア・システムにおける法的諸問題 | Bioethics and Health Law: Legal Issues Concerning Biotechnology, Medicine and Health Care System | 法学部 | 瀬戸山 晃一 |
| 5 | 特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題) | Special lecture (Topics in Comparative Contract and Torts Law) | 法学部 | CIANO Leonardo |
| 6 | 入門経済学 | Introduction to Economics | 経済学研究科 | 西村幸浩 |
| 7 | 今日の生物科学 | Selected Topics in Today's Biological Science | 理学部 | 小倉 明彦 |
| 8 | 我が国の保健サービスと医療ケア | Health Service and Medical Care in Japan | 医学部 | 松本 博志 |
| 9 | 応用理工学入門 | Introduction of Mechanical, Materials and Manufacturing Science | 工学部 | 榎本 俊之 |
| 10 | 近代日本文学における大阪 | Osaka in Modern Japanese Literature | 言語文化研究科 | 村上スミス・アンドリュウ |
| 11 | 日本の社会とイデオロギー | Japan: Society and Ideology | 国際教育交流センター | 近藤 佐知彦 |
| 12 | 数学とその工学応用 (I) | Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I) | 国際教育交流センター | 宮原 啓造 |
| 13 | 言語と翻訳 | Language and Translation | 国際教育交流センター | 歳岡 冨香 |
| 14 | オンライン・リソースを活用した L2 学習 | Second Language Learning with Online Resources | 国際教育交流センター | 魚崎 典子 |
| 15 | 日本の社会保障 | Social Security in Japan | 国際教育交流センター | 伊藤 ゆかり |
| 16 | 総合日本語 JA100-トラック1 | Japanese JA100 - Track 1 | 国際教育交流センター | 金 孝卿 |
| 17 | 総合日本語 JA100-トラック2 | Japanese JA100 - Track 2 | 国際教育交流センター | 金 孝卿 |
| 18 | 総合日本語 JA200-トラック1 | Japanese JA200 - Track 1 | 国際教育交流センター | 磯野 英治 |
| 19 | 総合日本語 JA200-トラック2 | Japanese JA200 - Track 2 | 国際教育交流センター | 磯野 英治 |
| 20 | 総合日本語 JA250 | Japanese JA250 | 国際教育交流センター | 西口 光一 |
| 21 | 総合日本語 JA300-トラック1 | Japanese JA300 - Track 1 | 国際教育交流センター | 西口 光一 |
| 22 | 総合日本語 JA300-トラック2 | Japanese JA300 - Track 2 | 国際教育交流センター | 西口 光一 |
| 23 | 総合日本語 JA400-トラック1 | Japanese JA400 - Track 1 | 国際教育交流センター | 難波 康治 |
| 24 | 総合日本語 JA400-トラック2 | Japanese JA400 - Track 2 | 国際教育交流センター | 難波 康治 |
| 25 | 総合日本語 JA500-トラック1 | Japanese JA500 - Track 1 | 国際教育交流センター | 大谷 晋也 |
| 26 | 総合日本語 JA500-トラック2 | Japanese JA500 - Track 2 | 国際教育交流センター | 大谷 晋也 |
| 27 | 自主研究 II-A 自主研究 II-B 自主研究 II-C | Independent Study II-A Independent Study II-B Independent Study II-C | | 各自主研究担当教員 |

3. 2014 年度秋学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2014 年度 秋学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

| 番号 | 性別 | 留学時の学年 | 国籍 | 所属大学 | 配属部局 |
|----|----|--------|---------|------------------------|---------|
| 1 | 男 | U4 | アメリカ合衆国 | ワシントン大学 | 工学部 |
| 2 | 女 | U3 | アメリカ合衆国 | ワシントン大学 | 文学部 |
| 3 | 女 | U4 | アメリカ合衆国 | ワシントン大学 | 法学部 |
| 4 | 男 | U5 | インドネシア | 国立台湾大学 | 経済学部 |
| 5 | 女 | U5 | インドネシア | ガジャマダ大学 | 工学部 |
| 6 | 女 | U3 | オーストラリア | 延世大学校 | 外国語学部 |
| 7 | 男 | U5 | オーストラリア | モナシュ大学 | 工学部 |
| 8 | 女 | U3 | オーストラリア | アデレード大学 | 人間科学部 |
| 9 | 女 | U2 | オーストラリア | アデレード大学 | 人間科学部 |
| 10 | 女 | U3 | オーストリア | ウィーン大学 | 人間科学部 |
| 11 | 男 | U3 | オランダ | デルフト工科大学 | 人間科学部 |
| 12 | 男 | U3 | オランダ | グローニンゲン大学 | 文学部 |
| 13 | 男 | U4 | オランダ | グローニンゲン大学 | 理学部 |
| 14 | 女 | U4 | カナダ | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 外国語学部 |
| 15 | 女 | U3 | カナダ | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 人間科学部 |
| 16 | 男 | U5 | カナダ | マックマスター大学 | 人間科学部 |
| 17 | 女 | U4 | カナダ | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 文学部 |
| 18 | 男 | U3 | カナダ | ブリティッシュ・コロンビア大学 | 文学部 |
| 19 | 男 | U3 | カナダ | マックマスター大学 | 理学部 |
| 20 | 男 | M2 | スウェーデン | スウェーデン王立工科大学 | 基礎工学研究科 |
| 21 | 男 | U2 | スウェーデン | イエーテボリ大学 | 人間科学部 |
| 22 | 女 | U3 | タイ | チュラロンコン大学 | 人間科学 |
| 23 | 男 | U4 | タイ | 泰日工業大学 | 基礎工学部 |
| 24 | 女 | U4 | タイ | カセサート大学 | 経済学部 |
| 25 | 女 | U4 | タイ | カセサート大学 | 経済学部 |
| 26 | 男 | U2 | タイ | マヒドン大学 | 工学部 |
| 27 | 女 | U2 | タイ | マヒドン大学 | 工学部 |
| 28 | 女 | U3 | タイ | チュラロンコン大学 | 文学部 |
| 29 | 女 | U3 | デンマーク | 南デンマーク大学 | 基礎工学部 |
| 30 | 男 | U3 | デンマーク | コペンハーゲン大学 | 人間科学部 |
| 31 | 男 | M2 | ドイツ | ミュンヘン工科大学 | 経済学研究科 |
| 32 | 女 | M2 | ドイツ | ハイデルベルク大学 | 言語文化研究科 |
| 33 | 男 | M1 | ドイツ | ミュンヘン工科大学 | 情報科学研究科 |
| 34 | 女 | M5 | ドイツ | ルール・ボーフム大学 | 人間科学研究科 |
| 35 | 女 | U3 | ドイツ | 南デンマーク大学 | 人間科学部 |
| 36 | 男 | M1 | ドイツ | ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 | 文学研究科 |
| 37 | 女 | U3 | ドイツ | ハイデルベルク大学 | 文学部 |
| 38 | 男 | U3 | ドイツ | ゲッティンゲン大学 | 法学部 |

2014年度 秋学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

| 番号 | 性別 | 留学時の学年 | 国籍 | 所属大学 | 配属部局 |
|----|----|--------|--------|----------------------|---------|
| 39 | 女 | U2 | ドイツ | ハイデルベルク大学 | 法学部 |
| 40 | 女 | M2 | ドイツ | ミュンヘン工科大学 | 理学研究科 |
| 41 | 女 | M2 | ハンガリー | カーロリ・ガースュパール カルビン派大学 | 言語文化研究科 |
| 42 | 女 | U3 | フィリピン | デ・ラ・サール大学 | 外国語学部 |
| 43 | 女 | U4 | フィンランド | オーボアカデミー大学 | 人間科学部 |
| 44 | 女 | U3 | フィンランド | ユヴァスキュラ大学 | 理学部 |
| 45 | 男 | M1 | フィンランド | ユヴァスキュラ大学 | 理学部 |
| 46 | 男 | U4 | ブラジル | リオデジャネイロ州立大学 | 法学部 |
| 47 | 女 | U2 | フランス | リール政治学院 | 外国語学部 |
| 48 | 女 | U2 | フランス | リール政治学院 | 外国語学部 |
| 49 | 女 | U3 | フランス | ストラスブール大学 | 外国語学部 |
| 50 | 女 | U3 | フランス | ストラスブール大学 | 外国語学部 |
| 51 | 女 | U3 | フランス | グルノーブル大学連合 | 文学部 |
| 52 | 男 | U3 | フランス | グルノーブル大学連合 | 文学部 |
| 53 | 女 | U3 | ベトナム | ホーンバーク国際大学 | 外国語学部 |
| 54 | 男 | M2 | ベルギー | ルーヴァンカトリック大学 (Neuve) | 経済学研究科 |
| 55 | 女 | M2 | ベルギー | ルーヴァンカトリック大学 (Neuve) | 経済学研究科 |
| 56 | 女 | U2 | マレーシア | アデレード大学 | 経済学部 |
| 57 | 女 | U4 | メキシコ | メキシコ国立自治大学 | 工学部 |
| 58 | 女 | M2 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 人間科学研究科 |
| 59 | 女 | M2 | ロシア | サンクトペテルブルク大学 | 文学研究科 |
| 60 | 男 | U4 | 香港 | 香港中文大学 | 基礎工学部 |
| 61 | 男 | U3 | 香港 | 香港科学技術大学 | 基礎工学部 |
| 62 | 男 | U3 | 香港 | 香港科学技術大学 | 基礎工学部 |
| 63 | 女 | U3 | 香港 | 香港中文大学 | 経済学部 |
| 64 | 男 | U3 | 香港 | 香港中文大学 | 工学部 |
| 65 | 女 | U5 | 台湾 | 国立台湾大学 | 経済学部 |
| 66 | 女 | U5 | 台湾 | 国立台湾大学 | 理学部 |
| 67 | 男 | U4 | 台湾 | 国立交通大学 | 理学部 |
| 68 | 男 | U3 | 大韓民国 | 釜山大学校 | 工学部 |
| 69 | 女 | U3 | 中国 | 浙江大学 | 経済学部 |
| 70 | 女 | U3 | 中国 | 香港科学技術大学 | 基礎工学部 |
| 71 | 男 | U3 | 中国 | 復旦大学 | 工学部 |
| 72 | 女 | U3 | 中国 | 復旦大学 | 文学部 |
| 73 | 女 | U3 | 中国 | 華東政法大学 | 法学部 |
| 74 | 女 | U3 | 中国 | 華東政法大学 | 法学部 |
| 75 | 女 | U2 | 日本 | ジョージア大学 | 人間科学部 |

2014 年度 秋学期 国際交流科目開講リスト

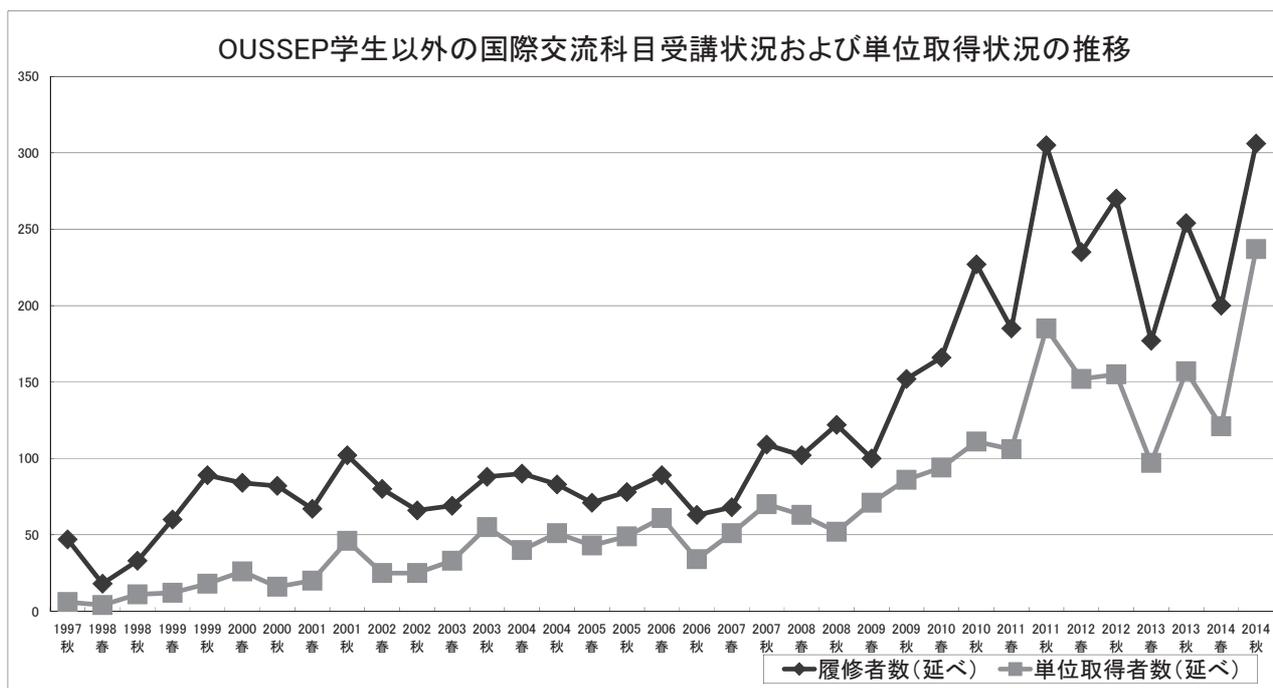
| | 科目名(和文) | 科目名(英文) | 科目提供部局 | 担当教員名 |
|----|--|--|------------|---------------|
| 1 | 日本における文化と言語の多様性 | Cultural and Linguistic Diversity in Japan | 文学研究科 | 川村 邦光 |
| 2 | ジェロントロジー (老年学) 総論 | Issues in Gerontology | 人間科学部 | 上田 博司 |
| 3 | ジェンダー論 | Gender Studies | 人間科学部 | 山本ベバリーアン |
| 4 | グローバル化と大学教育 | Global Issues in Education | 人間科学部 | 石川 真由美 |
| 5 | 多変量統計科学 | Multivariate Statistical Science | 人間科学部 | 足立 浩平 |
| 6 | 高齢者心理学 | Psychology of Aging | 人間科学部 | 権藤 恭之 |
| 7 | 日本のサル学 | Primateology in Japan | 人間科学部 | 中道 正之 |
| 8 | 国際法概論 | International Law | 人間科学部 | 仲宗根 卓 |
| 9 | 社会学 I | Sociology I | 人間科学部 | Viktoriya KIM |
| 10 | 社会学 II | Sociology II | 人間科学部 | Viktoriya KIM |
| 11 | グローバルシティズンシップ | Global Citizenship | 人間科学部 | Christie LAM |
| 12 | 市民社会運動 | Introduction to Civil Society Movements | 人間科学部 | Christie LAM |
| 13 | 人類学 II | Anthropology II | 人間科学部 | Christie LAM |
| 14 | 経済学 II | Economics II | 人間科学部 | Jeremiah MOCK |
| 15 | 異文化理解演習 | Seminar Course for Intercultural Understanding | 外国語学部 | 堀川 智也 |
| 16 | 日本の法・政治制度と法・政治文化入門 | Introduction to Japanese Legal / Political System and Culture | 法学部 | 瀬戸山 晃一 |
| 17 | 比較法の諸問題 | Topics in Comparative Law | 法学部 | ペドリサ・ルイス |
| 18 | 国際経営入門 | Introduction to International Business | 経済学研究科 | 関口 倫紀 |
| 19 | 実験数学 | Experimental Mathematics | 理学部 | 鈴木 譲 |
| 20 | 精密科学入門 | Introduction to Precision Science and Technology | 工学部 | 桑原 裕司 |
| 21 | 地球総合工学入門 ・ 持続可能な開発における 地球総合工学の役割 ・ | Introduction to Global Architecture ・ Role of Global Architecture in Sustainable Development ・ | 工学部 | 木多 道宏 |
| 22 | 近代・現代日本文学 | Japanese Literature, Modern and Contemporary | 言語文化研究科 | 村上スミス・アンドリュウ |
| 23 | 数学とその工学応用(II) | Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II) | 国際教育交流センター | 宮原 啓造 |
| 24 | 翻訳と翻訳者たち | Translation and Translators | 国際教育交流センター | 歳岡 冴香 |
| 25 | 日本のメディアとコミュニケーション | Media and Communications in Japan | 国際教育交流センター | 近藤 佐知彦 |
| 26 | 文化：その理解へのアプローチ | Approaches to Understanding Cultures | 国際教育交流センター | 有川 友子 |
| 27 | コンピュータを活用した語学学習 | Computers in Language Learning | 国際教育交流センター | 魚崎 典子 |
| 28 | 総合日本語 JA100・トラック1 | Japanese JA100 - Track 1 | 国際教育交流センター | 金 孝卿 |
| 29 | 総合日本語 JA100・トラック2 | Japanese JA100 - Track 2 | | |
| 30 | 総合日本語 JA200・トラック1 | Japanese JA200 - Track 1 | 国際教育交流センター | 磯野 英治 |
| 31 | 総合日本語 JA200・トラック2 | Japanese JA200 - Track 2 | | |
| 32 | 総合日本語 JA250 | Japanese JA250 | 国際教育交流センター | 西口 光一 |
| 33 | 総合日本語 JA300・トラック1 | Japanese JA300 - Track 1 | 国際教育交流センター | 西口 光一 |
| 34 | 総合日本語 JA300・トラック2 | Japanese JA300 - Track 2 | | |
| 35 | 総合日本語 JA400・トラック1 | Japanese JA400 - Track 1 | 国際教育交流センター | 難波 康治 |
| 36 | 総合日本語 JA400・トラック2 | Japanese JA400 - Track 2 | | |
| 37 | 総合日本語 JA500・トラック1 | Japanese JA500 - Track 1 | 国際教育交流センター | 大谷 晋也 |
| 38 | 総合日本語 JA500・トラック2 | Japanese JA500 - Track 2 | | |
| 39 | 自主研究 I-A 自主研究 I-B 自主研究 I-C | Independent Study I-A Independent Study I-B Independent Study I-C | | 各自主研究担当教員 |

4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

部局別：OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

| 学部 | 文 | 人科 | 外 | 法 | 経済 | 理 | 医 | 歯 | | |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-------|-------------|------|
| 2014 春 | 17 (11) | 6 (2) | 39 (17) | 20 (14) | 22 (12) | 10 (5) | 7 (4) | 1 (0) | | |
| 2014 秋 | 21 (18) | 17 (12) | 47 (32) | 77 (66) | 24 (17) | 9 (4) | 2 (2) | 2 (2) | | |
| 2014 春・秋合計 | 38 (29) | 23 (14) | 86 (49) | 97 (80) | 46 (29) | 19 (9) | 9 (6) | 3 (2) | | |
| 1996 春から2014 秋の合計 | 426 (264) | 411 (173) | 837 (456) | 538 (291) | 494 (326) | 285 (145) | 126 (55) | 7 (3) | | |
| 学部 | 薬 | 工 | 基工 | 言語 | 国公 | 情報 | 生命 | 高司 | 計 | G/R |
| 2014 春 | 3 (1) | 27 (22) | 41 (27) | 2 (1) | 0 (0) | 1 (1) | 4 (4) | 0 (0) | 200 (121) | 0.61 |
| 2014 秋 | 10 (4) | 22 (14) | 63 (56) | 1 (1) | 7 (7) | 0 (0) | 4 (2) | 0 (0) | 306 (237) | 0.77 |
| 2014 春・秋合計 | 13 (5) | 49 (36) | 104 (83) | 3 (2) | 7 (7) | 1 (1) | 8 (6) | 0 (0) | 506 (358) | 0.71 |
| 1996 春から2014 秋の合計 | 55 (31) | 680 (352) | 435 (257) | 17 (10) | 31 (21) | 15 (8) | 29 (13) | 3 (1) | 4389 (2406) | 0.55 |

いずれも延べ数。()内の数字は単位取得者数を表す。G/Rは、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。



5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み

近年の教育の国際化にともない英語での授業科目が増えている。国際交流科目は、本学の日本人学生や正規留学生などの一般学生と協定校からの交換留学生がともに英語でさまざまな授業を受ける科目であり、提供科目数は年々増え、平成 26 年度も、国際教育交流センターを含む全学のさまざまな学部から多様な授業が行われている。国際教育交流センターではカリキュラムの時間割調整や授業コーディネートをを行っている。

(1) FD オリエンテーション

英語による専門科目授業の質保証のため、当センターでは学期毎に授業担当教員および TA（ティーチングアシスタント）を対象に FD オリエンテーションを豊中と吹田の両キャンパスで実施している。

平成 26 年度 春学期 国際交流科目 担当教員・TA 対象 FD オリエンテーション

- 平成 26 年 4 月 8 日（火）吹田キャンパス コンベンションセンター 1F 研修室 10：30～
- 平成 26 年 4 月 9 日（水）豊中キャンパス 全学教育講義棟 A104 15：30～

<プログラム>

I. 授業を実施頂く上でご配慮いただきたいこと

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. 授業の質保証のための担当教員の実践

～英語による国際交流科目における「授業の質保証」と TA の活用法～

講師：瀬戸山 晃一（大阪大学未来戦略機構 特任教授）

III. 国際交流科目授業アンケートのお願いと前学期の結果報告

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

V. 質疑応答・全体での意見交換

平成 26 年度 秋学期 国際交流科目 担当教員・TA 対象
FD オリエンテーション

- 平成 26 年 9 月 29 日 (月) 吹田キャンパス 情報科学研究科 A109 講義室 13 : 00～
- 平成 26 年 9 月 30 日 (火) 豊中キャンパス 文理融合研究棟 6F 講義室 1 15 : 30～

<プログラム>

I. 授業を実施頂く上でご配慮いただきたいこと

近藤 佐知彦 (国際教育交流センター 教授)

II. 授業の質保証のための担当教員の実践

<吹田> ～Student Engagement in English-medium courses～

《英語で行う授業における学生の主体的・積極的な参画》

講師：山本 ベバリーアン (人間科学研究科 教授)

<豊中> ～教室の中の異文化間交流～

講師：村上 スミス・アンドリュー (言語文化研究科 准教授)

III. 国際交流科目授業アンケートのお願いと前学期の結果報告

近藤 佐知彦 (国際教育交流センター 教授)

V. 質疑応答・全体での意見交換



【近藤教授による説明の風景】



【山本教授による講演の風景】

(2) 授業評価アンケートの実施とフィードバック

授業の質保証の取り組みとして、毎学期数回の授業が行われた時点で、授業の最後に時間をとって受講生アンケートを実施している。アンケートは指定した受講生に回収させ、コピーをとり担当教員に学内便にて返送するとともに、集計して個別の授業の結果及び全体の集計結果を返送し、その学期の後半の授業にアンケートでの受講生の声をフィードバックいただきながら、授業を組み立てていただくよう担当教員の方々にお願いしている。詳しくは巻末資料編の資料5のアンケートのサンプルを参照いただきたい。

また、学期の原則最終授業に同様のアンケートをとり、指定した学生に回収させ、そのコピーと集計結果は、成績評価の締め切り後に担当教員に返送している。

平成 26 年 7 月 2 日

平成 26 年度春学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

担当教員への最終アンケート実施協力をお願い

国際交流科目授業では、平素よりご尽力いただきまして誠にありがとうございます。この度、最終アンケート実施に当たり、貴重な授業時間を割いて頂くこととなり恐縮ですが、どうかよろしくご協力をお願い申し上げます。つきましては最終アンケートをお送りさせていただきます。

英語での国際交流科目の授業の質の確保・向上を目的とし、以下の期間に授業アンケートを実施し、今後の国際交流科目 FD のための貴重な参考資料とさせていただきます。なお集計結果につきましては、成績評価締切後の 9 月頃に返送させていただく予定であります。また FD や教授会等で集計結果を報告する際には、科目名や担当教員が特定できないように取り扱わせて頂きます。

周知のように英語で授業が行われる国際交流科目は、大阪大学の学生を海外の協定校に派遣するために欠かせない短期交換留学生受け入れにとって、その講義の質の確保が強く求められております。

また当該科目は、大阪大学の一般学生の国際化や留学準備においても重要な役割を担うようになってきており、本学の受講生に対する意義と効果を確認することが求められております。

以上の趣旨のご理解と実施へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

実 施 要 領

1. 実施期間：平成 26 年 7 月 9 日（水）～最終授業の授業中
2. 授業を終了時刻より 10～15 分程度早く終わって頂き、教室内で実施。アンケート用紙を配布して頂いた後、教室を退室して頂きます。
3. 同封のアンケートは、交換留学生対象の英語のものと正規留学生や日本人などの一般学生を対象とした日本語のものがあります。
4. アンケートの回収は、こちらで指定した OUSSEP の留学生もしくはスタッフが回収致します。担当教員自らが、回収されないようお願い致します。
5. 回収したアンケートは、こちらでコピーを取り、元本もしくはコピーをご担当の先生（オムニバス方式の授業は代表者）に学内便でお送りします。
6. 選択式の質問に関しては、後日集計結果をお送りさせていただきます。
7. アンケートの結果は、今後の FD 研修や教育研究の目的で利用させて頂く場合もありますので予めご了承をお願い申し上げます。その場合に担当の先生方のお名前を開示することはありません。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センター准教授 宮原啓造 miyahara@ciece.osaka-u.ac.jp

VI. 『超短期』プログラム

平成 20 年度に引き続いて旧留学生センターでは「超短期」プログラムを運用してきており、平成 22 年 2 月に「ナノテクノロジーコース」と「日本語日本文化コース」の二つのプログラムを「Spring Intensive Program 2010」のタイトルの下で「超短期」プログラム 2 つ（ナノテクノロジーと日本語日本文化コース）を並行開催した。平成 22 年度は日本語日本文化研修に集中し、春休みに加えて夏休みのプログラムを開催してきた。

日本学生支援機構（JASSO）によって Short-stay 奨学金が創設された平成 23 年度以降については、東日本大震災の悲劇を受け、単なる「日本語日本文化プログラム」に止まらないプログラム設計を心がけ、急遽「ショートステイ日本語・防災プログラム」として再デザイン。阪神淡路大震災の経験を活かし、世界から注目される「防災・減災」の取り組みについて紹介するプログラムとして運用することに決めた。平成 23 年度夏については 2 サイクル運営をしたことである。前年度のタイ王国での洪水被害に伴い、夏休みのスケジュールが変わったため、例年参加をするタイ王国の協定校から参加が出来ない由の相談を受けた。プログラムの「防災」の主旨にも鑑み、通常の 8 月プログラムに加えて 9 月プログラムを開催して、日本語に親しみつつ、日本の防災実践に触れる機会を提供した。H24 年度は春と秋の二回開催をしたものの、H25 年度は Global 30 が最終年次を迎えることに鑑み、春プログラムについては一旦休止して夏プログラムだけを開催している。

1. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP

J-ShIP は H23 年度夏から新たに創設された。設立に至る経緯や、プログラムのねらいについては近藤 (2012) 等に譲るが、端的に述べれば、秋 Semester 15 週を 5 週ずつの 3 ユニットに分け、1 ユニット (5 週)、2 ユニット (10 週) で日本語を集中的に学習する日本語特化型のプログラムとして案出され、H23 年度に新設された SS プログラム奨学金を最大限獲得する設計となっている。日本語教育開発研究チームの全面的な協力を得て、H23 年度に急遽運営にこぎ着けた。将来的にはそれぞれのレベルにあった 1 ユニット、もしくは連続した 2 ユニットの自由に履修できる環境を理想とする。しかし、立ち上げには、種々の制約から 10 月から 12 月中旬までの 2 ユニット、および 12 月中旬から 1 月末までの 1 ユニットとして運用された。また豪州からの学生を対象にした 12 月よりの 1 モジュールについては、豪州への派遣学生との交流会などを盛り込むことで、SS&SV プログラムとして奨学金の上積みをしているが、実質的には一貫したプログラム設計となっている。

H24 年度については新たに「夏プログラム」も増設、カリフォルニア大学を中心とした米国の協定校の「夏休み」期間にあわせた開講で、数多くのアメリカ人学生に対して、日本語に親しみ、また日本語単位を在籍校において互換しうる機会を提供した。H25 年度にも引き続いて 3 サイクル（夏 2 ユニット、秋 2 ユニット、冬 1 ユニット）のプログラムを開講した。夏の UC を主対象とするプログラムには多数の学生がアメリカおよび香港から集まり成功を取めた。特に平成 25 年 6 月には UC の日本進出 50 周年のイベントが東京で行われたが、同時に UC 関係者多数を招いて大阪でもサブイベントを開催。その際にも J-ShIP が本学と UC とが連携をする際のフラッグシップ的な位置づけとして紹介されている。なお、種々の事情か

ら秋プログラムは参加者なしとなったものの、豪州向け冬プログラムには多数の参加を見た。

H26年度については参加者無しとなった秋プログラムを休止、結果として米国向け 90 コマ 8 週間のサマーインスティテュート (6-8 月)、および豪州向け 45 コマ 5 週間のサマーインスティテュート (12-1 月) の 2 サイクルを運営することになった。それぞれに多数の学生が来学し、特に夏プログラムについては、UC などから予想外に多くの学生が殺到し、教室を「時間差」でやりくりをしながらプログラムの運営を行うことになった。また H26 からは宿舎のオプションとして新たに「ホームステイ」を導入した。また日本学生支援機構からの奨学金支援を受けている。

近藤佐知彦 (2012) SS プログラム J-ShIP の 1 年目 ; 新コンセプトの超短期日本語プログラムへの挑戦 大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流 16 97-106



← オリエンテーション

↓ 広島旅行で被爆者の方の講演を聴く



| | 性別 | 在籍校 | 国籍 | 生年 | 専攻 |
|------------|--------|---|-------|------|---|
| 辞退 | Male | University of California, Santa Barbara | U.S.A | 1994 | CCS Physics BS |
| 1 | Female | University of California Davis | U.S.A | 1991 | International Relations |
| 2 | Female | University of California, Davis | U.S.A | 1994 | Art |
| 3 | Male | University of California, Irvine | U.S.A | 1993 | Chemical Engineering |
| 4 | Male | University of California, Irvine | China | 1995 | Mechanical Engineering |
| 5 | Male | University of California, Irvine | U.S.A | 1995 | Electrical Engineer |
| 6 | Male | University of California, Irvine | U.S.A | 1992 | Business Economics |
| 7 | Female | University of California, Irvine | U.S.A | 1993 | Studio Art |
| 8 | Male | University of California, Irvine | U.S.A | 1993 | Aerospace Engineering |
| 9 | Female | University of California, Los Angeles | China | 1994 | Economics |
| 10 | Male | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1993 | Geography |
| 11 | Male | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1994 | Microbiology, Immunology, and Molecular Genetic |
| 12 | Female | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1994 | Biology |
| 13 | Female | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1995 | Pre-Psychology |
| 14 | Female | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1993 | Geophysics and space physics |
| 15 | Male | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1993 | Music Education |
| 16 | Male | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1995 | Undeclared Engineering |
| 17 | Male | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1993 | History |
| 18 | Male | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1995 | Undeclared |
| 19 | Female | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1993 | Business Economics |
| 20 | Female | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1993 | Music History |
| 21 | Female | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1993 | Japanese |
| 22 | Male | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1992 | Philosophy |
| 23 | Male | University of California, Los Angeles | U.S.A | 1993 | Psychology |
| 24 | Female | University of California, Los Angeles | China | 1993 | Pre Economics |
| 25 | Female | University of California, Los Angeles | China | 1989 | Asian Studies |
| 26 | Female | University of California, Merced | U.S.A | 1995 | Undeclared |
| 27 | Female | University of California, Santa Barbara | China | 1993 | Economics and Accounting |
| 28 | Female | University of California, Santa Barbara | U.S.A | 1994 | Communication |
| 29 | Female | University of California, Santa Barbara | China | 1995 | Communication |
| 30 | Female | University of California, Santa Barbara | U.S.A | 1993 | Global studies |
| 31 | Male | University of California, Santa Barbara | U.S.A | 1987 | Cultural Anthropology |
| 32 | Female | University of California, Santa Barbara | U.S.A | 1995 | Sociology |
| 33 | Female | University of California, Santa Barbara | U.S.A | 1992 | Asian American Studies |
| 34 | Male | University of California, Santa Barbara | China | 1990 | Applied Statistivs |
| 35 | Male | University of California, Santa Barbara | China | 1994 | Physics |
| 36 | Male | University of California, Santa Cruz | U.S.A | 1994 | Computer Science |
| 37 | Male | University of California, Santa Cruz | U.S.A | 1993 | Film and digital media |
| 38 | Female | University of California, Santa Cruz | U.S.A | 1994 | Computer Science |
| 39 | Male | University of California, Berkeley | U.S.A | 1994 | Conservation and Resource studies |
| 40 | Male | University of California, Berkeley | U.S.A | 1993 | Mechanical Engineering |
| 41 | Female | University of California, Berkeley | U.S.A | 1995 | Prospective Comparative Literature |
| 42 | Female | University of California, Berkeley | U.S.A | 1995 | Integrative Biology |
| 43 | Male | University of Kentucky | U.S.A | 1994 | International Studies |
| 44 | Female | University of Kentucky | U.S.A | 1989 | International Economics |
| *参加在籍校順に記載 | | | | | |

(冬の J-ShIP プログラム)



| 2014-2015 Winter J-ShIP (2014.12.8 - 2015.1.30) | | | | | |
|---|--------|------------------------------------|-----------|------|------------------------------------|
| | 性別 | 在籍校 | 国籍 | 生年 | 専攻 |
| 1 | Female | Monash University | Australia | 1995 | Science |
| 2 | Male | Monash University | Malaysia | 1995 | Science advanced |
| 3 | Female | Monash University | Singapore | 1993 | Psychology |
| 4 | Female | Monash University | Hong Kong | 1992 | Languages |
| 5 | Female | Monash University | Singapore | 1995 | Business |
| 6 | Female | Monash University | China | 1994 | Education |
| 7 | Female | Monash University | Australia | 1995 | Languages |
| 8 | Female | Monash University | Australia | 1995 | Japanese |
| 9 | Female | Monash University | Australia | 1995 | Science |
| 10 | Female | Monash University | Australia | 1995 | Science |
| 11 | Female | The University of Melbourne | China | 1994 | Politics and International studies |
| 12 | Female | The Australian National University | Australia | 1994 | Japanese |
| 13 | Female | The Australian National University | China | 1991 | German |
| 14 | Female | The Australian National University | Australia | 1995 | Japanese |
| 15 | Female | The Australian National University | Australia | 1994 | Psychology |
| 16 | Female | The Australian National University | Australia | 1995 | Japanese |
| 17 | Female | The Australian National University | China | 1994 | Japanese |
| 18 | Female | The Australian National University | Australia | 1994 | International Relations |
| 19 | Female | The Australian National University | Hong Kong | 1994 | Anthropology and psychology |
| 20 | Female | The Australian National University | China | 1993 | International Relations |
| 21 | Female | The Australian National University | China | 1993 | Information system |
| 22 | Male | The Australian National University | Malaysia | 1994 | Philosophy |

*参加在籍校順に記載

2. ショートステイ日本語・防災プログラム

H25年度は別項のように「日本語・防災」としての年二回の設計運営を止め、春季プログラムを開催せずに夏季プログラムのみを「日本語・防災」として運営を行った。春季については「アカデミックジャパニーズ基礎」としての開催を図っている。しかし、参加者数は前年度夏季・春季の合計と同程度となり、多くの学生に日本語の学習と日本の防災・減災の実践に触れる機会を提供した。



| 2014-2015 Summer Intensive Program Japanese and Disaster Prevention (2014.8.4 - 2014.8.26) | | | | | |
|---|--------|--|-----------|------|--------------------------------------|
| | 性別 | 在籍校 | 国籍 | 生年 | 専攻 |
| 1 | Male | Mahidol University International College | Thai | 1994 | Computer Engineering |
| 2 | Female | Mahidol University International College | Taiwanese | 1995 | International Hospitality Management |
| 3 | Female | Mahidol University International College | Thai | 1996 | Tourism and Hospitality Management |
| 4 | Female | Mahidol University International College | Thai | 1996 | Computer Engineering |
| 5 | Male | Mahidol University International College | Thai | 1990 | Marketing |
| 6 | Male | Mahidol University International College | Taiwanese | 1995 | International Hospitality Management |
| 7 | Female | Mahidol University International College | Thai | 1995 | Finance |
| 8 | Female | Mahidol University International College | Thai | 1993 | International Business |
| 9 | Female | Mahidol University International College | Thai | 1996 | Computer Engineering |
| 10 | Female | Mahidol University International College | Thai | 1992 | Tourism and Hospitality Management |
| 11 | Female | Mahidol University International College | Thai | 1994 | Marketing |
| 12 | Female | Mahidol University International College | Thai | 1994 | Biology |

Ⅶ. 留学生支援

国際教育交流センター交流アドバイジング研究チームは、吹田キャンパスは留学生交流情報室（IRIS: Information Room for International Students）、豊中キャンパスは国際教育交流センター豊中分室に、箕面キャンパスは国際教育交流センター箕面分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイジング担当教員との密接な連携のもと、留学生支援を継続的に行っている。留学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。定期的に発行する IRIS レター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、学生間の交流の促進の観点から、大阪大学留学生会（OUISA: Osaka University International Student Association）や B.S.P.（Brothers and Sisters Program）の支援も継続して行っている。更に、地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携、地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力も継続して行っている。このほか、短期プログラム開発研究チームの一般学生の海外留学支援にも協力している。

1. 生活・就学支援

(1) 国際教育交流センターにおける相談対応

留学生とその家族が日本で生活する上で、生活習慣や文化に円滑に適応できるようにアドバイスにあたるとともに、さまざまな留学生関連プログラムなどの紹介と情報提供をしている。また、国際交流活動等についての相談にも応じるなど、留学生に対する総合的な支援をしている。

こうした相談や情報提供は、吹田地区ではセンター内の留学生交流情報室（IRIS（あいいりす）は Information Room for International Students の略。以下 IRIS と記す。）にて平日 8 時半～18 時の間、豊中地区では学生会館 2 階の豊中分室で平日 10 時半～17 時の間、箕面分室は原則として平日 10 時半～17 時の間、原則として休業日を除く学期期間中、行っている。表 1 に IRIS、表 2 に豊中分室、表 3 に箕面分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携および、関係部局との連携をしながら留学生の相談対応を実施した。

(2) 新規来日留学生への支援

国際教育交流センター所属及び新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムの案内及び申込受付などを含め、来日前からコンタクトを取っている。来日当初の約一週間のオリエンテーションプログラムを、学生交流推進課や国際教育交流センター日本語教育研究チーム、短期プログラム開発研究チーム等と連携して実施し、学生の円滑な留学がスタートできるように支援した。

国際教育交流センターは、留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、大阪大学留学生ホストファミリープログラム（略称 OHP）を実施している。大阪大学で学ぶ留学生と大阪大学近郊の市民ボランティアが、宿泊ではない、家族ぐるみで気軽な交流活動を行っ

ている。来日前にホストファミリープログラムに申し込んだ学生とホストファミリーのマッチングについては、近隣のボランティア団体や国際交流団体と連携して調整し、来日当初のオリエンテーション期間中に出会いの会を設けて、留学生とホストファミリーが来日初期の段階に出会う機会を設定している。また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、オリエンテーションプログラムの中に研究室訪問の日程を組み、留学生来日前に指導教員と連絡を取り、研究室訪問の日程調整をあらかじめ行った上で実施した。学生間の交流や支援の観点から、B.S.P.の学生によるキャンパスツアー、大阪大学留学生会（OUIA）の活動の紹介を学生達と連携して行った。

表1 大阪大学留学生センター留学生交流情報室「IRIS」の相談状況及び来室・利用状況

平成26年度相談対応延べ状況

| 項目 \ 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 交流 | 72 | 109 | 219 | 240 | 54 | 81 | 346 | 490 | 302 | 419 | 316 | 78 | 2726 |
| 日本語 | 49 | 11 | 4 | 4 | 3 | 3 | 53 | 10 | 12 | 8 | 2 | 8 | 167 |
| 奨学金 | 11 | 1 | 3 | 18 | 2 | 1 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 | 4 | 47 |
| 保証人 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 住居保証人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 医療 | 10 | 1 | 3 | 5 | 4 | 2 | 8 | 3 | 1 | 4 | 0 | 0 | 41 |
| 入管関係 | 3 | 0 | 2 | 4 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 13 |
| 家族について | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 就職 | 8 | 9 | 6 | 7 | 23 | 4 | 30 | 8 | 6 | 13 | 3 | 11 | 128 |
| 住居 | 6 | 0 | 2 | 1 | 0 | 3 | 1 | 1 | 2 | 8 | 1 | 0 | 25 |
| 各種情報提供 | 166 | 85 | 78 | 86 | 47 | 69 | 181 | 104 | 74 | 83 | 76 | 71 | 1120 |
| 生活用品 | 16 | 8 | 13 | 23 | 8 | 6 | 18 | 18 | 25 | 36 | 7 | 15 | 193 |
| 学習・研究 | 6 | 0 | 4 | 6 | 3 | 0 | 2 | 1 | 6 | 2 | 1 | 3 | 34 |
| 事故・トラブル | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 4 | 0 | 1 | 16 |
| 引越 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| アルバイト | 5 | 5 | 1 | 0 | 8 | 13 | 2 | 2 | 1 | 0 | 11 | 10 | 58 |
| ホストファミリー | 26 | 16 | 31 | 201 | 70 | 46 | 49 | 12 | 4 | 56 | 80 | 42 | 633 |
| ホームステイ | 2 | 0 | 8 | 1 | 1 | 17 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29 |
| 海外留学相談 | 3 | 3 | 0 | 2 | 5 | 3 | 2 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 22 |
| 問合わせ等(学外) | 35 | 44 | 23 | 43 | 30 | 51 | 52 | 56 | 43 | 60 | 45 | 49 | 531 |
| その他 | 21 | 5 | 32 | 35 | 37 | 20 | 68 | 23 | 31 | 26 | 22 | 4 | 324 |
| 計 | 443 | 300 | 430 | 676 | 295 | 321 | 815 | 734 | 514 | 720 | 567 | 299 | 6114 |

相談対応件数推移

| 年度 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 件数 | 2877 | 3496 | 3461 | 4125 | 4246 | 5163 | 5280 | 5366 | 5405 | 5124 | 5087 | 4675 | 4880 | 4489 | 4413 | 5112 | 4517 | 5553 | 6114 |

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

| 年度 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 件数 | 16450 | 17848 | 17996 | 18025 | 18077 | 19255 | 19356 | 19934 | 19532 | 19574 | 20909 | 20107 |

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|-------|
| 留学生 | 1731 | 1380 | 2109 | 2062 | 504 | 519 | 2373 | 2066 | 1643 | 1854 | 886 | 288 | 17415 |
| 日本人学生 | 356 | 104 | 157 | 108 | 53 | 68 | 221 | 182 | 69 | 112 | 101 | 67 | 1598 |
| その他・一般 | 81 | 64 | 61 | 103 | 125 | 75 | 115 | 113 | 76 | 112 | 76 | 93 | 1094 |
| 合計 | 2168 | 1548 | 2327 | 2273 | 682 | 662 | 2709 | 2361 | 1788 | 2078 | 1063 | 448 | 20107 |

*ここでいう「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表2 大阪大学留学生センター豊中分室の相談状況 及び来室・利用状況

平成26年度相談対応延べ状況

| 項目 \ 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----------|-----|-----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 交流 | 36 | 15 | 9 | 6 | 4 | 8 | 17 | 6 | 4 | 13 | 6 | 3 | 127 |
| 日本語 | 9 | 2 | 1 | 0 | 1 | 4 | 13 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 39 |
| 奨学金 | 9 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 | 4 | 4 | 31 |
| 保証人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 住居保証人 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 6 | 14 |
| 医療 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 |
| 入管関係 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 11 |
| 家族について | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 就職 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 15 |
| 住居 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 13 |
| 各種情報提供 | 78 | 39 | 20 | 17 | 12 | 21 | 33 | 19 | 13 | 16 | 19 | 19 | 306 |
| 生活用品 | 4 | 0 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 11 |
| 学習・研究 | 1 | 1 | 1 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 18 |
| 事故・トラブル | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 引越 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| アルバイト | 4 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 9 |
| ホストファミリー | 14 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 21 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 46 |
| ホームステイ | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 海外留学相談 | 41 | 45 | 24 | 16 | 4 | 16 | 26 | 11 | 12 | 7 | 3 | 5 | 210 |
| 問い合わせ(学外) | 1 | 1 | 3 | 2 | 1 | 0 | 1 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 18 |
| その他 | 7 | 2 | 3 | 3 | 0 | 3 | 0 | 2 | 2 | 3 | 0 | 1 | 26 |
| 合計 | 212 | 114 | 71 | 63 | 29 | 62 | 122 | 58 | 37 | 47 | 44 | 47 | 906 |

相談対応件数推移

| 年度 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|-----|
| 件数 | 909 | 2053 | 2607 | 3056 | 2843 | 2294 | 1352 | 1164 | 1139 | 805 | 916 | 1253 | 1271 | 993 | 906 |

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数(延べ(電話・メールも含む))を示す。

来室者数推移

| 年度 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|------|
| 年間利用者 | 4533 | 5379 | 8258 | 10028 | 9575 | 8320 | 7524 | 5183 | 5324 | 7508 | 5212 | 6029 | 9065 | 11230 | 10563 | 9580 |

2. 豊中分室の利用延べ状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---------|------|------|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 留学生 | 523 | 560 | 420 | 288 | 77 | 234 | 747 | 279 | 216 | 257 | 146 | 95 | 3842 |
| 日本人学生 | 921 | 972 | 599 | 464 | 115 | 138 | 660 | 298 | 278 | 225 | 149 | 92 | 4911 |
| 教官・学外など | 112 | 67 | 69 | 85 | 62 | 64 | 89 | 58 | 53 | 71 | 41 | 56 | 827 |
| 合計 | 1556 | 1599 | 1088 | 837 | 254 | 436 | 1496 | 635 | 547 | 553 | 336 | 243 | 9580 |

*ここでいう「利用」は国際教育交流センター豊中分室に来室した延べ人数(イベント等含む)を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連(小・中・高校の教師)、ボランティアなどである。

表3 大阪大学国際教育交流センター箕面分室の相談状況及び来室・利用状況

平成26年度相談対応延べ状況

| 項目 \ 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 交流 | 1 | 10 | 14 | 6 | 2 | 0 | 37 | 11 | 19 | 4 | 3 | 2 | 109 |
| 日本語 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 奨学金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 保証人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 住居保証人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 医療 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 入管関係 | 0 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 11 |
| 家族について | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 就職 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 住居 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 各種情報提供 | 17 | 6 | 14 | 3 | 4 | 6 | 23 | 6 | 7 | 10 | 4 | 10 | 110 |
| 生活用品 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 学習・研究 | 6 | 4 | 5 | 24 | 14 | 0 | 9 | 16 | 13 | 12 | 9 | 3 | 115 |
| 事故・トラブル | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 引越 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| アルバイト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| ホストファミリー | 17 | 6 | 11 | 2 | 0 | 0 | 24 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 66 |
| ホームステイ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 海外留学相談 | 38 | 32 | 40 | 32 | 17 | 7 | 35 | 10 | 7 | 20 | 6 | 3 | 247 |
| 問合わせ(学外) | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| その他 | 2 | 5 | 6 | 26 | 13 | 0 | 0 | 0 | 5 | 11 | 1 | 0 | 69 |
| 計 | 83 | 67 | 95 | 96 | 50 | 13 | 131 | 49 | 54 | 58 | 26 | 20 | 742 |

相談対応件数推移

| 年度 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 件数 | 1488 | 966 | 840 | 661 | 831 | 797 | 742 |

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数(延べ)の延べ(電話・メールも含む)を示す。

来室者推移

| 年度 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|
| 件数 | 2893 | 3517 | 4477 | 5249 | 5703 | 5024 | 4603 |

箕面分室の利用延べ状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|------|
| 留学生 | 200 | 289 | 194 | 218 | 48 | 153 | 335 | 116 | 132 | 112 | 45 | 28 | 1870 |
| 日本人学生 | 275 | 351 | 239 | 287 | 62 | 41 | 405 | 234 | 237 | 276 | 104 | 15 | 2526 |
| その他・一般 | 14 | 10 | 21 | 43 | 23 | 8 | 16 | 13 | 21 | 24 | 7 | 7 | 207 |
| 合計 | 489 | 650 | 454 | 548 | 133 | 202 | 756 | 363 | 390 | 412 | 156 | 50 | 4603 |

*ここでの「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数(イベント等含む)を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連(小・中・高校の教師)、ボランティアなどである。

(3) 学生交流支援

学生支援については、B.S.P.と大阪大学留学生会(OUISA)の活動の支援を行った。表4にB.S.P.の活動、表5に大阪大学留学生会(OUISA)の活動を記す。今年度も年間を通して学生主体の活動を積極的に支援した。

表4 平成26年度 B.S.P. の活動内容

| 月 | 日 | | 内 容 | 共 催 団 体 |
|----|-----|----|--------------------------------------|-----------------|
| 4 | 5 | 豊中 | サークルオリエンテーション | |
| | 7 | 吹田 | 吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションで BSP の紹介 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 9 | 豊中 | 豊中キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションで BSP の紹介 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 9 | 箕面 | 箕面キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションで BSP の紹介 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 12 | 豊中 | 春の遠足 (京都) | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 25 | 吹田 | ウェルカムパーティ | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| 5 | 2~3 | 豊中 | いちょう祭出店 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 9 | 箕面 | ウェルカムパーティ | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 16 | 豊中 | W.W.W. パーティ | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| 6 | 8 | 吹田 | 春の遠足 (京都) | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 11 | 箕面 | ハワイアンパーティ | |
| | 23 | 箕面 | J-ShIP キャンパスツアー | |
| | 13 | 吹田 | BSP 親睦会 | |
| | 26 | 豊中 | 流しそうめんパーティ | |
| 7 | 5 | 箕面 | 箕面キャンパス 夏祭り出店 | |
| | 7 | 吹田 | 七夕パーティ (流しそうめんとすいか割り) | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 10 | 吹田 | Japanese Café | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 17 | 箕面 | 七夕パーティ | |
| | 23 | 吹田 | Japanese Café & かき氷 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| 9 | 26 | 吹田 | 吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションで BSP の紹介 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 29 | 豊中 | 豊中キャンパスツアー | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 30 | 豊中 | 豊中キャンパスツアー | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | | 箕面 | 箕面キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションで BSP の紹介 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| 10 | 6 | 吹田 | 吹田キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションで BSP の紹介 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 16 | 豊中 | ウェルカムパーティ | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 23 | 箕面 | ウェルカムパーティ | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 30 | 吹田 | ウェルカムパーティ | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| 11 | 1~2 | 豊中 | まちかね祭出店 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 15 | 合同 | 大阪大学留学生スポーツ大会 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 24 | 合同 | 秋の遠足 (ラーメン博物館&箕面の滝) | 吹田 BSP と合同 |
| 12 | 4 | 豊中 | パエリアパーティ | |
| | 9 | 箕面 | J-ShIP キャンパスツアー | |
| | 12 | 吹田 | Japanese Café | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 18 | 箕面 | ポーランド & ロシア クッキングパーティ | |
| | 22 | 豊中 | 大掃除 | |
| | | 箕面 | 大掃除 | |
| | 26 | 吹田 | 大掃除 | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| 1 | 11 | 豊中 | ニューイヤーフェスタへ行こう (万博) | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 22 | 箕面 | 書き初めパーティ | |
| | 23 | 吹田 | 書き初めパーティ | 大阪大学留学生会 (OUIA) |
| | 29 | 豊中 | ドーナツパーティ | |
| 2 | 16 | 吹田 | 巻き寿司パーティ | 大阪大学留学生会 (OUIA) |

表5 平成26年度 大阪大学留学生会 (OUISA) の活動内容

| 月 | 日 | 内 容 | 場 所 | 共催団体、内容他 |
|-----------|-------|--------------------------|------------------|-----------------------------|
| 4 | 7 | 新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー | 吹田キャンパス | 短期留学生対象 / B.S.P. 共催 |
| | 9 | 新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー | 箕面キャンパス | U コース対象 / B.S.P. 共催 |
| | | 新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー | 豊中キャンパス | 学部及び短期留学生対象 / B.S.P. 共催 |
| | 18 | 役員会 (1) | 吹田キャンパス | |
| | 22 | 理事との面談 | 吹田：本部 | 各国留学生団体代表 |
| | 25 | OUISA 総会 | 吹田：IC ホール会議室 | |
| ウェルカムパーティ | | 吹田：IC ホール講義室 5,6 | B.S.P. 共催 | |
| 5 | 2~3 | いちよう祭出展 | 豊中キャンパス | |
| | 9 | ウェルカムパーティ | 箕面キャンパス：福利会館 | B.S.P. 共催 |
| | 16 | W.W.W.Party | 豊中キャンパス：大学会館 | B.S.P. 生協留学生チーム共催 |
| | 17 | 役員会 (2) | 吹田キャンパス | |
| | 26 | 阪神シニアカレッジ講師 | 阪急宝塚 | |
| | 17~18 | 役員合宿 | 寝屋川市野外活動センター | |
| | 30 | OUISA HOUR (フランス) | CIA | |
| 6 | 9 | OUISA HOUR (チェコ) | CIA | |
| | 12 | OUISA HOUR (グアテマラ) | 豊中キャンパス | |
| | 12 | ハラスメントワークショップ | 豊中キャンパス | ハラスメント相談室、CIEE 共催 |
| | 13 | 役員会 (3) | 吹田キャンパス | |
| | 27 | OUISA HOUR (イエメン) | 豊中キャンパス | |
| 7 | 11 | 役員会 (4) | 吹田キャンパス | |
| | 13 | OUISA Beach party | 舞子浜 | |
| 9 | 8 | 阪神シニアカレッジ講師 | 阪急宝塚 | |
| | 26 | 新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー | 吹田キャンパス | 短期留学生対象 / B.S.P. 共催 |
| | 30 | 新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー | 豊中キャンパス | 短期留学生対象 / B.S.P. 共催 |
| | | 新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー | 箕面キャンパス | 日日センター学生対象 / B.S.P. 共催 |
| 10 | 6 | 新留学生へのオリエンテーション・キャンパスツアー | 吹田キャンパス | 日本語研修コース・KOSMOS / B.S.P. 共催 |
| | 9 | 役員会 (5) | 吹田キャンパス | |
| | 16 | ウェルカムパーティ | 豊中キャンパス：大学会館 | B.S.P. 共催 |
| | 23 | ウェルカムパーティ | 箕面キャンパス：福利会館 | B.S.P. 共催 |
| | 30 | ウェルカムパーティ | 吹田：IC ホール講義室 5,6 | B.S.P. 共催 |
| 11 | 1 | OUISA フェスティバル | 豊中キャンパス | |
| | 6 | 役員会 (6) | 吹田キャンパス | |
| | 15 | 大阪大学留学生会スポーツ大会 | 吹田キャンパス | 協力：B.S.P. |
| 12 | 11 | アカデミックライフワークショップ | 吹田キャンパス | ハラスメント相談室、CIEE 共催 |
| 1 | 18 | OUISA HOUR (イラン) | CIA | |
| | 22 | 阪大広報による写真撮影に協力 | 吹田キャンパス | |
| | 22 | 役員会 (7) | 吹田キャンパス | |
| 2 | 2 | 国際交流に関する撮影に協力 | 吹田キャンパス | 協力：B.S.P. |
| | 13 | 役員会 (8) | 吹田キャンパス | |
| | 26 | 世界について学ぼう | 吹田キャンパス | OMA, CIEE 共催 |

(4) 学内連携

国際教育交流センターは、学内の各部局の留学生関係者との連携の強化も継続して実施している。各部局の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」ミーティングを定例で4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。国際教育交流センター主催の連絡・交換会は平成26年7月25日に開催した。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

地域との連携も引き続き積極的に行っている。ホストファミリープログラムについては、大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会を年2回開催し、留学生の来日時期に合わせて、ホストファミリーの組み合わせの連絡調整や、ホストファミリープログラム等に関する意見交換を行った。ホストファミリーや地域のボランティアや関係者との連絡を緊密に取っている。表6は平成26年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数である。

第23回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会を平成27年2月19日に実施した。今回の協議会では、大阪大学国際同窓会の活動について、大阪大学国際同窓会会長の講演後、卒業生をパネリストとし、「日本で活躍する大阪大学元留学生と一緒に考えるこれからの日本と国際交流」と題したパネルディスカッションを行った。当日は学内26名、学外125名、あわせて151名の参加があった。

表6 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組合せ団体別数推移

| | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | 計 |
|-------------------------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| ホストファミリーグループ アミーゴ | 4 | 7 | 8 | 8 | 7 | 15 | 8 | 16 | 8 | 12 | 11 | 11 | 9 | 15 | 10 | 13 | 14 | 12 | 16 | 13 | 11 | 228 |
| 茨木市国際親善都市協会 | 4 | 13 | 12 | 8 | 11 | 18 | 8 | 7 | 8 | 11 | 7 | 12 | 11 | 15 | 13 | 10 | 9 | 6 | 8 | 7 | 10 | 208 |
| (公財)とよなか国際交流協会 | 0 | 18 | 15 | 7 | 17 | 20 | 19 | 14 | 19 | 27 | 16 | 14 | 29 | 42 | 85 | 80 | 73 | 68 | 80 | 73 | 63 | 779 |
| (公財)箕面市国際交流協会 | 0 | 10 | 6 | 11 | 12 | 10 | 6 | 11 | 15 | 16 | 13 | 10 | 9 | 22 | 36 | 23 | 28 | 36 | 35 | 32 | 42 | 383 |
| 池田ホームステイ友の会 →池田市国際交流協議会 *6 | 0 | 12 | 11 | 7 | 9 | 10 | 7 | 9 | 11 | 9 | 15 | 10 | 15 | 14 | 13 | 12 | 8 | 8 | 4 | 8 | 8 | 200 |
| (公財)吹田市国際交流協会 | 0 | 1 | 18 | 7 | 23 | 19 | 12 | 14 | 20 | 14 | 9 | 16 | 15 | 16 | 30 | 28 | 24 | 29 | 32 | 39 | 41 | 407 |
| 国際交流の会とよなか (TIFA) | 0 | 1 | 6 | 9 | 9 | 9 | 10 | 9 | 13 | 11 | 25 | 20 | 18 | 14 | 12 | 14 | 15 | 15 | 13 | 19 | 18 | 260 |
| 川西市国際交流協会 *1 | | | | | | | | | 11 | 13 | 14 | 9 | 9 | 19 | 16 | 12 | 11 | 9 | 6 | 15 | 14 | 158 |
| 留学生さとおやの会 *2 | | | | | | | | | | | | 5 | 8 | 7 | 6 | 7 | 6 | 6 | 7 | 10 | 8 | 70 |
| 海外協力グループクスクス *3 | | | | | | | | | | | | | | | 7 | 12 | 11 | 13 | 6 | 4 | 6 | 59 |
| チャーターボックス *4 | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | 12 | 9 | 8 | 12 | 10 | 62 |
| OHP/IRISに直接登録 *5 | 3 | 3 | 6 | 5 | 8 | 17 | 20 | 17 | 20 | 2 | 5 | 6 | 4 | 6 | 19 | 17 | 20 | 15 | 25 | 27 | 24 | 269 |
| 計 | 11 | 65 | 82 | 62 | 96 | 118 | 90 | 97 | 125 | 115 | 115 | 113 | 127 | 170 | 247 | 239 | 231 | 226 | 240 | 259 | 255 | 3083 |

- *1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成14年10月開始
- *2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成17年4月開始
- *3 海外協力グループクスクスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成20年9月開始
- *4 チャーターボックスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成21年4月開始
- *5 ホストファミリーの学内公募平成19年8月開始
- *6 池田ホームステイ友の会は平成24年3月で終了、平成24年9月より池田市国際交流協議会として参加

(2) 国際理解教育への協力

地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力も引き続き実施した。表 7 は、平成 26 年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、派遣した留学生数である。

大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会において近隣の市町の教育委員会とも連携しながら、地域の小中高等学校へ留学生を派遣した。留学生の派遣は、地域の学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出して希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行い、実施後、留学生には報告書の提出、というプロセスで実施している。

さらに平成 26 年度も大阪府教育委員会および吹田市教育委員会に協力して、教員の初任者研修—社会体験プログラムを行った。国際教育交流センターにおいてこのプログラムを 7 月 22 日～23 日に実施し、講義や留学生とのディスカッションを行った。このプログラムには大阪府立学校から 7 名、吹田市立中学校から 3 名の新任教員が参加した。

表7 平成26年度「国際理解教育」実施状況

※「/」は二重国籍

| 月 | 日 | 府/市 | 学校/プログラム名 | 派遣人数 | 派遣学生国籍 |
|----|-------|------|------------------------|------|--|
| 6 | 24 | 茨木市 | 郡山小学校 | 6 | ハンガリー、イエメン、韓国、台湾、中国、サウジアラビア |
| 7 | 2 | 茨木市 | 三島中学校 | 8 | ハンガリー、中国、ウクライナ、イエメン、カザフスタン、韓国、台湾 |
| 7 | 10 | 豊中市 | 第十三中学校 | 2 | ネパール、オランダ |
| 7 | 14 | 茨木市 | 三島小学校 | 9 | タイ、イエメン、フランス、イスラエル、ペルー、台湾、韓国、ドイツ |
| 7 | 31 | | 東大谷高等学校 | 3 | インドネシア、ドイツ、メキシコ |
| 9 | 9 | 兵庫県 | 川西北陵高等学校 | 6 | ネパール、フィリピン、インド、メキシコ、ペルー |
| 9 | 10 | 豊中市 | 桜塚小学校 | 3 | ペルー、インド、インドネシア |
| 9 | 24・26 | | 報徳学園中学校 | 21 | インドネシア、タイ、チェコ、中国、ネパール、ブラジル、ペルー、コートジボアール、インド、中国、東ティモール、ベトナム、メキシコ、南スーダン、イスラエル |
| 10 | 9 | 大阪府 | 刀根山支援学校 大阪大学附属病院分教室 | 1 | インド |
| 10 | 30 | 茨木市 | 穂積小学校 | 6 | イギリス、ベトナム、カザフスタン、中国、韓国、マレーシア |
| 11 | 13 | | 関西大倉高等学校 | 12 | インド、セルビア、タイ、ウクライナ、カザフスタン、ネパール、ブラジル、バングラデシュ、チェコ、中国、フィリピン、マレーシア |
| 11 | 14 | 池田市 | 渋谷中学校 | 8 | 韓国、中国、ウクライナ、カナダ、ドイツ、ベトナム、台湾 |
| 11 | 20 | 摂津市 | 第一中学校 | 5 | 台湾、韓国、カザフスタン、ブラジル、イギリス |
| 11 | 21 | 豊中市 | 第十四中学校 | 6 | 台湾、韓国、グアテマラ、ネパール、中国 |
| 11 | 25 | 川西市 | 明峯中学校 | 4 | 韓国、中国、フランス、インド |
| 11 | 27 | 豊能町 | 東能勢中学校 | 6 | 台湾、イエメン、韓国、中国、マレーシア、ネパール |
| 11 | 29 | 大阪府 | 茨木高等学校 | 57 | インド、フィリピン、イギリス、ベトナム、台湾、インドネシア、マレーシア、ウクライナ、カザフスタン、韓国、ブラジル、イラン、ドイツ、ロシア、中国、チュニジア、チェコ、スウェーデン、メキシコ、ハンガリー、グアテマラ、オランダ、オーストリア、カナダ、香港、アメリカ、カンボジア、フランス |
| 12 | 5 | 吹田市 | 古江台小学校 | 2 | タイ、サウジアラビア |
| 12 | 9 | 茨木市 | 玉籀小学校 | 6 | アフガニスタン、イエメン、韓国、チェコ、インド、台湾 |
| 12 | 12 | | かんらん保育園 | 4 | アウジアラビア、ドイツ、イエメン、韓国 |
| 12 | 15 | 摂津市 | 摂津小学校 | 6 | 韓国、ロシア、アフガニスタン、インド、中国、サウジアラビア |
| 12 | 20 | 大阪府 | 天王寺高等学校 | 19 | インド、インドネシア、スウェーデン、ブラジル、マレーシア、セルビア、メキシコ、フィリピン、ペルー、チュニジア、フランス、ドイツ、イラン、香港、アメリカ/日本 |
| 12 | 21 | 大阪府 | 天王寺高等学校 | 19 | インド、イラン、スウェーデン、ブラジル、マレーシア、セルビア、メキシコ、フィリピン、ペルー、チュニジア、フランス、ドイツ、中国、グアテマラ、韓国 |
| 1 | 16 | 大阪府 | 豊中高等学校 | 40 | イスラエル、コスタリカ、チェコ、セルビア、タイ、ドイツ、バングラデシュ、フィリピン、インド、ペルー、台湾、ネパール、スウェーデン、ハンガリー、中国、韓国、カンボジア、ウクライナ、南スーダン、フランス、マレーシア、グアテマラ、イラン、ベトナム、台湾、ネパール、インドネシア、ヨルダン、カナダ |
| 2 | 4 | 大阪府 | 春日丘高等学校 | 11 | ドイツ、中国、香港、フィリピン、インドネシア、マレーシア、グアテマラ、イエメン、ベトナム |
| 2 | 12 | 茨木市 | 春日丘小学校 | 9 | 中国、インド、韓国、ペルー、イエメン、インドネシア、香港、ブラジル |
| 2 | 13 | 寝屋川市 | 第五中学校 | 15 | マレーシア、台湾、中国、ペルー、ジンバブエ、イエメン、インド、インドネシア、セルビア、カンボジア、グアテマラ、ブラジル、メキシコ、フランス |
| 2 | 17 | 摂津市 | 摂津第三中学校 | 8 | 中国、インド、ドイツ、フィリピン、イラン、ハンガリー、ブラジル |
| 2 | 18 | 能勢町 | 西中学校、東中学校 | 20 | イギリス、香港、フランス、セルビア、インドネシア、イラン、インド、南スーダン、ドイツ、ネパール、ハンガリー、コスタリカ、メキシコ、フィリピン、アフガニスタン、ジンバブエ、カンボジア、オーストラリア、スウェーデン |
| 2 | 26 | 大阪市 | 堀江小学校 | 8 | フランス、コスタリカ、メキシコ、フィリピン、インドネシア、ペルー、インド、ベトナム |
| 2 | 27 | 大阪市 | 堀江小学校 | 8 | フランス、コスタリカ、メキシコ、フィリピン、インドネシア、ペルー、インド、ベトナム |
| 3 | 3 | 大阪市 | 堀江小学校 | 8 | フランス、コスタリカ、メキシコ、フィリピン、インドネシア、ペルー、インド、ベトナム |
| 3 | 5 | 吹田市 | 第一中学校 | 7 | イギリス、ベトナム、中国、イラン、ドイツ、アフガニスタン、ネパール |
| 3 | 6・8 | 大阪府 | 大手前高等学校 | 8 | カナダ、イギリス、韓国、フィリピン、台湾、ペルー、イラン、インド |

計： 34件/ 361名

3. 留学生に対するキャリア支援

日本での就職を希望している外国人留学生を支援する目的で、平成26年度、国際教育交流センターでは、「留学生のための就職対策講座」を開催した。また個々の相談に対応するため就職相談コーナーを開室した。

(1) 平成26年度の留学生のための就職対策講座

(a) 講座の内容について

2014年10月より2015年1月にかけて「留学生のための就職対策講座」が開催された。講座は外部講師、学内のキャリアカウンセラー、元留学生OB・OG、内定者の留学生の協力のもと全8回のシリーズとして吹田キャンパスおよび豊中キャンパスで開催された。参加者数は述べ124名であった。(図1、2参照)。

Job Search Strategy Course for International Students
平成26年度 留学生のための就職対策講座
 ▼10月スタート(全8回) Starting October (8 seminars)

1. Introduction to job search for international students
 2. 日本で就職するということ/情報収集及び企業・業界研究 Finding a job in Japan/Collecting information and business research
 3. 自己分析 キャリアデザイン Self assessment Career design
 4. OB・OGによる体験談 Hearing about experiences of Handai alumni
 5. エントリーシートの書き方・合同企業説明会等対策 Preparing entry sheets and company recruiting fairs
 6. 内定者による体験談 Hearing about experiences of students with job offer
 7. 面接対策(1) (日本企業の面接(L-IL etc.) Preparing interview (1) (basic rules of interview etc.))
 8. 面接対策(2) (模擬面接) Preparing interview (2) (Mock interview)

▼ 対象: 大阪大学に在籍する留学生 Target: International Students registered as regular students
 ▼ 申し込み Registration: career@ciee.osaka-u.ac.jp
 ・定員: 50名 (Registration limited to 50 students)
 ・全講座申し込みは10月21日まで (Registration for the full course until October 21st)
 ・単発申し込みは各セミナー開催日の前日まで(空きがあれば参加可)
 Registration for a single seminar until one day before the date (possible if there is a vacancy)
 ・1. 氏名 2. 学部 3. 学年 4. 国籍を明記して申し込んで下さい。
 姓名に「就職対策講座申し込み」と明記してください。
 Email: uw@ciee.osaka-u.ac.jp
 Put "Job search strategy course registration" in the subject line.
 ▼ 主催: 大阪大学国際教育交流センター 共催: 教育推進部 学生・キャリア支援課 協力: 工学研究科国際交流推進センター
 Organizer: Center for International Education and Exchange, Osaka University
 Copponsor: Campus Life and Career Support Division, Department of Education Development
 In Cooperation with: Center for International Affairs, Graduate School of Engineering

図1 就職対策講座ポスター

平成26年度 留学生のための就職対策講座

概要: 日本企業へ新卒採用を目指すために必要な知識を習得するための講座です。具体的には日本のビジネス文化、自己分析、情報収集、面接対策などの講義と先輩たちと内定者の経験談です。
 到達目標: 留学生が自己実現のために将来のキャリアデザインも考慮しながら、日本での就職活動を円滑に進めるための能力を養成します。

【Program】

| 日 時 | 月日 Date & Time | 場所 Place | 言語 Language | 講義項目 Subject | 講義担当 Instructor |
|--------|---------------------------------------|--|----------------|--|--|
| | 10月1日(休) 16:30-17:50 | 【箕面】 研究・講義棟A棟 A215 | 日本語 | 留学生のための就職 活動講座 | 教育推進部 学生・キャリア支 援課のプログラム による |
| | 10月3日(金) 16:30-17:50 | 【吹田】 コンベンションセンター MOホール | 日本語 | | |
| | 10月9日(木) 16:30-17:50 | 【豊中】 全学教育推進機構 大講義室 | 日本語 | | |
| 1 | October 22nd (Wed.) 18:00-20:00 | 【Suita】 Rooms 5 & 6, 2nd Floor, IC Hall | English | Introduction to job search for international students | Mr. Kazuki Nakagawa (career adviser) |
| 2 | 10月24日(金) 18:00-20:00 | 【豊中】ステューデント commons 1F 開放型セミナー室 | 日本語 | 日本で就職するということ/ 情報収集及び企業・業界研究 | 中川浩一氏 (キャリアアドバイザー) |
| 3 | 11月6日(木) 18:00-20:00 | 【豊中】ステューデント commons 2F マッチング型セミナー室 | 日本語 | 自己分析 キャリアデザイン | 新藤田久美子氏 (キャリアアドバイザー) |
| 4 | 11月7日(金) 18:00-20:00 | 【吹田】 ICホール 2F R5 & R6 | 日本語 | OB・OGによる体験談 | 大阪大学 国際研究会 |
| 5 | 11月17日 (月) 18:00-20:00 | 【豊中】ステューデント commons 2F セミナー室1 | 日本語 | エントリーシートの書き方/ 合同企業説明会等対策 | 野村文子氏 (キャリアアドバイザー) |
| 6 | 11月27日 (水) 18:00-20:00 | 【吹田】 ICホール 2F R5 & R6 | 日本語 | 内定者による体験談 | 大阪大学留学生 |
| 7 | 1月8日(水) 18:00-20:00 | 【豊中】ステューデント commons 2F セミナー室1 | 日本語 | 面接対策(1) (日本企業への面接ルール、 面接力あるアピール方法) | 野村文子氏 (キャリアアドバイザー) 新藤田久美子氏 (キャリアアドバイザー) |
| 8 | 1月14日(水) 18:00-20:00 | 【吹田】 ICホール 2F R5 & R6 | 日本語 | 面接対策(2) (模擬面接) | 野村文子氏 (キャリアアドバイザー) 新藤田久美子氏 (キャリアアドバイザー) |

主催: 国際教育交流センター 共催: 教育推進部 学生・キャリア支援課
 協力: 工学研究科国際交流推進センター

図2 就職対策講座プログラム

(b) アンケート調査結果

就職対策講座では毎回アンケートを実施した。各回の参加者数は図3に示されている通りである。全8回のうち、第6回目の内定者による体験談の参加者が最も多く24名、次に第7回目の面接対策の20名が続いた。参加者の出身国では中国が最も多く60名で、全体の48%を占めた(表8参照)。所属別では工学系と経済系が最も多く29名であった(図4参照)。学年別では博士課程前期1年次が最も多く69名で全体の56%を占めた(図5参照)。

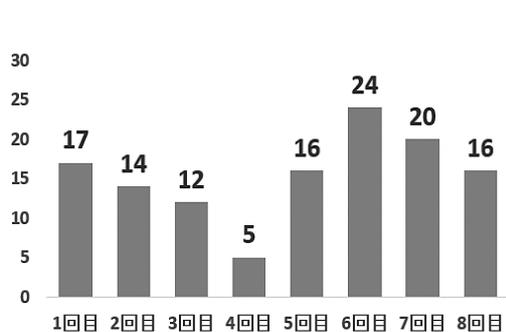


図3 各回の参加人数

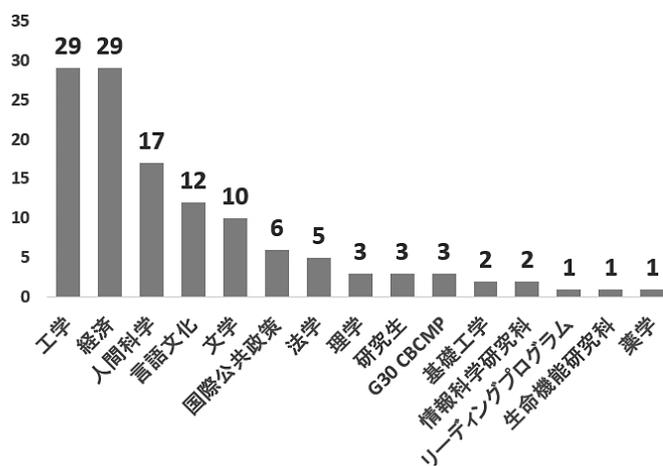


図4 参加者の所属

表8 参加者の出身

| 出身国 | 人数 |
|---------|----|
| 中国 | 60 |
| インドネシア | 15 |
| ベトナム | 8 |
| 韓国 | 7 |
| ポーランド | 5 |
| チュニジア | 4 |
| 日本 | 4 |
| イラン | 2 |
| マレーシア | 2 |
| 台湾 | 2 |
| ウズベキスタン | 1 |
| カナダ | 1 |
| グアテマラ | 1 |
| ジンバブエ | 1 |
| スウェーデン | 1 |
| スウェーデン1 | 1 |
| スーダン | 1 |
| タイ | 1 |
| ネパール | 1 |
| バングラ | 1 |
| フィリピン | 1 |
| フランス | 1 |
| ペルー | 1 |
| モザンビーク | 1 |
| モロッコ | 1 |

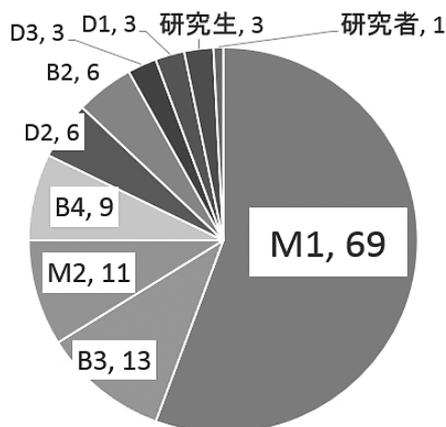


図5 参加者の学年



i) 第1回 Introduction to job search for international students



ii) 第5回エントリーシートの書き方・合同企業説明会等対策



iii) 第6回 内定者による体験談



iv) 第8回 模擬面接

就職対策講座の様子

(2) 留学生のための就職相談コーナー

留学生のための就職対留学生の就職活動に対する「迷い」や「悩み」に対処するため、2014年10月より吹田および豊中キャンパスで各週1回の就職相談コーナーを原則予約制で開室している（図6参照）。平成26年度利用者数は延べ21名であった（表9参照）。また開室している時間帯に来ることができない学生に対してはメールで対応した。メールによる相談件数は延べ67件であった（表10参照）。

就職活動を考えている留学生のための相談コーナー
Consultation on Job Search for International Students

留学生の皆さん、日本での就職活動について相談してみませんか？
If interested in finding a job in Japan, why not come for consultation?

▼ 対象：大阪大学に在籍する正規留学生
 Target: International students registered as regular students

就職相談！

卒業後、日本で就職するかどうか迷っている方、
If you are yet to decide whether to look for a job in Japan

日本で就職したいが、就職活動をどのように始めていけばいいかわからない方、
If you are willing to find a job in Japan, but don't know how to start the job search

卒業後、日本での就職を希望している方、
If you are willing to find a job in Japan

**ぜひ、相談コーナーへ！
 Come and consult!**

▼ 相談時間と場所
 Time and Place

◆ 豊中キャンパス / Toyonaka Campus
 ◇ 毎週火曜日 Every Tuesday 12:00 ~ 13:00
 国際教育交流センター 豊中分室 (学生会館 2階)
 CIEE Toyonaka Branch, 2F, Student Union

◆ 吹田キャンパス / Suita Campus
 ◇ 毎週木曜日 Every Thursday 12:00 ~ 13:00
 国際教育交流センター ICホール2F_講義室4
 Room 4 2F, IC Hall, CIEE

※ メール予約優先
 Priority given to those who have an appointment via e-mail
 ※ 春季・夏季・冬季休業期間中はメールでの予約必須
 Appointment necessary during spring, summer and winter vacations

▼ 申込み Appointment : career@ciee.osaka-u.ac.jp
 1. 希望日時 2. 氏名 3. 学号 4. 学年 5. 国籍を書いて申し込んでください。
 併せて「相談コーナー申し込み」と書いてください。
 E-mail us with 1. your preferred date, 2. your full name, 3. faculty, 4. year, 5. country. Put "career consultation" in the subject line.

▼ 主催：大阪大学国際教育交流センター
 Organizer: Center for International Education and Exchange
 ▼ 協力：学生課 学生・キャリア支援課 (Cooperation Department of Student Affairs, Student Career Support Division)
 ▼ コーディネーター：専任講師 (Coordinator/USAKI, specially appointed associate professor)

図 6 就職相談コーナーポスター

表 9 相談コーナー利用状況 (月別・出身国別)

| | 中国 | タイ | インドネシア | 日本 (G30) | チュニジア | ネパール | メキシコ | アイスランド | カナダ | フランス | ジンバブエ | 計 |
|-----|----|----|--------|----------|-------|------|------|--------|-----|------|-------|----|
| 4月 | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 5月 | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 6月 | | | | | | | | | | | | 0 |
| 7月 | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 8月 | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | 3 |
| 9月 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| 10月 | | 1 | | 1 | | | | | | | | 2 |
| 11月 | 2 | | | | | | | | | | | 2 |
| 12月 | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 1月 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 5 |
| 2月 | 1 | | 1 | | | | | | | | | 2 |
| 3月 | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| | 5 | 2 | 4 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 21 |

表 10 メール相談件数 (月別・出身国別)

| | 中国 | タイ | インドネシア | チュニジア | 日本 (G30) | カナダ | ネパール | メキシコ | アイスランド | フランス | リトアニア | ベトナム | ベルギー | 計 |
|-----|----|----|--------|-------|----------|-----|------|------|--------|------|-------|------|------|----|
| 4月 | 3 | 9 | | | | | | | | | | | | 12 |
| 5月 | | 7 | | | | | | | | | | | | 7 |
| 6月 | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 7月 | 2 | | | | | | 1 | | | | | | | 3 |
| 8月 | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | 3 |
| 9月 | | | | | | 3 | | | | 1 | 2 | | | 6 |
| 10月 | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 11月 | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 12月 | 11 | | 3 | | | | | | | | | | | 14 |
| 1月 | 1 | | 6 | 4 | 3 | | | | | | | | 1 | 15 |
| 2月 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | 2 |
| 3月 | 1 | | 3 | | | | | | | | | | | 4 |
| | 19 | 16 | 13 | 4 | 3 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 67 |

VIII. 海外派遣留学支援

国際教育交流センターでは、本学の学生の海外派遣留学促進のために様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加に応え、短期語学研修プログラムの実施、海外留学オリエンテーションでの情報の提供、相談対応による疑問や不安の解消に努めている。

1. 海外研修・異文化体験プログラム

短期海外研修として、英国エセックス大学での夏季語学研修、オーストラリアモナシュ大学での春季語学研修を実施した。海外体験を希望する学生に機会を提供することに加え、これらのプログラムは、協定校への交換留学の準備段階としても位置付けられている。英語力の伸びを客観的に測るために研修前と研修中あるいは研修後に、IELTS・TOEFLの受験を義務付けた。

また、事前研修として留学生との交流学习の場も設けた。エセックス現地研修出発前には、3度（6月28日、7月10日、8月6日）事前研修を行ったが、このうち1度目の事前研修では、箕面キャンパスA208にて、大阪大学で日本語を学ぶ留学生との協働活動（グループディスカッション、グループプレゼンテーション）を行った。

モナシュ現地研修出発前には3度（12月20日、1月16日、2月12日）出発前の事前研修を行い、同様に1度目の事前研修は本学で短期間日本語研修プログラムに参加している留学生との協働活動を行った。さらに、今年度からの新しい試みとして、第三回目の事前研修時には、モナシュ大学担当職員と、参加者学生によるスカイプミーティングを実施した。また、今年度からの新しい取り組みとして、現地到着後、参加者にはボランティア活動を行う機会が与えられた。

(1) 2014年12月20日事前研修時の様子



(2) エセックスプログラム現地研修日程 (参加者 39 名)

| 年 月 日 | 時 刻 | 行 程 等 |
|-------------------------------------|----------|-------------------------------------|
| 2014年8月15日(金) | AM 07:15 | 関西国際空港集合 |
| | AM 09:20 | 出国: 関西国際空港発 (キャセイパシフィック航空 CX567 便) |
| | PM 00:20 | 経由: 香港国際空港着 |
| | PM 02:35 | 経由: 香港国際空港発 (キャセイパシフィック航空 CX253 便) |
| 2014年8月16日(土) | PM 08:30 | 入国: ヒースロー空港着 |
| | | 大学のバスでエセックス大学へ移動 |
| 2014年8月17日(日) | | 休日 |
| 2014年8月18日(月) ↓ 2014年9月19日(金) | | エセックス大学にて研修 (IELTS 受験: 9月6日(土)) |
| 2014年9月20日(土) | | 大学のバスで空港へ移動 |
| | PM 00:30 | 出国: ヒースロー空港発 (キャセイパシフィック航空 CX252 便) |
| 2014年9月22日(日) | AM 07:05 | 経由: 香港国際空港着 |
| | AM 10:10 | 経由: 香港国際空港発 (キャセイパシフィック航空 CX506 便) |
| 2014年9月23日(月) | PM 03:00 | 入国: 関西国際空港着 |

(3) モナシュプログラム現地研修日程 (参加者 35 名)

| 年 月 日 | 時 刻 | 行 程 等 |
|-------------------------------------|----------|---|
| 2015年2月17日(火) | AM 08:50 | 関西国際空港集合 |
| | AM 11:00 | 出国: 関西国際空港発 (キャセイパシフィック航空 CX565) |
| | PM 04:05 | 経由: 香港国際空港着 |
| | PM 07:10 | 経由: 香港国際空港発 (キャセイパシフィック航空 CX135 便) |
| 2015年2月18日(水) | PM 07:30 | 入国: メルボルン空港着 |
| | | 大学のバスでモナシュ大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面 |
| 2015年2月19日(木) ↓ 2014年3月22日(日) | | モナシュ大学にて研修 |
| 2015年3月23日(月) | | 大学のバスで空港へ移動 |
| | PM 03:25 | 出国: メルボルン空港発 (キャセイパシフィック航空 CX104 便) |
| | PM 09:45 | 経由: 香港国際空港着 |
| 2015年3月24日(日) | AM 01:50 | 経由: 香港国際空港発 (キャセイパシフィック航空 CX566 便) |
| | AM 06:15 | 入国: 関西国際空港着 |

2. 海外留学オリエンテーション

(1) 海外留学オリエンテーション入門編

平成26年度4月に主に新入生を対象に入学当初の段階で海外への興味関心を喚起する目的で、全入生が共通教育を受ける豊中キャンパスにおいて海外留学オリエンテーション入門編をそれぞれ昼休みと夕方に教育推進部学生交流推進課の協力のもと開催した。2日間で計218名の参加があった(表1参照)。内容は、在学中の交換留学制度や夏季・春季休暇中の短期語学研修プログラムについて紹介し、実際のプログラム参加学生に体験を語ってもらったのち、様々な質問を受けた。また交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語で行われる国際交流科目や、教員や留学経験学生による個別の留学相談システムなどの情報を提供することで今から計画的に交換留学へ向けた準備を始めるよう促した。終了後も多数の個別質問が寄せられ、新入生の海外に対する高い興味関心を確認することができた。

表1 平成26年度4月海外留学オリエンテーション(入門編)参加者数

| 開催キャンパス | 開催日時 | 参加者数 | 前年度比 |
|---------|-------|------|--------|
| 豊中 | 4月17日 | 138 | -6.8% |
| 豊中 | 4月21日 | 80 | -39.4% |
| 計 | | 218 | -22.1% |

(2) 海外留学オリエンテーション本編

平成26年度5-6月には、主に交換留学の制度と手続きを解説する海外留学オリエンテーション本編を、こちらも教育推進部学生交流推進課の協力のもと開催した。例年通り豊中・吹田・箕面の3キャンパスで計4回開催し、全体で307名の参加者があった(表2参照)。

表2 平成26年度5-6月海外留学オリエンテーション
各キャンパスの海外留学オリエンテーション参加者数

| 開催キャンパス | 開催日時 | 参加者数 | 前年度比 |
|---------|----------------|------|--------|
| 豊中 | 5月28日(18時~19時) | 65 | +3.2% |
| 吹田 | 6月2日(18時~19時) | 14 | -36.4% |
| 箕面 | 6月4日(昼休み) | 117 | ±0.0% |
| 豊中 | 6月5日(昼休み) | 111 | -20.7% |
| 計 | | 307 | -10.5% |



【4月海外留学オリエンテーション（入門編@豊中）の様子】



【5～6月海外留学オリエンテーション（本編@箕面）の様子】

3. 大学間交換留学者数

上記のように、総計 500 名以上の留学オリエンテーション参加者があり、また日々の留学相談の件数もかなりの数になってきていることから多くの学生が海外留学に興味を示していることが伺える。それにもなって、大学間交換留学派遣者数も堅調に推移している。提携大学が受け入れに際し要求する語学能力水準などの条件をクリアし、書類選考を通過した学生に対し学内面接選考を実施した。これに合格して交換留学派遣の推薦を獲得した学生数は、平成 26 年度においては、大学間協定に限定しても 130 名を超えるに至っている（表 3 参照）。その他、部局間協定あるいは休学しての海外留学を併せると本学からの留学者数は数百名規模となっている。

表3 大学間交換留学派遣先大学別内定状況（部局間協定は除く）
 （2014年募集分：2015年1月—2016年3月留学開始）

| 国名・地域名 | 派遣先大学 | 推薦者数 | |
|-------------|------------------|------|-----|
| | | 第Ⅰ期 | 第Ⅱ期 |
| インド | インド工科大学ハイデラバード校 | | |
| インドネシア共和国 | ガジャマダ大学 | | |
| | バンドン工科大学 | | |
| タイ王国 | カセサート大学 | | 1 |
| | タマサート大学 | | 5 |
| | チェンマイ大学 | | 3 |
| | チュラロンコン大学 | | 4 |
| | マヒドン大学 | | |
| | モンクット王トンプリ工科大学 | | |
| 大韓民国 | 慶尚大学校 | | |
| | ソウル大学校 | 1 | 5 |
| | 昌原大学校 | | |
| | 中央大学校 | | |
| | 忠南大学校 | | |
| | 全南大学校 | | |
| | 漢陽大学校 | | 2 |
| | 釜山大学校 | | |
| | 延世大学校 | 2 | |
| 台湾 | 国立交通大学 | | |
| | 国立清華大学 | | |
| | 国立成功大学 | | |
| | 国立台湾大学 | | 3 |
| 中華人民共和国 | 西安交通大学 | | |
| | 上海交通大学 | | |
| | 清華大学 | | 2 |
| | 浙江大学 | | |
| | 同濟大学 | | |
| | 南京大学 | | |
| | 武漢大学 | | |
| | 復旦大学 | | |
| | 北京師範大学 | | |
| | 北京大学 | | 3 |
| | 香港中文大学 | | 1 |
| フィリピン共和国 | アテネオ・デ・マニラ大学 | | |
| | デ・ラ・サール大学 | 1 | |
| | フィリピン国立大学 | | 1 |
| ベトナム社会主義共和国 | ハノイ国家大学 | | |
| モンゴル国 | モンゴル国立大学 | | |
| エジプト | アレキサンドリア大学 | | |
| オーストラリア連邦 | アデレード大学 | | |
| | オーストラリア国立大学 | 2 | |
| | クイーンズランド大学 | 1 | |
| | モナシュ大学 | 2 | |
| | ウェズリアンカレッジ(女子大学) | 1 | 2 |

| | | | |
|------------|---------------------------------|---|----|
| アメリカ合衆国 | カリフォルニア大学 | | 12 |
| | ジョージア大学 | 1 | 1 |
| | テキサスA&M大学 | 1 | 1 |
| | ナザレスカレッジローチェスター校 | 1 | 1 |
| | パデュー大学 | 1 | |
| | ライス大学 | | |
| | ワシントン大学 | | |
| カナダ | トロント大学 | | 2 |
| | ブリティッシュ・コロンビア大学 | | 4 |
| | マギル大学 | | |
| | マックマスター大学 | | 4 |
| ブラジル連邦共和国 | サンパウロ大学 | | 4 |
| ペルー共和国 | ローマ教皇庁立ペルー・カトリック大学 | | |
| メキシコ合衆国 | メキシコ国立自治大学 | | |
| オーストリア共和国 | ウィーン大学 | | 2 |
| オランダ王国 | グローニンゲン大学 | | 1 |
| | デルフト工科大学 | | |
| スイス連邦 | スイス連邦工科大学ローザンヌ校 | | |
| スウェーデン王国 | イエーテボリ大学 | | 3 |
| | スウェーデン王立工科大学 | | |
| スペイン王国 | バリアドリード大学 | | |
| | マドリッドアウトノマ大学 | | |
| デンマーク王国 | コペンハーゲン大学 | 3 | 3 |
| ドイツ連邦共和国 | アーヘン工科大学 | | |
| | アウグスブルグ大学 | | |
| | エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学 | | 3 |
| | ゲッティンゲン大学 | | 1 |
| | ハイデルベルク大学 | | 5 |
| | ビーレフェルト大学 | | 1 |
| | ミュンヘン工科大学 | | 2 |
| | ミュンヘンルートウヴィヒ・マクシミリアン大学 | | 3 |
| | ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン | | 2 |
| ルール・ボーフム大学 | | | |
| ハンガリー共和国 | エトヴェシュ・ロラード大学 | | 2 |
| フィンランド共和国 | オーボアカデミー大学 | 1 | 4 |
| フランス共和国 | グルノーブル大学連合 | | 7 |
| | ストラスブール大学 | 1 | 3 |
| | パリ国立高等化学学院 | | |
| | ピエール・マリー・キュリー大学(パリ第6大学) | | |
| | ボルドー第1大学 | | |
| ベルギー王国 | ルーヴァンカトリック大学 | | 1 |
| 連合王国 | シェフィールド大学 | | 1 |
| | ノッティンガム大学 | | |
| | リーズ大学 | | 4 |
| ロシア連邦 | サンクトペテルブルク大学 | | 6 |

4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

国際教育交流センターでは、教育推進部学生交流推進課と協力して、海外で研修あるいは留学する予定の学生を対象に、毎年前期試験が終了する時期に派遣前危機管理オリエンテーションを実施している。平成26年度は、2014年8月6日豊中キャンパス/2015年2月12日吹田キャンパスの2度開催した。両日も、日本アイラック株式会社クライシスソリューション事業部長の山下寿人氏および本学グローバルコラボレーションセンター長の大橋一友教授に講演いただき、海外渡航中のテロ対策や健康や生活の面で注意すべきことなどについて周知徹底した。各部局の派遣担当教職員も含め、合計265名の参加があった。

平成26年度 留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

主催：国際教育交流センター、教育推進部学生交流推進課

第1回

日時：平成26年8月6日（水） 14:00～16:35

場所：大阪大学会館 講堂（豊中キャンパス）

司会：近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

第2回

日時：平成27年2月12日（木） 15:15～17:50

場所：医学部保健学科 第1講義室（吹田キャンパス）

司会：歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム：第1回・第2回共通〉

開会の挨拶：有川 知子（国際教育交流センター長 教授）

講演：「海外渡航時の危機管理」について

山下 寿人（日本アイラック株式会社クライシスソリューション事業部長）

休憩：

講演：「海外渡航時の健康管理」

大橋 一友（グローバルコラボレーションセンター/医学系研究科保健学専攻 教授）

閉会の挨拶：近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）



【大橋教授による講演の風景】



【山下様による講演の風景】

5. 留学報告会

国際教育交流センターでは、既に大学間や部局間の学生交流協定で1学期間から1年間の海外留学を果たし帰国した学生有志に協力してもらい、1学期間以上の交換留学が内定した学生との交流会を実施してきた。本年度は、従来の交流会形式から、留学報告会（短期プログラム、交換留学、休学留学、研究留学、長期派遣）＋座談会という構成へ変更した。前項「派遣前危機管理オリエンテーション」の終了後、各キャンパスで開催した。主な目的は、大学間・部局間交換留学を実際に経験し帰国した学生から、渡航前にしておくべき留学準備や、特定の国・大学の情報を聞き、これから留学を開始する学生が充実した留学生活を実現するための助けとするためである。座談会においては帰国学生とこれから留学を開始する学生との間で活発な情報交換が行なわれた。またこの企画は、本学からの海外交換派遣留学者数が増大している現状にあって、様々な国や地域に留学した経験者同士の人的ネットワークを構築することも趣旨の一つとしている。参加者数は計64名であった。

平成26年度留学報告会

第1回

日時：平成26年8月6日（水） 17:00～19:00

場所：スチューデントコモンズ マッチング型セミナー室（豊中キャンパス）

司会：歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム〉

◆開会の挨拶

歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

◆参加者の自己紹介

◆留学体験談（含質疑応答）

- ・2013年度エセックス大学（イギリス）夏季語学研修プログラム
文学部人文科学科 U3 柳川 朔
- ・2013年度モナシュ大学（オーストラリア）春季語学研修プログラム
工学部地球総合工学科 U2 長方 詩織
- ・ハイデルベルク大学（ドイツ）へ大学間交換留学
薬学部薬学科 U3 吉田 大樹
- ・ベルヴェールカレッジ（アメリカ）へ休学留学
人間科学研究科 M1 西岡 春奈
- ・アルバータ大学（カナダ）等へ研究留学
国際公共政策研究科国際公共政策専攻 D3 宮崎 紗織
- ・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（イギリス）へ長期留学（修士号取得）
国際教育交流センター 歳岡 冴香

◆座談会

◆閉会の挨拶

歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

第2回

日時：平成27年2月12日（木） 18：00～19：30

場所：医学部保健学科 第2講義室（吹田キャンパス）

司会：歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム〉

◆開会の挨拶

歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）

◆参加者の自己紹介

◆留学体験談（含質疑応答）

- ・2014年度エセックス大学（イギリス）夏季語学研修プログラム

基礎工学部電子物理科学科 U1 古澤 謙

- ・2013年度モナシュ大学（オーストラリア）春季語学研修プログラム

工学部地球総合工学科 U2 長方 詩織

- ・テキサス A&M 大学にて研究留学

理学研究科化学専攻 D1 山本 智也

- ・スウェーデン王立工科大学にて大学間交換留学

工学部応用理工学科 U4 高橋 良輔

- ・OECD 本部にて海外インターンシップ

人間科学研究科人間科学専攻 M2 金南 咲季

- ・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（イギリス）へ長期留学（修士号取得）

国際教育交流センター 歳岡 冴香

◆座談会

◆閉会の挨拶

歳岡 冴香（国際教育交流センター 特任助教）



【当日の会場の様子】

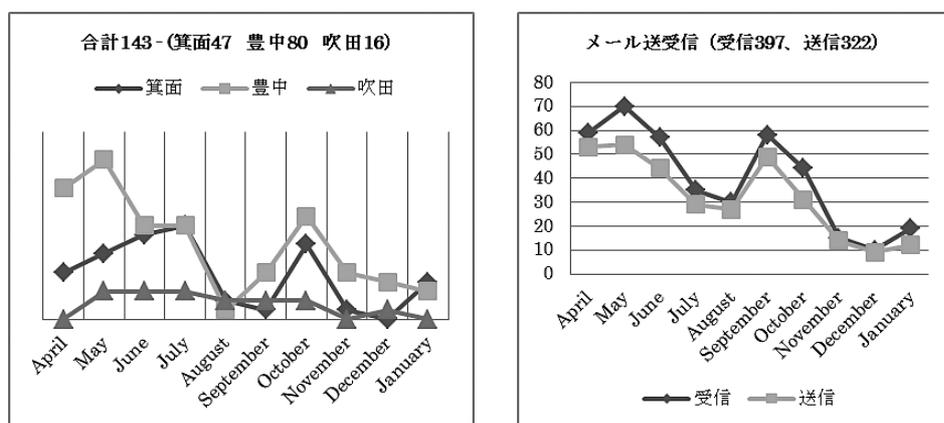
6. 海外留学相談とアドバイス

留学を希望する学生のサポートのために、学期期間中を中心として教員による留学相談（メール・対面）を実施した。2015年2月27日には、学生交流推進課と共同でトビタテ！留学 JAPAN 応募書類作成相談会を臨時開催した。また、交換留学から帰国した学生有志により、定期的な留学相談会と予約制の個別相談を実施した。

共通（1）教員による留学相談

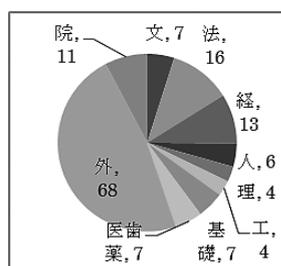
国際教育交流センター豊中分室と箕面分室では、週一度昼休みに、吹田キャンパスでは要望に応じ、留学経験のある教員により、対面での留学相談を実施した。相談件数は合計 143 件（前年度 152 件）であった。相談予約・メールでの相談は advising@ciece.osaka-u.ac 宛のメールで、随時受け付けた。メール件数は受信が 397 件、送信が 322 件であった。

(1) - 1. 対面での相談件数、advising@ciece-メール送受信件数

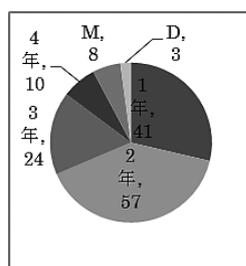


(1) - 2. 対面での留学相談利用者

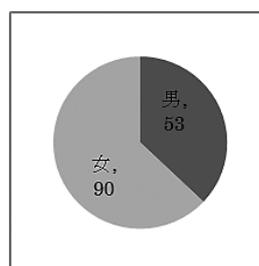
学部



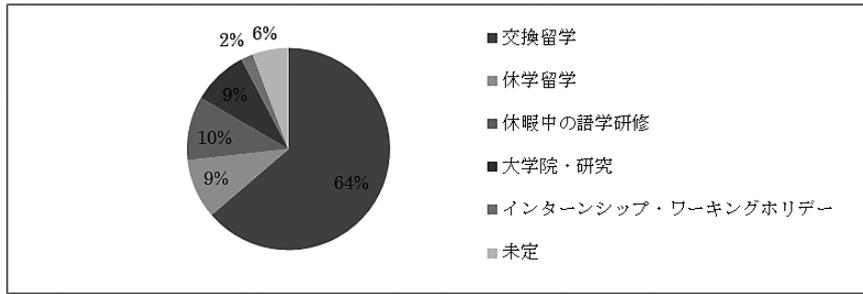
学年



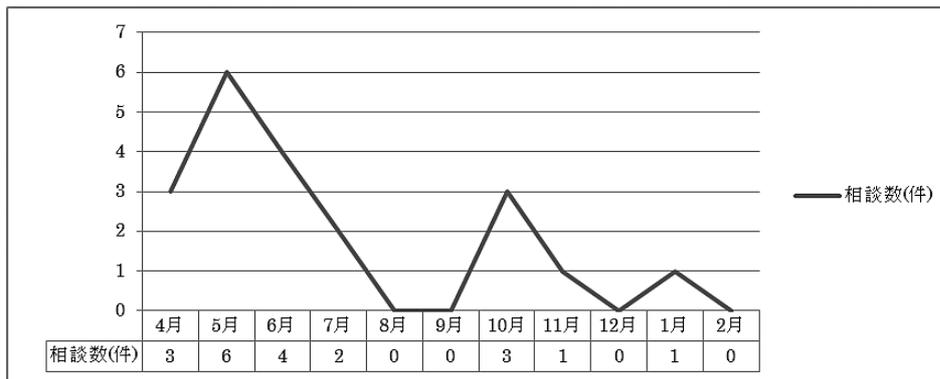
性別



(1) - 3. 留学相談内容



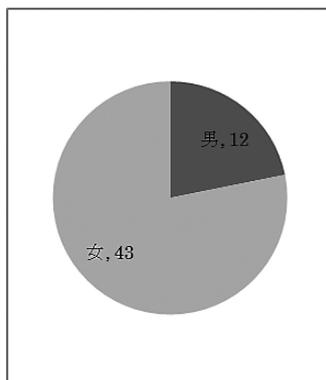
(2) 交換留学帰国学生有志による個別相談件数 (20件) (相談希望に応じ実施)



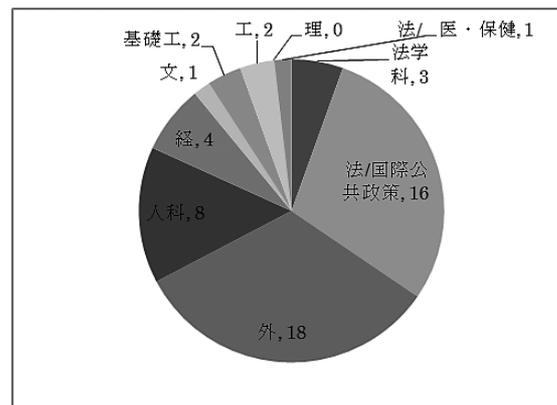
(3) 交換留学帰国学生有志による定期的な留学相談会

(3) - 1. 参加者プロフィール (参加者合計 55名)

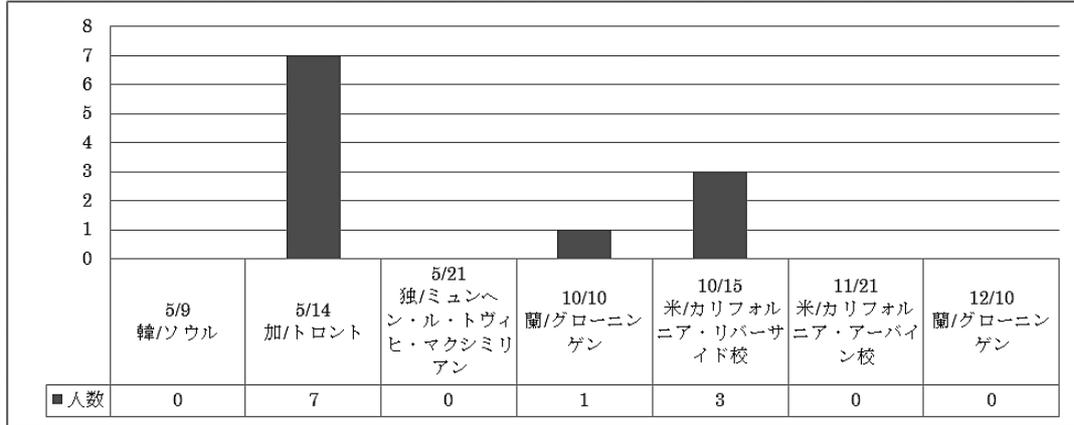
性別



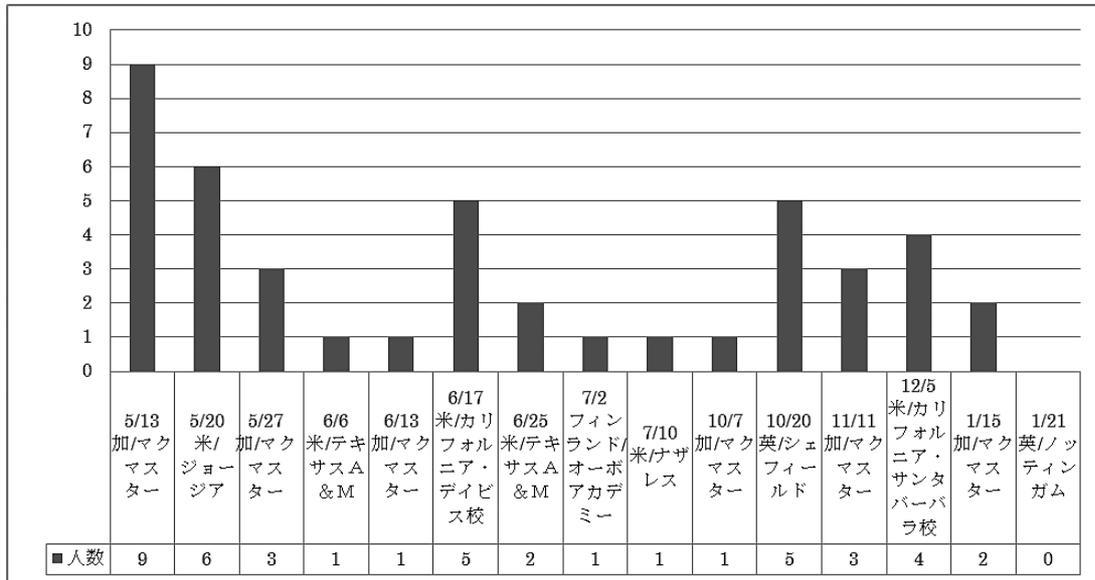
学部



(3) - 2. 箕面キャンパス開催会参加人数



(3) - 3. 豊中キャンパス開催会参加人数



Ⅷ サポートオフィスの活動

2007年10月に国際部学生交流推進課内に設置されたサポートオフィスは、大阪大学が文部科学省から国際化拠点整備事業（Global 30）に採択されたことに伴い、2009年10月、国際教育交流センター（旧留学生センター）内に新オフィスを設立し、事業を拡大・拡充した。

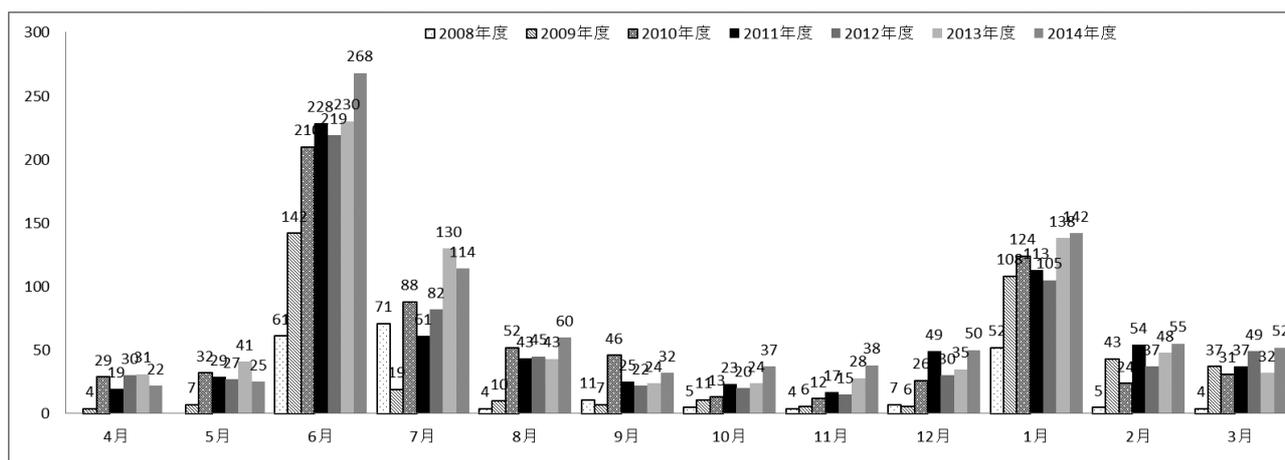
サポートオフィスでは、留学生・外国人研究者、およびその家族の方が必要とする、入国前から帰国時までの各種情報を提供している。このような活動をとおして、世界中から大阪大学に来る留学生・外国人研究者と大阪大学のスタッフ全員の絆を大切に、留学生・外国人研究者が安心して日本で生活し、本来の目的である勉学・研究活動に集中できるように支援することを目指している。



2014年度のサポートオフィスの主な取り組みは次のとおりである。

1. 査証（ビザ）関連手続きの支援

2014年度の在留資格認定証明書（CESR）交付申請手続きの件数は895件であった（「留学」609件、「教授」161件、「文化活動」43件、「家族滞在」82件、その他0件）。CESR Web申請システムは、新システム（申請者画面の日英併記、管理者画面変更）に移行した。また、ビザ関連支援に関するE-mailの送信件数は約5,400件、電話対応件数は約1,825件、窓口対応件数は約370件であった。グラフに2008年度からの月別のCESR Web申請件数を示す。



2. 住宅・宿舎手配の情報提供・支援

2010年4月にUR都市機構との留学生・外国人研究者に対する賃貸住宅貸与に関わる全学での包括協定が締結され、連帯保証人不要・敷金減免や研究者向けには家具家電付住宅とNPOによる生活サポートサービスが実現した*。これに伴い、URとの契約件数(入居者人数)は、2009年度は1件(1名)だったが、サポートオフィスが業務を引き継いだ2010年は10件(14名)、2011年度は33件(42名)、2012年度は48件(62名)、2013年度19件(26名)、2014年度43件(51名)と確実に支援実績を伸ばしている。2015年3月末日現在、約60名がキャンパス周辺のUR賃貸住宅に居住している。

入学・住み替え時期を見据え、2010年5月から開始した「留学生のための宿舎情報提供プロジェクト」では、2014年春に139名、秋に276名の留学生に宿舎情報提供支援を行った。

GCN-Osakaの住宅サイトにおいて、住宅情報配信者登録不動産業者数を2012年度において11社とし、深刻な宿舎不足への対応策の1つとして、民間不動産業者との連携をとっている。これによって、留学生・外国人研究者が民間住宅の物件情報や物件検索をおこなう際の選択肢が増加した。ハウジングリクエスト機能を用いたリクエスト件数は76件であり、それに対する不動産会社からの返信件数は275件であった。GCNが2014年3月末に修了することに伴い、この住宅サイトをサポートオフィスのホームページに移行し、ハウジングリクエスト・住宅検索がより使いやすくなった。さらに、ホームページでは、留学生や外国人研究者自身がおおよそどのような宿舎に該当するのかを導く宿舎ナビシステムの提供を開始した。

宿舎支援に関するE-mailの送信件数は約2306件、電話対応件数は約593件、窓口対応件数は約546件であった。

*後者については、2014年度で終了。

3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催

サポートオフィスとIRISが主催となり、サイバーメディアセンターの協力のもと、新規来日者向けに、吹田・豊中キャンパスにて年2回オリエンテーションを開催した。

2014年度の参加者の合計は155名であった。主な内容は以下のとおりであった。

- ① サポートオフィス概要
- ② IRISとその他の学内外コミュニティについて
- ③ 在留資格及びその他来日直後に必要な手続きについて
- ④ 宿舎について
- ⑤ 大阪大学で新しい生活を始めるにあたってのアドバイス
- ⑥ 大阪大学のインターネットサービスについて

新規来日留学生・外国人研究者向け
オリエンテーション

◆開催日時・場所
4月2日(木) 9時30分～11時00分 英語 11時00分～12時30分 日本語
豊中キャンパス 全学教育推進課 電機・情報6棟 1階 104号
4月8日(木) 9時30分～11時00分 英語 11時00分～12時30分 日本語
吹田キャンパス コンベンションセンター 1階 会議室1

◆実施内容
阪大への歓迎とサポート体制の紹介
学外や学内のコミュニティネットワークについて紹介
来日直後に必要な手続きについて
宿舎について
阪大での新たな生活スタートにあたってのアドバイス
学内の情報ネットワークについて
個別相談(自由参加)

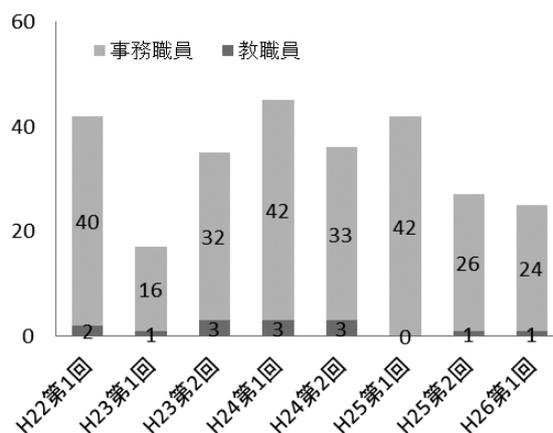
主催:サポートオフィス&IRIS(国際教育支援センター) 協力:サイバーメディアセンター

吹田キャンパス:コンベンションセンター1階 | 豊中キャンパス:全学教育推進課電機情報6棟1階

<問合せ>
サポートオフィス TEL:06-6879-4750 E-mail: supportoffice@office.osaka-u.ac.jp
留学生交流推進室(IRIS) TEL:06-6879-7076 E-mail: iris@ciee.osaka-u.ac.jp

4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催

2014年秋および2015年春の留学生・外国人研究者の受入に関わる体制支援の強化を目指して、留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者を対象に、受入れに伴う在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きや宿舍支援（情報提供）に関する研修会を以下の日程で開催した。グラフは研修会への参加者数の推移を示す。



【2014（H.26）年度第1回研修会】

参加者 25 名（教員 1 名、事務職員 24 名）

2014年12月9日（火）13：00-15：00（豊中）

2014年12月11日（木）13：00-15：00（吹田）

また、内容は以下のとおりであった。

- ① 査証の種類及び在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きの手順について
- ② 留学生等へのサポートオフィスの宿舍支援（情報提供）について

5. 留学生・外国人研究者受入担当者向け説明会の開催

2014年秋および2015年春の留学生・外国人研究者の受入体制支援の強化および各部局との連携強化を目指して、受入担当者を対象とした説明会を以下の日程で開催した。グラフは説明会への参加者数の推移を示す。

【2014（H.26）年度第1回説明会（第12回）】

参加者 66 名（教職員 11 名、事務職員 55 名）

2014年7月2日（水）13：30-15：30（吹田）

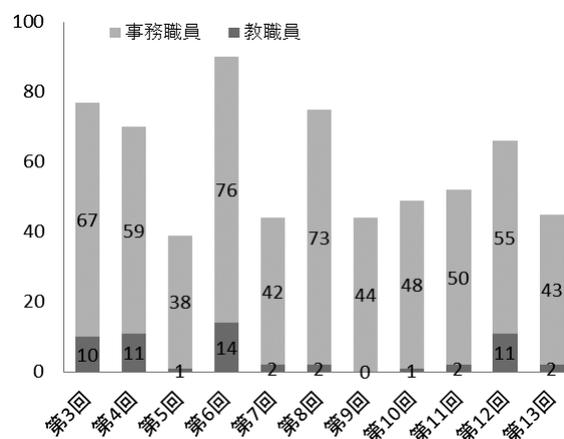
2014年7月3日（木）13：30-15：30（豊中）

【2014（H.26）年度第2回説明会（第13回）】

参加者 45 名（教職員 2 名、事務職員 43 名）

2014年12月9日（火）15：00-16：00（豊中）

2014年12月11日（木）15：00-16：00（吹田）

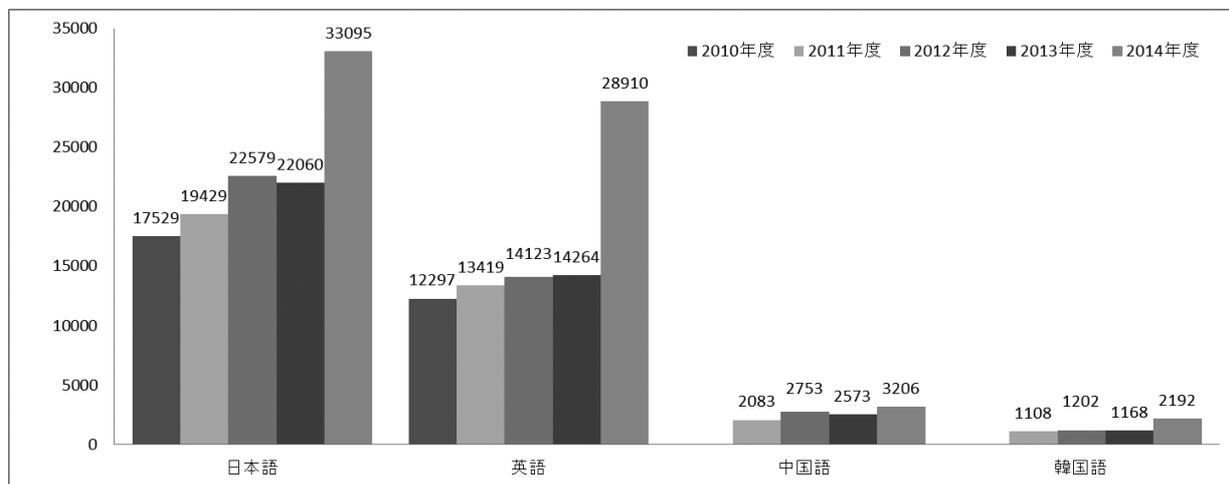


また、内容は以下のとおりであった。

- ① 在留資格認定証明書交付申請手続きにおける、最新情報、最近の事例紹介について
- ② 今春受入予定の留学生等宿舍情報について

6. ホームページの管理運営

サポートオフィスの業務や留学生・外国人研究者が必要な情報を集約したホームページを4ヶ国語で公開している（日・英サイトは2010年4月より、中・韓サイトは2011年4月より公開）。2014年度のサイトの閲覧件数は、日本語サイトが約33095件、英語サイトが約28910件、中国語サイトが約3206件、韓国語サイトが約2192件であった。グラフは各言語の閲覧件数を示す。



大阪大学サポートオフィス
for International Students and Scholars, Osaka University

ようこそ | サポートガイド | ビザ | 住居 | GCN Osaka | オリエンテーション | 日本での生活 | キャリアサポート | FAQ | 資料

このページを翻訳する

新着情報 過去のお知らせ →

- 4月の豊中サポートオフィス開室日について
- 4月3日(水)・4月4日(木) 新規来日外国人留学生・研究者対象オリエンテーション
- 学内宿舍予約システム(RRS)の一時利用停止のお知らせ
- 3月5日(火) 新規来日外国人留学生・研究者対象オリエンテーション
- 3月の豊中サポートオフィス開室日について

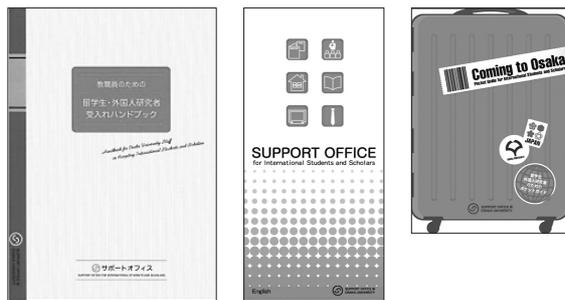
部局担当者へのお知らせ その他 →

- 「大阪大学津島台国際学生宿舎」入居者臨時追加募集について
- 4月の豊中サポートオフィス開室日について
- 4月3日(水)・4月4日(木) 新規来日外国人留学生・研究者対象オリエンテーション
- 学内宿舍予約システム(RRS)の一時利用停止のお知らせ
- 大阪大学津島台国際学生宿舎入居者臨時募集について(受け入れ部局用)

7. 各種印刷物の改訂版作成・配布

『教職員のための留学生・外国人研究者受入ハンドブック』は、説明会や研修会を中心に配布した（約 112 部配布）。『Coming to Osaka』は、主に CESR 送付時に同封し（約 590 部送付・配布）、『Living in Osaka』は新規来日者向けオリエンテーションで主に配布した（約 966 部配布）。『Living in Osaka』の別冊として子育てに関する情報を集約した「妊娠・出産・子育て編」、および宿舎情報やそれに関連する契約・引越し等に関する情報を集約した「住まい編」も必要対象者に配布した（妊娠・出産・子育て編：約 73 部送付・配布、住まい編：約 194 部送付・配布）。また、5カ国語（英・中・韓・タイ・スペイン いずれも日本語併記）で書かれたサポートオフィスの紹介パンフレットのうち、英語版は大学や留学フェアへの来訪者に配布された。（英：約 257 部）

*（ ）内の数値は 2014 年度の配布数。



来日前



SOハンドブック

(2010.04作成, 2012.7, 改訂版作成)

留学生・海外教育機関等にフェア等で配布

- (英) 2014.8 改訂版作成
- 2010年 3453部, 2011年 9555部, 2012年 1578部, 2013年 5477部, 2014年 257部
- (簡) 2010年 981部, 2011年 312部, 2012年 195部, 2013年 16部, 2014年 348部, 2011年 57部, 2012年 126部, 2013年 26部, 2014年 1004部, 2011年 60部, 2012年 121部, 2013年 25部, 2014年 202部, 2011年 78部, 2012年 116部, 2013年 16部, (伊) 2010年 616部, 2011年 73部, 2012年 425部, 2013年 15部, 2014年 0部

来日時



Living in Osaka

(2010.04作成, 2012.9, 2014年6 改訂版作成)

留学生・研究者にオリエンテーション等で配布

- 2010年 2174部配布
- 2011年 565部配布
- 2012年 1450部配布
- 2013年 764部配布
- 2014年 966部配布

オリエンテーション

(2010.04~2014.03毎月開催, 2014.4~年2回開催)

- 参加者数
- 2010年 計218名
- 2011年 計198名
- 2012年 計167名
- 2013年 計202名
- 2014年 計170名

滞日中～離日時



妊娠・出産・子育て (2012.04作成)

- 2012年 569部配布
- 2013年 227部配布
- 2014年 73部配布

住まい編 (2012.04作成)

- 2012年 712部配布
- 2013年 332部配布
- 2014年 194部配布

Coming to Osaka

(2010.04作成)

2012.8, 2014.6改訂版作成

留学生・研究者にCESR送付時に同封(CESR送付はEMSを利用)

- 2010年 2194部配布
- 2011年 626部配布
- 2012年 656部配布
- 2013年 981部配布
- 2014年 590部配布

サポートオフィス新HP

(日英2010.04公開, 中韓2011.04公開)

来日前から滞日中・離日までの情報を集約・発信

- 日・英HPアクセス件数: 2010年 29826件, 2011年 36039件, 2012年 40657件, 2013年 40065件, 2014年 62005件

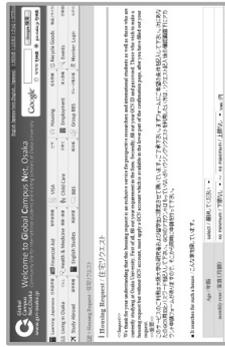


ビザ関連手続き

担当者は、留学生・研究者にCESR Web申請に必要な情報を送付, SOに必要書類を提出

留学生・研究者は, CESR Web申請, SOに必要書類を提出

- web申請件数: 2010年 682件, 2011年 698件, 2012年 681件, 2013年 804件, 2014年 895件



宿舎関連

留学生・研究者は,

GCN-Osaka(2014.3.31) Housing Request

で物件検索・希望物件の情報リクエスト

- Request件数 2010年 97件, 2011年 79件, 2012年 104件, 2013年 79件, 2014年 76件
- 返信件数 2010年 289件, 2011年 224件, 2012年 333件, 2013年 284件, 2014年 275件

留学生・研究者には

HP・Living in Osaka・GCNを通して情報提供

e-mail・電話・ウオーキングで各種相談への対応

部属担当者には

受入ハンドブック, HPを通して情報提供

e-mail・電話・ウオーキングで各種相談への対応

スタッフ対応件数(月平均)

- e-mail送信件数
- 2010年 月平均861通
- 2011年 月平均773通
- 2012年 月平均630通
- 2013年 月平均649通
- 2014年 月平均642通

電話対応件数

- 2011年 月平均308件
- 2012年 月平均280件
- 2013年 月平均316件
- 2014年 月平均227件

窓口対応件数

- 2011年 月平均202件
- 2012年 月平均134件
- 2013年 月平均121件
- 2014年 月平均104件

GCN-Osaka Flyer (2012.9)リニューアル(2014.3.31にて終了)

留学生・研究者にオリエンテーション等で配布

2010年 2075部, 2011年 1360部, 2012年 679部, 2013年 711部 配布

- GCN訪問者数 2011年 46015件, 2012年 49318件, 2013年 40092件
- GCN ID発行件数 2010年 820件, 2011年 898件, 2012年 752件, 2013年 641件
- コラム配信件数 2010年 497件, 2011年 610件, 2012年 695件, 2013年 794件
- コーナー登録者数 2010年 113名, 2011年 232名, 2012年 14件, 2013年 5件

大阪大学留学生数: 2010年 1608名, 2011年 1780名, 2012年 1924名, 2013年 1985名, 2014年 2012名
大阪大学外国人研究者数: 2009年 3198名

X. 大学院・学部教育

国際教育交流センター教員はそれぞれの専門分野に応じて、兼任教員として大学院・学部教育を担当している。以下、1. 授業担当、2. 研究指導、3. 研究指導学生学位論文、4. リサーチ・アシスタント (RA) の受入れの順で、教学活動を記述する。

1. 授業担当

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程

【科目名】応用言語学研究A

【講義題目】第二言語教育学のための言語心理学（西口光一）

【講義概要】現代の外国語教育学は、現代の言語研究が拠り所としているのと同じ言語観や言語コミュニケーション観に基づいて成立している。その一方で、人文科学の分野においては、記号論の観点から言語や思考や意識などを基礎づけなおす作業がすすんでいる。本講義では、そうした動きの中心に位置するバフチンの言語哲学・記号論を、外国語教育学の興味・関心に引きつけて読み解いた。授業は、『第二言語教育におけるバフチンの視点』（西口光一著、くろしお出版）の各章を輪読する形で進めた。また、バフチンの言語観に基づいて開発された基礎日本語教科書『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese — テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）に関して、バフチン言語論との関連や教育内容と教育方法等について解説した。

【科目名】応用言語学研究B

【講義題目】ダイアロジズムと第二言語教育学（西口光一）

【講義概要】バフチンの言語哲学・文化記号論をさらに深く理解し、外国語教育学への応用を検討することを目的として、『第二言語教育におけるバフチンの視点』の第7章から第11章までを輪読の形式で講じた。随時に、自己表現活動中心の基礎日本語教育の方法についても言及した。

【科目名】言語技術研究A

【講義題目】日本語による書記言語によるコミュニケーション（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、日本語による書記言語の特徴と関連の概念について理解し、それをもとに、種々のメディアを通じたコミュニケーション、および言語教育の実践上の問題について考察することである。考察に際しては、ジャンル分析の手法を援用しつつ、各種文書や教材等の具体的な言語資料を材料として表現やテキスト構造の分析を行った。また、関連の学術論文等の文献を読むことにより、書記言語でのコミュニケーションにおいて生じる誤解や、正確な伝達の不成功に関する課題についても認識を促した。

本授業では、基本的に演習形式により、発表やディスカッションを積極的に取り入れた。受講者には、上記テーマにかかわる問題意識をもって事前に文献等の講読を行い、授業中に積極的かつ簡潔に発言することを課した。

【科目名】言語技術研究B

【講義題目】アカデミック・ライティングの実践と研究（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、関連の学術論文等の文献を読みつつ、書記言語コミュニケーションとしてのアカデミック・ライティング（以下、ライティング）について理解を深めた上で、複数回の演習を通してライティングの運用能力の向上を図ることである。特に、大学院生として研究活動を行う上で必要となるライティングに関して、ディスコース・コミュニティの概念から、受講者各自の専門分野における事情や方法論を客観的に把握できることを目指した。原著論文をはじめ、レポートやレジュメ、要旨の作成といった、アカデミックな場面でのライティング活動の特徴、および多様な背景を有する読み手への配慮について、具体例に基づき、十分な意見交換を行った。

本授業では、基本的に演習形式により、発表やディスカッションを積極的に取り入れる。受講者には、上記テーマにかかわる問題意識をもって事前に文献等の講読を行い、授業中に積極的かつ簡潔に発言することを課した。

【科目名】言語文化教育論A

【講義題目】言語文化教育論入門（大谷晋也）

【講義概要】まず、言語とは、文化とは、言語文化とは、そして言語文化教育とは何かということ、それらを取り巻く周辺領域を視野に入れながら再考した。世界の多言語・多文化状況を確認した後、フランスや日本などを例にとりながら、言語文化教育が担い、担わされてきた負の歴史について振り返るとともに、それを正へと転換する方策について検討した。その後、少数民族に対する中国の言語政策とアラビア語圏各国の諸相について、院生の発表を元に考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科目名】言語文化教育論B

【講義題目】言語文化教育の現状と課題（大谷晋也）

【講義概要】ヨーロッパと東南アジアのいくつかの国や地域に焦点を当て、現在行われている言語文化教育を知るとともに、よりよい教育の可能性について、院生の発表を元に考察した。

特に、異言語教育や少数言語に関する各国の言語（教育）政策を取り上げ、その目的と効果、理想と現実について知り、より平等で開かれた社会を目指した言語文化教育がどのようなものであるべきなのかを検討した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科目名】言語コミュニケーション論A

【講義題目】日本語教育学の方法論（義永美央子）

【講義概要】本講義では、本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子著『日本語教育学研究の歩き方』（大阪大学出版会、2014）をテキストとして、第二言語としての日本語の学習や教育に関する研究を概観した。また、研究目的・研究課題の設定から論文の執筆に至るまでの研究の進め方について、特に方法論の側面から検討した。授業では発表やディスカッションを中心とし、受講生の主体的かつ積極的な参加を

促した。

【科目名】言語コミュニケーション論B

【講義題目】質的研究入門（義永美央子）

【講義概要】本講義では、『事例から学ぶはじめての質的研究法—教育・学習編—』（秋田喜代美・能智正博監修、東京図書、2007）を読み、外国語教育研究における質的研究・定性的研究の基本的姿勢や分析方法について理解を深めた。また、フィールドワークやインタビュー等によって得られたデータの「分厚い記述」がどのようにして可能になるのかを考察した。授業では発表やディスカッションを中心とし、受講生の主体的かつ積極的な参加を促した。

【科目名】応用マルチメディア論A

【講義題目】ITによる言語教育の拡張（難波康治）

【講義概要】e-Learningということばが使われるようになって、すでに久しい。また、ICT技術は携帯電話やゲーム機などのようにユーザに「コンピュータ」を意識させないまま、コミュニケーションの形態を急速に変化させ続けている。このような状況の中、第二言語教育あるいは外国語教育にとって、IT技術の活用がどのような意味を持つかについて検討した。実際のウェブ教材およびITデバイスを通して、その有用性を相互に報告する形で、評価を行い、その成果をwebサイトにおいて公開した。

【科目名】応用マルチメディア論B

【講義題目】外国語教育におけるインターフェイスの変革（難波康治）

【講義概要】後期は、昨今テスト理論として注目を集めている項目応答理論（IRT）を応用してWeb上にアダプティブテストを作成することを目的に、演習形式にて各種テスト理論を基礎から学んだ。

【科目名】言語文化政策論A

【講義題目】多文化主義の構想（西村謙一）

【講義概要】かつて、近代国家は単一の「国民」で形成されているとの擬制のもとにあったが、その擬制は必ずしも成り立たないと指摘されるようになってすでに久しい。国家が複数のエスニック・グループを内包しており、それが「国民」としての一体性を持ちえないケースもあるということは、国家のあり方を議論する際の前提として広く受け入れられるようになっている。

この授業では、欧米諸国のヘイト・スピーチの現状とその規制の試みを概観し、複数のエスニック・グループを内包する国家における個人の自由の尊重と差別的言動の規制がどのように共存しうるかについて検討をおこなった。

【科目名】言語文化政策論B

【講義題目】多文化状況の中の市民社会（西村謙一）

【講義概要】今日、世界的な民主化の潮流の中、民主主義の定着と深化に欠かすことのできないものとしての「市民社会」の重要性に注目が集まっている。この「市民社会」は、個人の尊厳と個人間の平等を保障し、そのために討議による合意（あるいは差異への同意）を重視する。しかし、複数のエスニック・グループが存在する、あるいは多文化状況がみられる社会において、「市民社会」はいかにして成立しうるのだ

ろうか。特に、ある特定のエスニック・グループ（あるいは文化的集団）が政治的・経済的支配集団として存在する場合に、「市民社会」を複数のエスニック・グループ（文化的集団）の参加の下に形成することは可能だろうか。

この授業では、「言語文化政策論A」でみたヘイト・スピーチをめぐる議論をも踏まえつつ、表現の自由と差異の尊重との関係について検討を加えた。

②博士後期課程

【科目名】応用言語学特別研究A（西口光一）

【科目名】応用言語学特別研究B（西口光一）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（村岡貴子）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（村岡貴子）

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程 及び ② 博士後期課程

【科目名】生涯教育学特定演習Ⅰ（木村涼子、有川友子）

及び生涯教育学特定演習Ⅱ（木村涼子、有川友子）

【講義題目】文化と教育に関する研究Ⅰ及びⅡ（有川友子担当分）

【講義概要】授業は2名の教員で分担したが、有川は文化と教育にかかわる多様な研究を参考にしながら、その理論的枠組みや研究方法、また社会に生起する具体的な諸課題への示唆について考えた。

(3) 工学研究科

① 博士前期課程

【科目名】プロダクトデザイン Product Design（宮原啓造）

【講義概要】機械や装置などのプロダクトを設計し開発していくための方法論を実践的な課題学習を通じて修得する。具体的には「プロダクトデザイン方法論」で講述される設計・開発のための方法論に基づきつつ、数名の学生からなるチームに産業界から提供される具体的な開発設計のための模擬課題をプロジェクトとして与え、各課題の分析・設計・試作などを通じて、一連の方法論の内容、それらを総合的に運用するためのプロセスについての考え方、創造的なデザインに求められる基本的な能力などを養う。

(4) インターナショナル・カレッジ

【春学期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

| 科目名（日本語名称） | 科目名（英語名称） | 担当教員名 |
|---------------|--|-------|
| イギリス「異文化体験」演習 | Pre-Study Abroad Intensive English Program in the UK | 歳岡 冴香 |

日本語 100～500 レベル

| 科 目 名 (日本語名称) | 科 目 名 (英語名称) | 担当教員名 |
|----------------------------|---|------------------|
| 日本語 101 | Japanese Language 101 | (埋橋 淑子) 岡田亜矢子 |
| 日本語 102 | Japanese Language 102 | 花井 理香 |
| 日本語 201 | Japanese Language 201 | 岡崎 洋三 |
| 日本語 202 | Japanese Language 202 | 滝井 未来 |
| 日本語 301 | Japanese Language 301 | 新庄あいみ |
| 日本語 302 | Japanese Language 302 | 新庄あいみ |
| 日本語 401 | Japanese Language 401 | 菅 撰子 |
| 日本語 402 | Japanese Language 402 | 藤澤 好恵 |
| 日本語 501 | Japanese Language 501 | 田中 真衣 |
| 日本語 502 | Japanese Language 502 | 小原 俊彦 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 103 | International Communication Seminar (Japanese) 103 | 金 孝卿 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 203 | International Communication Seminar (Japanese) 203 | 磯野 英晴 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 303 | International Communication Seminar (Japanese) 303 | 西口 光一 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 403 | International Communication Seminar (Japanese) 403 | 難波 康治 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 503 | International Communication Seminar (Japanese) 503 | 大谷 晋也 |

日本語 600 レベル (共通教育科目)

| 科 目 名 (日本語名称) | 科 目 名 (英語名称) | 担当教員名 |
|-----------------------|---|-------|
| 総合日本語 | Japanese for Advanced Communication | 大谷 晋也 |
| 総合日本語 | Japanese for Advanced Communication | 磯野 英治 |
| 総合日本語 | Japanese for Advanced Communication | 金 孝卿 |
| 専門日本語 | Japanese for Academic Purposes | 磯野 英治 |
| 専門日本語 | Japanese for Academic Purposes | 難波 康治 |
| 専門日本語 | Japanese for Academic Purposes | 村岡 貴子 |
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 伊藤ゆかり |
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 宮原 啓造 |

| | | |
|-----------------------|---|-------|
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 大谷 晋也 |
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 磯野 英治 |
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 有川 友子 |

【秋 学 期】

国際交流科目 (※共通教育科目の基礎教養科目として設定)

| 科 目 名 (日本語名称) | 科 目 名 (英語名称) | 担当教員名 |
|-------------------|---|-------|
| 文化：その理解へのアプローチ | Approaches to Understanding Cultures | 有川 友子 |
| 日本のメディアとコミュニケーション | Media and Communications in Japan | 近藤佐知彦 |
| オーストラリア「異文化体験」演習 | Multicultural Interaction between Australia and Japan | 歳岡 冴香 |

日本語 100～500 レベル

| 科 目 名 (日本語名称) | 科 目 名 (英語名称) | 担当教員名 |
|----------------------------|---|-------|
| 日本語 101 | Japanese Language 101 | 岡田亜矢子 |
| 日本語 102 | Japanese Language 102 | 花井 理香 |
| 日本語 201 | Japanese Language 201 | 上仲 淳 |
| 日本語 202 | Japanese Language 202 | 滝井 未来 |
| 日本語 251 | Japanese Language 251 | 岡崎 洋三 |
| 日本語 252 | Japanese Language 252 | 花井 理香 |
| 日本語 301 | Japanese Language 301 | 新庄あいみ |
| 日本語 302 | Japanese Language 302 | 新庄あいみ |
| 日本語 401 | Japanese Language 401 | 菅 摂子 |
| 日本語 402 | Japanese Language 402 | 藤澤 好恵 |
| 日本語 501 | Japanese Language 501 | 田中 真衣 |
| 日本語 502 | Japanese Language 502 | 小原 俊彦 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 103 | International Communication Seminar (Japanese) 103 | 金 孝卿 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 203 | International Communication Seminar (Japanese) 203 | 磯野 英治 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 253 | International Communication Seminar (Japanese) 253 | 西口 光一 |

| | | |
|----------------------------|---|-------|
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 303 | International Communication Seminar (Japanese) 303 | 西口 光一 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 403 | International Communication Seminar (Japanese) 403 | 難波 康治 |
| 国際コミュニケーションセミナー 日本語 503 | International Communication Seminar (Japanese) 503 | 大谷 晋也 |

共通教育科目 (600レベル)

| 科目名 (日本語名称) | 科目名 (英語名称) | 担当教員名 |
|-----------------------|---|-------|
| 総合日本語 | Japanese for Advanced Communication | 磯野 英治 |
| 総合日本語 | Japanese for Advanced Communication | 金 孝卿 |
| 専門日本語 | Japanese for Academic Purposes | 難波 康治 |
| 専門日本語 | Japanese for Academic Purposes | 大谷 晋也 |
| 専門日本語 | Japanese for Academic Purposes | 村岡 貴子 |
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 伊藤ゆかり |
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 西村 謙一 |
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 大谷 晋也 |
| 多文化コミュニケーション (日本語) | Communication in Multicultural Contexts (Japanese) | 磯野 英治 |

2. 研究指導

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程学生

| 学年 | 研究題目 | 指導教員 |
|----|--|------------------|
| M2 | あいづちに対する中国人日本語学習者の話し手としての促し行為と心的効果 —日本語母語話者との対象からの分析— | 村岡 貴子 (力武 京子) |
| M2 | 中国語の大学における観光日本語教育の現状と課題 —観光日本語専攻の学生と教師への調査を通して— | 村岡 貴子 (力武 京子) |
| M2 | 日本で働く中国人看護師が抱える困難と病院側の彼らに対する評価 —言語面と文化面の視点から— | 西口 光一 大谷 晋也 |
| M2 | 中国人日本語学習者と日本語母語話者の「ほめへの返答」について —看護師国家試験の漢字語彙分析から— | 西口 光一 (佐藤 彰) |

| | | |
|-----|--|---------------------|
| M 2 | 難易度の異なるテキストが学習効果に及ぼす影響 —中国人日本語学習者におけるディクトグロスの場合— | (岩居 弘樹) 西村 謙一 |
| M 2 | 日本で生活に必要なとする就労に関する日本語教育 —中国人留学生のアルバイトを支援するため | (中 直一) 難波 康治 |
| M 2 | 非漢字圏日本語学習者における漢字学習に対する動機づけについて | (日野 信行) 義永美央子 |
| M 1 | 語りに見る日本語習得の動機付けと異文化適応との関係 —中国で日本語専攻の中国人留学生を対象として— | 西口 光一 (秦 かおり) |
| M 1 | 日本語ライティング指導における学習者同士のフィードバック研究 —ピア・レスポンスのインターアクションを通して— | 村岡 貴子 (佐藤 彰) |
| M 1 | A Research on Students' Can-do Perception about English under the Context of Japanese Secondary Education | (小口 一郎) 義永美央子 |
| M 1 | 中国語母語話者による漢語の東京語アクセントの誤用 | (郡 史郎) 大谷 晋也 |
| M 1 | 外国をルーツとする児童に対する日本語教育に関する研究 —ボランティアグループにおける学び— | (ジェリー・ヨコタ) 難波 康治 |

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科・全学教育推進機構教員。

② 博士後期課程学生

| 学年 | 研 究 題 目 | 指 導 教 員 |
|-----|--|----------------------|
| D 3 | 日本企業の中国人ビジネスパーソンにおける異文化間コンフリクトへの対応 —中国の大学における日本語のビジネスコミュニケーション教育への応用に向けて— | 村岡 貴子 (森 祐司) |
| D 3 | 専門基礎日本語を学ぶ学習者の「構造化能力」の構築 —研究留学生による専門紹介プレゼンテーション活動の観察を通して— | 村岡 貴子 (岩根 久) |
| D 3 | 日本人大学生の韓国語学習成功者の研究 —学習ストラテジーを中心に— | 西口 光一 (福田 覚) |
| D 3 | 中国語話者を対象とする日本漢字音教育のための基礎的研究 —日本語能力試験 2 級漢語を中心として— | (坂内 千里) 西口 光一 |
| D 3 | 日本語学習者の動機付けに関する研究 —アメリカ人大学生のライフ・ヒストリーより— | (伊勢 芳夫) 西村 謙一 |
| D 3 | 中国語の統語的あいまい文の韻律特徴 | (渡部眞一郎) 難波 康治 |
| D 3 | 対人コミュニケーションにおける「慰め」の様相について —日本語母語話者と韓国語母語話者を中心に— | (A・ディボフスキー) 難波 康治 |
| D 3 | タイ人ビジネスパーソンのビジネスメールにおける方略的能力 —依頼・断りメールに注目して— | (春木 仁孝) 義永美央子 |

| | | |
|-----|--|---------------------|
| D 3 | 会話における応答詞の対人的交渉方略の様相 —「はい」の発話の連鎖と韻律の関わりを中心に— | (郡 史郎) 義永美央子 |
| D 2 | 『太平御覧』から見る唐以前の虎のイメージの変遷 | (坂内 千里) 大谷 晋也 |
| D 2 | オーストラリア在住日英バイリンガル話者のコードスイッチング | (ジェリー・ヨコタ) 義永美央子 |
| D 2 | 公立小学校で低学年に JSL 児童に日本語を教える日本語指導協力者たちの ライフヒストリーからみる日本語指導協力者の意味世界 | (山下 仁) 難波 康治 |
| D 2 | 台湾における郷土言語の習得と使用から見る台湾人の帰属意識 | (伊勢 芳夫) 西村 謙一 |
| D 1 | 漢民族日本語専攻学習者とモンゴル族日本語専攻学習者との動機づけの比較 とモンゴル族日本語学習者の学習プロセス | 西口 光一 (山本 佳樹) |
| D 1 | 外国語学習の継続に影響を及ぼす要因 —韓国語学習者の学習への解釈を中心に— | 西口 光一 (植田 晃次) |
| D 1 | 英語教育研究の素地としての言語哲学の探究と方法論 | 西口 光一 (岡田 悠佑) |
| D 1 | EPA 看護師候補者のための漢字・語彙指導 —看護師国家試験の出題漢字・語彙のデータベースに基づくオンライン教材 開発— | 村岡 貴子 大谷 晋也 |

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

③ 研究生

| 研 究 題 目 | 指 導 教 員 |
|---|---------|
| 中国人日本語学習者の断り行動における語用論的転移について | 難波 康治 |
| 中国ソーシャルネットワークの発達とその社会民主化への影響 | 西村 謙一 |
| 自律学習能力を促進するためのゲーミフィケーションのコンセプトの活用 —中国における大学専攻日本語教育を例に— | 大谷 晋也 |
| 親しい対話者との自己開示における特徴の日韓比較 —相互行為の観点から— | 義永美央子 |
| 日本語文字との接触場面における調整行動について —非漢字圏留学生の事例から— | 義永美央子 |

3. 研究指導学生学位論文

(1) 言語文化研究科

① 修士学位論文

| 論 文 題 目 | 指 導 教 員 |
|--|------------------|
| あいづちに対する中国人日本語学習者の話し手としての促し行為と心的効果 —日本語母語話者との対象からの分析— | 村岡 貴子 (力武 京子) |
| 中国語の大学における観光日本語教育の現状と課題 —観光日本語専攻の学生と教師への調査を通して— | 村岡 貴子 (力武 京子) |
| 中国人日本語学習者と日本語母語話者の「ほめへの返答」について —看護師国家試験の漢字語彙分析から— | 西口 光一 (佐藤 彰) |
| 難易度の異なるテキストが学習効果に及ぼす影響 —中国人日本語学習者におけるディクトグロスの場合— | (岩居 弘樹) 西村 謙一 |
| 非漢字圏日本語学習者における漢字学習に対する動機づけについて | (日野 信行) 義永美央子 |

注) 「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科・全学教育推進機構教員。

② 博士学位論文

| 論 文 題 目 | 指 導 教 員 |
|--|------------------|
| リーディングと連携したアカデミック・ライティングの実践研究 —学部留学生を対象にした思考ツールの利用— | (鈴木 睦) 村岡 貴子* |
| 日本語学習者の動機付けに関する研究 —アメリカ人大学生のライフ・ヒストリーより— | (伊勢 芳夫) 西村 謙一 |

*印は博士論文資格審査後の研究指導教員。()内は言語文化研究科教員。

4. リサーチ・アシスタント (RA) の受入れ

| 研 究 プ ロ ジ ェ ク ト 名 | 採用時間数 | 担当教員 |
|---------------------------------|-------|-------|
| 離散値駆動型マニピュレータおよび自律分散型移動体システムの研究 | 146 | 宮原 啓造 |
| 東南アジアの地方自治に関する研究 | 110 | 西村 謙一 |

XI. その他の活動

1. 各種行事

○学内行事

- ・2014年4月7日 交換留学学生オリエンテーション
於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1階会議室 参加者：80名
- ・2014年4月8日 平成26年度春季第41-1回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：吹田キャンパス ICホール 2階講義室 1～6、4階会議室、留学生交流情報室（IRIS） 組み合わせ数 52組
- ・2014年4月8日 国際交流科目担当教員・TA対象FDオリエンテーション
於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1F 研修室 参加者：教職員3名、TA3名
- ・2014年4月9日 交換留学学生オリエンテーション
於：豊中キャンパス 総合図書館およびサイバーメディアセンター 参加者：73名
- ・2014年4月9日 国際交流科目担当教員・TA対象FDオリエンテーション
於：豊中キャンパス 全学教育講義棟 A104 参加者：教職員7名、TA1名
- ・2014年4月17日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 全学大講義室 参加者：138名
- ・2014年4月17日 第13回大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール 4階会議室 学内参加者：3名、学外参加者：8名、合計：11名
- ・2014年4月19日 平成26年度春季第41-2回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、講義室 1301-1305、1311-1313 組み合わせ数 33組
- ・2014年4月21日 海外留学オリエンテーション（入門編）
於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：80名
- ・2014年5月28日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：豊中キャンパス 大阪大学会館講堂 参加者：65名
- ・2014年6月2日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：吹田キャンパス ICホール 2階講義室 5, 6 参加者：14名
- ・2014年6月3日 第66回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：豊中キャンパス 待兼山会館 会議室 参加者：17名
- ・2014年6月4日 海外留学オリエンテーション（本編）
於：箕面キャンパス A棟 416講義室 参加者：117名

- ・2014年6月5日 海外留学オリエンテーション（本編）
 於：豊中キャンパス 大学会館講堂 参加者：111名
- ・2014年7月25日 平成26年度国際教育交流センター連絡・交換会
 於：豊中キャンパス 大学会館アセンブリーホール 参加者：50名
- ・2014年8月4日 第40回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
 於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者：学内4名、学外20名、
 合計24名
- ・2014年8月6日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
 於：豊中キャンパス 全学大講義室 参加者：162名
- ・2014年8月6日 留学報告会
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズマッチング型セミナー室
 参加者：36名
- ・2014年9月2日 第67回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者：17名
- ・2014年9月26日 交換留学学生オリエンテーション
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター3階MOホール 参加者：135名
- ・2014年9月29日 平成26年度秋季第42-1回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室1～6、4階会議室、留学生交流情報
 室（IRIS） 組み合わせ数63組
- ・2015年9月29日 トビタテ！留学JAPAN説明会
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ開放型セミナー室 参加者：45名
- ・2014年9月29日 国際交流科目担当教員及びTA予定者対象FDオリエンテーション
 於：吹田キャンパス 情報科学研究科1階A109講義室
 参加者：教職員7名、TA2名
- ・2014年9月30日 交換留学学生オリエンテーション
 於：豊中キャンパス 総合図書館およびサイバーメディアセンター
 参加者：130名
- ・2014年9月30日 国際交流科目担当教員及びTA予定者対象FDオリエンテーション
 於：豊中キャンパス 文理融合研究棟6階講義室1 参加者：教職員9名
- ・2014年10月7日 平成26年度秋季第42-2回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5、6、留学生交流情報室（IRIS）
 組み合わせ数8組
- ・2014年10月11日 平成26年度秋季第42-3回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
 於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、
 講義室1301-1305、1311-1313 組み合わせ数64組

- ・2014年10月22日 平成25年度外国人留学生のための就職対策講座 第1回目「Introduction」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5, 6、参加者：17名
- ・2014年10月24日 平成25年度外国人留学生のための就職対策講座 第2回目「日本で就職すること / 情報収集及び企業・業界研究」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ 開放型セミナー室、参加者：14名
- ・2014年11月6日 平成25年度外国人留学生のための就職対策講座 第3回目「自己分析 キャリアデザイン」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ マッチング型セミナー室、
 参加者：12名
- ・2014年11月7日 平成25年度外国人留学生のための就職対策講座 第4回目「OB・OGによる体験談」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5, 6、参加者：5名
- ・2014年11月17日 平成25年度外国人留学生のための就職対策講座 第5回目「エントリーシート
 の書き方 / 合同企業説明会等対策」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室1、参加者：16名
- ・2014年11月27日 平成25年度外国人留学生のための就職対策講座 第6回目「内定者による体験談」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5, 6、参加者：24名
- ・2014年12月11日 第68回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：豊中キャンパス 大阪大学会館2階セミナー室2 参加者：17名
- ・2014年12月21日 国際教育交流センタースピーチコンテスト
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター研修室1 発表者：11名
- ・2015年1月8日 平成24年度外国人留学生のための就職対策講座 第7回目「面接対策(1)」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室1、参加者：20名
- ・2015年1月15日 平成24年度外国人留学生のための就職対策講座 第8回目「面接対策(2)」
 於：吹田キャンパス ICホール2階講義室5, 6、参加者：16名
- ・2014年2月5日 第3回留学生交流・指導研究会（国立大学留学生指導研究協議会主催）
 於：吹田キャンパス 银杏会館3階会議室
 学内参加者：4名、学外参加者：26名、合計：30名
- ・2015年2月5日 平成26年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会
 第42回大阪大学留学生教育・支援協議会
 於：吹田キャンパス 银杏会館3階阪急電鉄・三和銀行ホール
 学内参加者：38名、学外参加者：73名、合計：111名
- ・2015年2月12日 トビタテ！留学JAPAN 説明会
 於：吹田キャンパス 医学部保健学科第5講義室 参加者：17名
- ・2015年2月12日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
 於：吹田キャンパス 医学部保健学科第1講義室 参加者：103名
- ・2015年2月12日 留学報告会
 於：吹田キャンパス 医学部保健学科第2講義室 参加者：28名

- ・2015年2月17日 第8回 専門日本語教育研究協議会
於：吹田キャンパス コンベンションセンター、
参加者：65名（学内33名・学外32名）
- ・2015年2月19日 第23回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会
於：吹田キャンパス 银杏会館3階 阪急電鉄・三和銀行ホール
学内参加者：26名、学外参加者111名、合計：137名
- ・2015年2月27日 トビタテ！留学JAPAN相談会
於：吹田キャンパス情報科学研究科 A棟101教室 参加者：7名
- ・2015年3月9日 第41回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者：学内4名、学外17名、
合計21名
- ・2015年3月12日 第69回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス ICホール4階会議室 参加者：16名

○学外行事

- ・2014年6月28日 HOME 多文化セミナー 参加者：計74名
－29日 国際教育交流センターから1名の専任教員が研修実施に協力
- ・2014年8月19日 AEARU サマーキャンプ 参加者：計61名
－8月26日 国際教育交流センターから計4名の専任教員が研修実施に協力
- ・2014年10月14日 Austrade・在大阪オーストラリア総領事館主催「オーストラリア留学セミナー
& ネットワーキング」（於：グランフロント大阪）
国際教育交流センターから1名の専任教員が研修講師として協力
- ・2014年10月26日 国際交流フェスティバル（H.O.M.E. 千里万博）
国際教育交流センターから1名の専任教員が研修実施に協力
- ・2014年10月30日 サクラサイエンスプラン（タイ・マヒドン科学高校研修）
－11月4日 国際教育交流センターから1名の専任教員が研修実施に協力（実施主体：吹田
市国際交流協会）
- ・2015年2月4日 第三回日韓学生会議 Korea-Japan Student Workshop 参加者：計21名
－10日 国際教育交流センターから1名の専任教員が研修実施に協力（実施主体：G30
阪神ネット）
- ・2015年2月13日 AEARU サマーキャンプ同窓会 参加者：計27名（大阪大学学生11名）
－15日 国際教育交流センターから2名の専任教員が研修実施に協力

2. 留学フェアへの参加

- ・2014年8月29日 チエンマイ JASSO 日本留学フェア 村岡教授
8月31日 バンコク JASSO 日本留学フェア 村岡教授

3. 海外出張・海外研修

○海外出張

- ・2014年4月18日 村岡貴子教授、西村謙一准教授 大韓民国のソウルに出張
ー4月20日 慶熙大で開催された「日韓共同シンポジウム」への参加、科研での研究打ち合わせのため
- ・2014年6月17日 大谷晋也准教授 イタリア共和国ロンバルディア州ベルガモ市に出張
ー6月23日 **THE LANGUAGE OF MEDICINE: Science, Practice and Academia** で学会発表を行うため
- ・2014年6月19日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏に出張
ー6月21日 科研費基盤研究「東南アジアの自治体エリートサーヴェイ分析」で8月にフィリピンで実施するセミナーに関して、共催者のフィリピン大学行政学部との打ち合わせを行うため
- ・2014年7月3日 村岡貴子教授、磯野英治特任准教授 韓国ソウル特別市、富川市に出張
ー6日 新規超短期プログラム「アカデミック・ジャパニーズの基礎」の実現に向けた中央大、カトリック大との協議のため
- ・2014年7月7日 磯野英治特任准教授 オーストラリアのシドニーに出張
ー13日 旧南洋庁地域パラオの日本語からアジア・太平洋の日本語教育を考える公開研究会、および2014年日本語教育国際研究大会で発表のため
- ・2014年7月9日 義永美央子准教授 オーストラリアのシドニーに出張
ー7月13日 日本語教育国際研究大会（SYDNEY-ICJLE2014）で学会発表を行うため
- ・2014年7月10日 金孝卿特任准教授 オーストラリアのシドニーに出張
ー7月14日 日本語教育国際研究大会（SYDNEY-ICJLE2014）で学会発表を行うため
- ・2014年7月20日 伊藤ゆかり准教授 アメリカ合衆国カリフォルニア州パルアルト市、バークレー市に出張
ー7月28日 次年度のカリキュラム開発に向けて、次年度の授業のカウンターパートとの会合を実施するため
- ・2014年7月23日 魚崎典子特任准教授 香港に出張
ー7月27日 第1回 International Conference on Smart Learning Environment で学会発表を行うため
- ・2014年8月11日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏に出張
ー8月15日 **International Symposium on Comparative Study of Local Government Survey in Southeast Asia: Comparison Among Thailand, the Philippines and Indonesia** で報告を行うため
- ・2014年10月29日 西村謙一准教授 フィリピンのカビテ州に出張
ー11月4日 科研でフィリピン自治体の調査を行うため
- ・2014年11月16日 西村謙一准教授 タイのマハーサーラカム県およびコーンケン市に出張
ー11月20日 **The 3rd International Conference on ASEAN Connectivity** で学会発表を行い、また、タイの地方自治体の調査を行うため

- ・ 2014 年 11 月 27 日 宮原啓造准教授 マレーシアのクアラルンプールに出張
 - 12 月 5 日 平成 26 年 (2014) 年度日本留学フェア対応、マレーシア日本国際工科院における公開講演、在マレーシア日本国大使館および現地予備教育機関における意見交換および情報収集のため
- ・ 2014 年 12 月 7 日 宮原啓造准教授 ニュージーランドのウェリントンに出張
 - 12 月 11 日 工学教育国際学会 (IEEE-Tale 2014) における論文発表のため
- ・ 2015 年 1 月 30 日 宮原啓造准教授 インドネシアのバリに出張
 - 2 月 2 日 社会・文化関連国際教育学会 (SOCIO-CULTURAL 2015) における論文発表のため
- ・ 2015 年 2 月 16 日 近藤佐知彦教授 中国上海およびベトナムハノイ出張
 - 2 月 21 日 Global Admissions Office による海外在住私費留学生特別入試実施のため
- ・ 2015 年 2 月 20 日 村岡貴子教授、タイのバンコクに出張
 - 2 月 25 日 科研による元留学生へのインタビュー調査、タマサート大学での情報収集、カセサート大学での講演・研究打ち合わせ、および大阪大学 ASEAN センターバンコクオフィスでの情報収集のため
- ・ 2015 年 3 月 3 日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏、カビテ州、バタンガス州に出張
 - 3 月 11 日 科研でフィリピン自治体の調査を行うため
- ・ 2015 年 3 月 12 日 魚崎典子特任准教授 ポルトガル、マデイラに出張
 - 3 月 16 日 第 11 回 International Conference on Mobile Learning 2015 で学会発表を行うため
- ・ 2015 年 3 月 17 日 魚崎典子特任准教授 アメリカ、ニューヨーク州ポキプシーに出張
 - 3 月 23 日 第 5 回 International Learning Analytics and Knowledge Conference に出席するため (共著者の学生発表に同行)

4. 出版物・印刷物等 (2014 年 5 月から 2015 年 4 月まで)

| No. | 出 版 物 の タ イ ト ル | 発 行 年 月 |
|-----|---|------------|
| 1 | ガイドブック Living in Osaka 改訂増刷 (7 月納品) | 2014 年 6 月 |
| 2 | ガイドブック Living in Osaka 増刷 (10 月納品、2015 年 4 月納品) | 2014 年 6 月 |
| 3 | Coming to Osaka 改訂増刷 (7 月納品) | 2014 年 6 月 |
| 4 | Support Office for International Students and Scholars 改訂 (7 月納品) | 2014 年 6 月 |
| 5 | Support Office for International Students and Scholars 増刷 (9 月納品) | 2014 年 6 月 |
| 6 | 大阪大学国際教育交流センター 2013 年度年報 | 2014 年 7 月 |
| 7 | 第 40 期日本語集中 (研修) コース修了発表会報告書 | 2014 年 8 月 |
| 8 | 平成 26 年度大阪府教育センター初任者研修における社会体験研修・吹田市初任 2 年目研修における社会体験研修-実施報告書 | 2014 年 8 月 |
| 9 | OUSSEP Calendar 2015-2016 | 2015 年 1 月 |

| | | |
|----|---|---------|
| 10 | 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会参加団体活動概要 | 2015年2月 |
| 11 | 第8回大阪大学専門日本語教育研究協議会報告書 グローバル時代を生き抜く力の養成と大学における日本語教育を考える —大学から社会への橋渡しを視野に— | 2015年3月 |
| 12 | 第41期日本語集中(研修)コース修了発表会報告書 | 2015年3月 |
| 13 | 第23回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会報告書 | 2015年3月 |
| 14 | 大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第19号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No.19 | 2015年3月 |
| 15 | 2015年度(春学期)留学生日本語プログラム履修ガイド Japanese Language Programs for International Students 2015 Spring Semester | 2015年3月 |

5. 来訪者対応

| 年月日 | 来訪者 | センターからの対応者 |
|-------------|--|--------------------------|
| 2014年4月8日 | University of Applied Sciences Stralsund Prof. Mr. Juergen Rothlauf | 近藤教授 |
| 2014年4月14日 | レディング大学 Bruce Howell氏 (Director of ISLI Visiting Student Programme) | 近藤教授、歳岡特任助教 |
| 2014年5月12日 | カリフォルニア大ロサンゼルス校 Prof. William M. Bodiford | 近藤教授、宮原准教授 |
| 2014年5月27日 | 中国大学生日本訪問プロジェクト団 王占起 訪問団長(中国日本友好協会理事・政治交流部長) | 有川センター長 |
| 2014年6月10日 | ボルドー工科大学 Associate Prof. Stephane Azzopardi | 近藤教授 |
| 2014年6月13日 | モナシュ大学 櫻木真由美氏 (Business Development General Manager) | 近藤教授、歳岡特任助教 |
| 2014年6月23日 | パデュー大学 Dallas Kenny氏 (Assistant Vice Chancellor for International Affairs) | 近藤教授、歳岡特任助教 |
| 2014年6月26日 | リーズ大学 Rupert Herington先生 (Director of the English for Academic Purposes component of the International Foundation Year programme) | 近藤教授、歳岡特任助教 |
| 2014年7月1日 | ワシントン大学 Chris Thomas氏 (International Outreach Specialist) | 近藤教授、歳岡特任助教 |
| 2014年7月15日 | モナッシュ大学 Prof. Jeremy Breaden氏 | 西口教授、近藤教授、磯野特任准教授、歳岡特任助教 |
| 2014年9月5日 | オーストラリア国立大学 Kristina Tan氏 (Global Programs Coordinator) | 近藤教授 宮原准教授、歳岡特任助教 |
| 2014年9月10日 | モナシュカレッジ Ms. Jo Mithen (CEO) | 近藤教授 |
| 2014年10月3日 | ハンブルク大学 学長 Prof. Dr. Dieter Lenzen | 近藤教授 |
| 2014年10月8日 | ブリティッシュコロンビア大学 Dr. Hepburn (Vice President) | 近藤教授 |
| 2014年10月8日 | クイーンズランド大学 Mr. Anthony Craig (Regional Manager) | 近藤教授 |
| 2014年10月14日 | オックスフォード大学ハートフォードカレッジ Andrew Hemingway氏 (Co-Director of International Programmes) 他1名 | 近藤教授、歳岡特任助教 |

| | | |
|-------------|--|-------------------|
| 2014年10月17日 | コペンハーゲン大学 Marianne Stig 氏 (International Coordinator Education Services) | 近藤教授、歳岡特任助教 |
| 2014年10月17日 | マセイ大学 Jey-Joung Choi Millward 氏 (International Short Courses Assistant Programme Coordinator) (他1名) | 近藤教授、歳岡特任助教 |
| 2014年10月29日 | レディング大学 Bryce Howell 氏 (Director of ISLI Visiting Student Programme) | 近藤教授、歳岡特任助教 |
| 2014年11月4日 | ニューブランズウィック大学 Alice Foley-Keats 氏 (English Language Program Senior Administrator / Master teacher) | 宮原准教授、歳岡特任助教 |
| 2014年11月12日 | リーズ大学 Dr. Clive Souter (Head of Study Abroad Office) | 近藤教授 |
| 2014年11月18日 | パデュー大学カルメット校 Dr. Peggy Gerard (Provost and Vice Chancellor for Academic Affairs) | 近藤教授 |
| 2014年12月2日 | マッコーリ大学 Michele Robinson (Associate Director, International Relations) | 近藤教授 |
| 2014年12月3日 | カリフォルニア大学 Jean-Xavier Guinard 氏 (Associate Vice Provost / UCEAP Executive Director)、他4名 | 西口教授、近藤教授、磯野特任准教授 |
| 2014年12月16日 | ノートルダム大学 Kenneth Henderson (Senior Assistant Provost for Internationalization) | 近藤教授 |
| 2015年2月6日 | ブリティッシュカウンシル 斉藤氏他1名 | 伊藤准教授 |
| 2015年2月9日 | スコルコヴォ科学技術大学 Prof. Edward Crawley (President) | 有川センター長、近藤教授 |
| 2015年3月12日 | 大韓民国 Ministry of Education NIIED (National Institute for International Education) Hwang, Hyejeong 氏 (Education Researcher)、他2名 | 村岡教授 |
| 2015年3月16日 | トルコ共和国首相府・在外トルコ人家族コミュニティ庁セルダル・ギュンドアン留学生局局长 | 歳岡特任助教 |

6. 日本語プログラム KOAN 手続きに関する説明会

平成27年度以降の日本語選択科目の履修登録を KOAN 上で行う形にシステムを改修したことに伴い、大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティングが行われる機会にあわせて、各学部・大学院の教務担当者を対象に説明会を実施した。

日 時：2015年3月12日

場 所：吹田キャンパス IC ホール4階 会議室

説明者：難波康治准教授

参加者：16名

7. 研究者・配偶者の日本語学習支援

○いちょう日本語プログラム

国際教育交流センターでは、全学の外国人研究者、留学生・外国人研究者の配偶者などで日本語学習を必要とする方々を対象にした日本語学習支援として、「いちょう日本語プログラム」を吹田キャンパスにおい

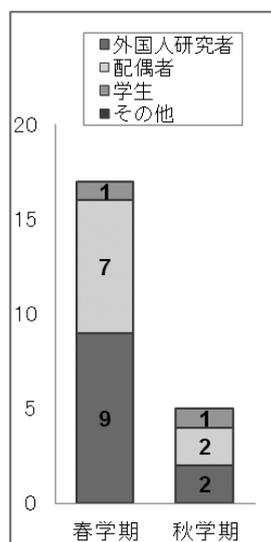
て開講している。初めて日本語を学習する「日本語入門（Aコース）」と50時間程度学習しひらがなやカタカナが読み書きできる程度から始める「日本語初級（Bコース）」の2コースを設け、いずれも日常生活場面の会話を中心としたコース内容となっている。本プログラムの特徴は、日本語学習の機会を提供するとともに、外国人生活者同士として相互に情報交換ができる「居場所」としての機能も果たすことによって、日本滞在のQOL向上を目指していることにある。

春学期および秋学期に学内から受講希望者を募集し、説明会および授業登録手続きを経て、それぞれ12週間計24回の授業を実施した。また、学期中24回の授業のうち17回以上出席した受講者には、学期末に国際教育交流センター長名で「終了証」を授与した。身分別内訳は下図および表に見る通り、外国人研究者が最も多く、春学期は52%、秋学期は40%を占めている。また、外国人研究者（学生を含む）の所属部局は6研究科、3研究所、1研究センターと、学内各部局から広く利用されている。ただし、数年前から受講者数の減少がみられ、今年度秋学期にはAコースの受講希望者がゼロとなり、Bコースのみ5名での開講となった。本プログラムは受講生に一定の費用負担をお願いしている独立採算型のプログラムであること、また、ボランティアによる交流活動や学外の国際交流団体等、本プログラムと同様の機能を果たす活動が学内外で開始されていること等を鑑み、今年度をもっていちょう日本語プログラムの活動をいったん休止することが2015年1月の国際教育交流センター教授会にて了承された。

・コーディネータ（WGメンバー） 義永美央子、西口光一、有川友子、近藤佐知彦

・授業担当者

| | 春 学 期 | 秋 学 期 |
|------|---------------|---------------|
| Aコース | 笹川恵美子 | — |
| Bコース | 欧麗賢（水）・麻子軒（木） | 欧麗賢（水）・麻子軒（木） |



2014年度受講者数
(身分別)

| 春学期（2014年5月7日～7月24日） | | | | | |
|----------------------|----|--------|-----|-----|-------|
| コース | 計 | 外国人研究者 | 配偶者 | 学 生 | そ の 他 |
| A（入門） | 9 | 4 | 5 | 0 | 0 |
| B（初級） | 8 | 5 | 2 | 1 | 0 |
| 計 | 17 | 9 | 7 | 1 | 0 |

*外国人研究者（学生を含む）の所属部局：工学研究科（2）、基礎工学研究科（2）、医学系研究科（2）、生命機能研究科（1）、産業科学研究所（1）、接合科学研究所（1）、レーザーエネルギー学研究中心（1）

| 秋学期（2014年11月5日～2015年2月5日） | | | | | |
|---------------------------|---|--------|-----|-----|-------|
| コース | 計 | 外国人研究者 | 配偶者 | 学 生 | そ の 他 |
| A（入門） | — | — | — | — | — |
| B（初級） | 5 | 2 | 2 | 1 | 0 |
| 計 | 5 | 2 | 2 | 1 | 0 |

*外国人研究者（学生を含む）の所属部局：生命機能研究科（1）、情報科学研究所（1）、文学研究科（1）

8. にほんごテーブル

にほんごテーブルは、国際教育交流センターとの連絡・調整の下で、ボランティアグループが主催する自主的な活動である。にほんごテーブルでは、参加者はボランティアとペアになって、ひらがなや漢字の学習をしたり、各自が選んだ教科書に沿ってボランティアといっしょに日本語の練習をしたりしている。学習者はそのような学習をするだけでなく、その途上で気楽に自由に日本語で話をすることができ、日本語力の向上に役立つ。また、にほんごテーブルでは、参加しているボランティアの方々から、日本で生活を楽しむことができるさまざまな生活情報等も得ることができ、参加する外国人研究者や留学生及びその配偶者にとって、日本で快適に楽しく暮らす上でのたいへん貴重な場となっている。

○吹田地区でのにほんごテーブル活動

吹田地区ではボランティアグループ竹の子にほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。竹の子にほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成18年4月に発足した。会員数は、発足時が54名で、平成26年5月現在36名である。にほんごテーブルの参加者は主としていちょう日本語プログラムに参加している外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も一部参加している。

吹田地区のにほんごテーブルでは、通常の活動の他に、学習者による自分の国や専門等の話題での日本語による発表を随時行っている。また、年賀状教室、お茶会、カルタ会などの日本の習慣や文化の紹介も行っている。このような種々の活動により、にほんごテーブルは、外国人参加者の日本語学習・習得のための機会として、また外国人参加者と一般日本人市民との交流の機会として、さらには外国人参加者同士の交流・情報交換の機会として重要な機能を果たしている。

他に、竹の子にほんご交流会のメンバー4名が社会人経験者として、秋学期のビジネス日本語（金孝卿准教授、水曜日2限）にビジターとして参加し、授業活動に協力した。参加期間は、2014年11月12日（水）から2015年1月21日（水）までである。

□実施状況

・期 間：春 季

参加登録—平成26年4月30日（水）

平成26年5月13日（火）—7月29日（火）

※7月29日（火）は交流会として、七夕飾りを実施した。

秋 季

参加登録—平成26年10月29日（水）

平成26年11月11日（火）—平成27年2月10日（火）

※2月10日（火）は交流会として、カルタとお茶の会を実施した。

・曜日と時間：上記期間中の毎週火曜日 13時00分—14時30分

春季は12回、秋季は12回

・場 所：国際教育交流センター 第5・6教室

- ・平均参加者数：春 季

外国人参加者：17人、日本人参加者：21人

- 秋 季

外国人参加者：9人、日本人参加者：18人

□交流映画会

- ・平成26年8月5日（火） 13：00－15：00 『東京物語』（小津安二郎監督、1953年、松竹）

外国人参加者：13人、日本人参加者：10人

□竹の子にほんご交流会総会

- ・平成27年3月18日（水） 13：15－13：45

□研 修 会

- ・平成27年3月18日（水） 14：00－15：30 「事例から考える留学生とのコミュニケーション」

義永美央子（大阪大学国際教育交流センター准教授）

○豊中地区でのにほんごテーブル活動

ホストファミリーなどの活動をしている市民ボランティアの方々から豊中地区でのにほんごテーブルの開催のご提案があり、国際教育交流センターとしてもそうした活動の意義を認識したところから、本年6月より、豊中地区においても、市民ボランティアグループの自主運営と国際教育交流センターがそれを支援する形で、にほんごテーブルが開設されることとなった。豊中地区ではボランティアグループマチカネにほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。参加者は主として、実施場所である国際交流会館に居住する外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も参加している。マチカネにほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成26年5月に発足した。会員数は、平成26年5月現在20名である。

□実施状況

- ・期 間：春 季

参加登録—平成26年6月4日（水）

平成26年6月4日（水）－7月30日（水）

※7月30日（水）は交流会として、ポットラックランチパーティーを実施した。

- 秋 季

参加登録—平成26年10月1日（水）

平成26年10月1日（水）－平成26年1月21日（水）

※1月21日（水）は交流会として、ポットラックランチパーティーを実施した。

- ・曜日と時間：上記期間中の毎週水曜日 10時30分－12時00分

春季は9回、秋季は15回

- ・場 所：大阪大学国際交流会館 本館 ロビー

・平均参加者数：春 季

外国人参加者：13 人、日本人参加者：15 人

秋 季

外国人参加者：12 人、日本人参加者：14 人

□マチカネにほんご交流会総会

・平成 27 年 3 月 11 日（水） 10：30－12：00

□研修会（竹の子にほんご交流会との合同による実施）

・平成 27 年 3 月 18 日（水） 14：00－15：30 「事例から考える留学生とのコミュニケーション」

義永美央子（大阪大学国際教育交流センター准教授）

XII. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 学際融合教育科目 (3) 大学院 (4) 留学生日本語プログラム
(5) 国際交流科目 (6) インターナショナル・カレッジ (7) その他
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語研修生
(4) 短期留学特別プログラム (5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 (6) その他
4. 教育(学外) 5. 学内運営 6. 外部資金
7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演会 11. 報道 12. その他

※7の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有 川 友 子

1. 専門分野

教育人類学、異文化間教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

- 春学期
多文化コミュニケーション I/II-3

(3) 大学院

- 春学期
生涯教育学特定演習 I (共同) 人間科学研究科

- 秋学期
生涯教育学特定演習 II (共同) 人間科学研究科

(5) 国際交流科目

- 秋学期
Approaches to Understanding Cultures

(6) インターナショナルカレッジ

- 秋学期
Approaches to Understanding Cultures (上記国際交流科目を英語コース学生へのオープンとした)

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応

5. 学内運営

(職指定を含む)

- ・国際教育交流センター長
- ・国際教育交流委員会（委員会の下での3つのWG等委員）
- ・キャンパスライフ支援センター運営委員会委員
- ・施設マネジメント委員会委員
- ・ハウジング委員会委員
- ・総長選考会議委員
- ・教育学習支援センター兼任教員
- ・ハラスメント相談室専門アドバイザー
- ・G30企画室会議メンバー
- ・国際教育交流センター人権・セクシュアルハラスメント対策委員会委員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「日本・ドイツ・オランダの高等教育から考えるインドネシア人の留学」（平成24-26年度）

7. 研究業績

(1) 論文

- ・Arikawa, Tomoko, 2015, “Research culture and graduate education: Dynamic interactions from international students' perspectives”, USLU, Ferit (ed.), e-Publication, INTCESS 15 2nd International Conference on Education and Social Sciences Abstracts & Proceedings, pp. 1319-1325, ISBN: 978-605-64453-2-3, Feb. 2-4, 2015, Istanbul, Turkey. 査読有。

(3) 口頭発表

- ・有川友子、2014、「長期的観点からの日本留学ーインドネシア人元留学生の視点と留学経験の多様性を通して考えるー」（単独ポスター）、異文化間教育学会第35回大会、平成26年6月7-8日（同志社女子大学）
- ・Arikawa, Tomoko, 2015, “Research culture and graduate education: Dynamic interactions from international students' perspectives”, Virtual Presentation at the INTCESS 15 2nd International Conference on Education and Social Sciences, Feb. 2-4, 2015, Istanbul, Turkey.

8. 学外運営

- ・国立大学留学生指導研究協議会 代表幹事

9. 会議運営

- ・平成 26 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2015 年 2 月
- ・大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2015 年 2 月

12. その他

- ・平成 26 年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 研修
研修 C 「学生指導に悩みを抱える教員のための事例検討会」
「留学生の事例を通して考える教員の対応のあり方」講師
平成 26 年 9 月 4 日 (木) 豊中地区：豊中総合学館
平成 26 年 9 月 9 日 (火) 吹田地区：コンベンションセンター
- ・大阪大学未来共生セミナー「日本における外国人への防災対策の現状とその問題点
～災害時における多文化アプローチ～」
第一部パネルセッション パネリスト「留学生のリスク問題の現状と課題」
平成 27 年 1 月 24 日 (土)
- ・経済学研究科 FD 研修 講師
「留学生とのコミュニケーション、留学生の就学支援」
平成 27 年 2 月 12 日 (木) 法経研究棟 7 階大会議室

1. 専門分野

日本語教育学、語用論、社会言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

専門日本語（吹田）・総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

○ 秋学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

日本語集中（研修）コース IJ300

○ 秋学期

日本語集中（研修）コース IJ300

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA200-1

○ 秋学期

総合日本語 JA200-1

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

(7) その他

○ 夏季 J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2014年6月24日－8月12日までの9週間）のコーディネーションと期間中週2コマの授業担当

○ 超短期プログラム（2014年8月6日－8月25日の3週間）のコーディネーター

○ 総合日本語集中 JAcc300（J-ShIPプログラム、2014年12月10日－2015年1月29日）のコーディネーションと期間中週2コマの授業担当

○ 韓国超短期プログラム「アカデミックジャパニーズ基礎」コーディネーター担当（2015年2月）

○ 日韓共同理工系学部留学生予備教育科目「専門基礎日本語①」を後期週1コマ担当

6. 外部資金

・平成26年度東京都アジア人材育成基金「遠隔教育プロジェクト」（研究代表者：西郡仁朗）、共同研

究者

- ・科学研究費補助金 基盤研究 (B) 課題番号 : 26284072 平成 26 年度～平成 30 年度「大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価」(研究代表者 : 村岡貴子)、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「大阪道頓堀の多言語景観－外国人に向けた民間表示を中心に－」、磯野英治・上仲淳、『日本語研究』第 34 号、pp.137-144、査読有
- ・「非母語話者の介護福祉士のための外国語訳をめぐる意味論的問題－非専門用語の『専門分野における意味合い－』」、ロング ダニエル・磯野英治、『日語日文学研究』第 91 集、pp.23-41、査読有
- ・「日本語教育に活用可能な言語景観の分類に関する考察」、磯野英治、『大阪大学国際教育交流センター論集 多文化社会と留学生交流』第 19 号、pp.35-41、査読無

(2) 著書

- ・ビデオ教材『東京の言語景観－現在・未来－』東京都アジア人材育成基金、2014 年 10 月 (西郡仁朗・磯野英治 監修)

(3) 口頭発表等

- ・「インドネシア人学習者と日本語の『一般用語の専門的意味』」、磯野英治、旧南洋庁地域パラオの日本語からアジア・太平洋の日本語教育を考える公開研究会、2014 年 7 月、シドニー工科大学 (オーストラリア)、査読無
- ・「非専門用語の専門分野における意味合い－介護福祉士を目指す外国人のためのインドネシア語・英語・やさしい日本語の訳－」、ロング ダニエル・磯野英治、2014 年日本語教育国際研究大会、2014 年 7 月、シドニー工科大学 (オーストラリア)、査読有
- ・「身近にある言語景観を素材とした内容重視の多文化日本語クラス」、磯野英治、日本語教育学会 2014 年度秋季大会、2014 年 10 月、富山国際会議場、査読有

8. 学外運営

- ・実践日本語コミュニケーション検定 ワーキング委員

10. 講演会

- ・「日本語教育に活用できる日本国内・海外の言語景観」、首都大学東京大学院人文科学研究科日本語教育学教室特別招聘講演、2014 年 3 月、首都大学東京

12. その他

- ・平成 26 年度首都大学東京 教育改革推進事業 外国人留学生 (大学院生・研究生) への日本語論文作成指導プログラム 外部講師

1. 専門分野

社会保障論、医療経済、キャリア教育

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

多文化コミュニケーション

○ 秋学期

多文化コミュニケーション

(5) 国際交流科目

○ 春学期

Social Security in Japan 「日本の社会保障」

3. 学生指導

- ・ 留学生の相談対応 (IRIS)

5. 学内運営

- ・ 国際教育交流センター評価 WG 委員
- ・ 国際教育交流センター広報・出版委員
- ・ 大阪大学学内留学生指導フロントスタッフ・ミーティングメンバー
- ・ 大阪大学全学フロントスタッフ・ミーティングメンバー
- ・ 省エネルギー推進会議担当
- ・ 男女共同参画推進委員
- ・ 人権・セクシュアルハラスメント対策委員
- ・ RENKEI タスクフォースメンバー

6. 外部資金

- ・ 科学研究費補助金基盤研究 C 課題番号：26350044 「妊娠・出産の高年齢化の現状と課題—これからの出産を考える—」 (研究代表者)

7. 研究業績

(1) 論文

- ・ 「リーダーシップは高等教育でどう育成するのか—アメリカのビジネススクール視察報告—」、伊藤 ゆかり、大阪大学全学教育推進機構『大阪大学高等教育研究』Vo.3、学術論文、有、pp.17-25
- ・ 「ワーク・ライフ・バランスを実現するリーダーシップ教育の実践」、伊藤 ゆかり、『日本キャリア教育学会第 36 回研究大会・研究発表論文集』、学術論文、有、pp.146-147

- ・「多文化対話を活用したキャリア形成の実践報告」、伊藤ゆかり、『日本発達心理学会第26回大会論文集』が学術論文、無、P5-079（CD収録）

(3) 口頭発表

- ・「ワーク・ライフ・バランスを実現するリーダーシップ教育の実践」、2014年11月22日、日本キャリア教育学会第36回研究大会、於：琉球大学
- ・「多文化対話を活用したキャリア形成の実践報告」、2015年3月21日、日本発達心理学会第26回大会於：東京大学

10. 講演会

- ・「留学生といっしょに考える社会づくり」、2014年11月13日、「梅田MAG留学生サミット」
於：梅田ハービスプラザ

12. その他

- ・大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2015年2月
- ・大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2014年4月、2015年10月
- ・新規来日留学生への生活サポーターコーディネート
- ・新規来日国費留学生研究訪問コーディネーター
- ・日本語交流ボランティア「まちかね日本語テーブル」の豊中キャンパス内での新規立ち上げと運営のアドバイジング
- ・宝塚市大型児童センター運営委員2期4年目（2009年～）

1. 専門分野

教育工学、外国語教育学

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○ 春学期

オンライン・リソースを活用した L2 学習

○ 秋学期

コンピュータを活用した語学学習

3. 学生指導

- ・就職相談コーナーにおいて留学生の個別相談対応（豊中・吹田キャンパス）
- ・留学生の相談対応（IRIS、箕面分室）

5. 学内運営

- ・海外派遣候補者選考 WG
- ・国際教育交流センターホームページ改修 WG
- ・国際教育交流センター短期プログラムの諸課題の検討に関する WG
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会
- ・大阪大学英語ウェブサイト WG

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：26350319 平成 26 年～28 年度「モバイルフォンを利用したシームレスな語学学習環境デザイン構築に関する研究と実践」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・Ubiquitous Learning Project Using Life - logging Technology in Japan. Hiroaki Ogata, Bin Hou, Mengmeng Li, Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, and Songran Liu. *Educational Technology & Society*, 17 (2), 85 - 100, 2014. 査読有
- ・Visualization for Analyzing Ubiquitous Learning Logs, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, Noriko Uosaki and Songran Liu, *Proceedings of ICCE2014*, 461-470, 2014 (Best Student Paper Award). 査読有
- ・Ubiquitous Learning Logs Analytics, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, Noriko Uosaki and Songran Liu, *DSC Proceedings of ICCE2014*, 9-12, 2014 (APSCE Graduate Student Community Service Award). 査読有

- ・ Visualizing Ubiquitous Learning Logs Using Collocational Networks, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata, Noriko Uosaki and Songran Liu, *Workshop Proceedings of ICCE2014*, 685-693, 2014. 査読有
- ・ Ubiquitous Learning Analytics in the Context of Real-world Language Learning, Kousuke Mouri, Hiroaki Ogata and Noriko Uosaki, *Proceedings of LAK15*, 378-382, March 2015. 査読有

(2) 著書

- ・ Supporting Seamless Learning Using Ubiquitous Learning-Log System, Hiroaki Ogata, Noriko Uosaki, Bin Hou, Mengmeng Li, and Kousuke Mouri, *Seamless Learning in the Age of Mobile Connectivity*, 159-179, January, 2015. DOI 10.1007/978-981-287-113-8_9. 査読有

(3) 口頭発表

- ・ Towards Flipped Learning Using Ubiquitous Learning Log System in L2 Learning Class, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata and Kousuke Mouri, *Proceedings of ICSLE2014*, 339 - 346, 2014. 査読有
- ・ Enhancing Outside-class Learning Using Online Tools: A Review Work, Gustavo Inoue, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata and Kousuke Mouri, *Proceedings of LTLE2014*, 332-337, 2014. 査読有
- ・ Seamless Flipped Classroom Using SCROLL in CALL Class, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata and Kousuke Mouri, *Proceedings of ICCE2014*, 539-544, 2014. 査読有
- ・ Boosting up JSL Learners' Outside-class Learning Time with Learning Log System, Noriko Uosaki, Hiroaki Ogata and Kousuke Mouri, *Proceedings of 11th International Conference on Mobile Learning 2015*, 113-117, March 2015. 査読有

8. 学外運営

- ・ CUMTEL SIG (Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning Special Interest Group, sub-division of ICCE) committee member
- ・ LTLE2014 (3th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments) program committee member

9. 会議運営

- ・ 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2015年2月

12. その他

- ・ 2014年度「留学生のための就職対策講座」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2014年10月～2015年1月（計8回）
- ・ 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2014年4月、10月（計4回）
- ・ 2014年度秋学期新規渡日留学生対象「自転車に関する安全講習会」企画運営

1. 専門分野

応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

○ 秋学期

専門日本語・多文化コミュニケーション（日本語）・多文化コミュニケーションセミナー

(3) 大学院（言語文化研究科）／外国語学部

○ 春学期

言語文化教育論A／言語文化教育論（G）

○ 秋学期

言語文化教育論B／言語文化教育論（H）

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA500

○ 秋学期

総合日本語 JA500

(6) インターナショナルカレッジ日本語科目

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 2（留学生）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は1）

5. 学内運営

- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・外国語学部教授会構成員
- ・全学教育推進機構兼任教員
- ・超域イノベーション博士課程プログラム担当教員
- ・未来共生イノベーター博士課程プログラム担当教員
- ・情報化推進会議委員

- ・情報セキュリティ連絡会委員
- ・ODINS 運用部会委員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：22520530 平成 22 年度～平成 26 年度「病院文書の「ユニバーサル日本語化」に関する実践的研究」、研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：26370607 平成 26 年度～平成 29 年度「EPA 看護師候補者のためのオンライン漢字語彙教材の開発」、研究代表者

7. 研究業績

(3) 口頭発表

- ・ Practical research to build better communication between medical professionals and the public: a case study of medical admittance forms, Tomoko Yamashita Smith・UZUHASHI Yoshiko・OTANI Shinya、応募、THE LANGUAGE OF MEDICINE: Science, Practice and Academia、CERLIS 2014, The University of Bergamo、2014 年 6 月、有

8. 学外運営

- ・国・地方公共団体、医療事務連絡会（箕面市等） 委員
- ・その他、みのお外国人医療サポートネット 運営委員

10. 講演会

- ・みのお外国人医療サポートネット定例研修会、「私たちの住む世界 一言語・文化の観点から（前編）」、2014 年 5 月
- ・みのお外国人医療サポートネット定例研修会、「私たちの住む世界 一言語・文化の観点から（後編）」、2014 年 7 月
- ・奈良県立奈良高等学校 SSP 講演会（2）第 4 回、「世界の多文化・日本の多文化」、2014 年 10 月

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期
総合日本語

○ 秋学期
総合日本語

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期
総合日本語 JB100 T-1
アカデミックライティング JW400
ビジネス日本語 BJ400500600

○ 秋学期
総合日本語 JB100 T-1
アカデミックライティング JW400
ビジネス日本語 BJ400500600

(5) 国際交流科目

○ 春学期
総合日本語 JA100

○ 秋学期
総合日本語 JA100

(6) インターナショナル・カレッジ

○ 春学期
国際コミュニケーションセミナー日本語 103

○ 秋学期
国際コミュニケーションセミナー日本語 103

(7) その他

○ 韓国超短期プログラム, 2015 韓国超短期プログラム (アカデミック・ジャパニーズの基礎)、2015 年 1 月 30 日ー 2 月 20 日までの 3 週間の期間中、2 回 (2 コマ) の特別講義を担当した。

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「グローバル時代における日本語教育：プロセスとケースで学ぶビジネスコミュニケーション」、近藤彩・金孝卿, 『NSJLE Proceedings 2012』、pp.104-115, 2014 年 09 月、有

- ・「日本語教育用リソース検索 web サイト「Classroom Resources」の開発 - オーストラリアの中等教育におけるシドニー日本文化センターの日本語教育支援 -」、大知春華・キャシージョナック・金孝卿、『国際交流基金日本語教育紀要』第 11 号、pp.141-154、2015 年 3 月、有

(2) 著 書

- ・『JF 日本語教育スタンダード』の韓国の日本語教育実践へのインパクト—学校教育における第二外国語としての日本語教育を中心に—、金孝卿、『外国語教育Ⅶ グローカル時代の外国語教育』朝日出版社、pp.204-213、2015 年 02 月
- ・「日本語教育から見た国際関係—全体討論」、金孝卿、『国際シンポジウム アジア・日本研究センター 日本語教育から見た国際関係報告書 2014』国士舘大学、pp.51-53、2015 年 02 月

(3) 口頭発表

- ・Renewal!! The Japan Foundation, Sydney ‘Classroom Resources’ Website., Ochi Haruka, Jonak Cathy, Kim Hyogyung、NSJLE 全豪日本語教育シンポジウム Proceedings、2014 年 08 月、於：University of Technology, Sydney、有
- ・「ケース教材を用いた実践トレーニングプログラムの開発 —ビジネスを巡る多様な視点から—」、近藤彩・品田潤子・池田玲子・藤原未雪・小笠恵美子・金孝卿、2014 年度日本語教育学会秋季大会 (研究発表・ポスター発表)、2014 年 10 月、於：富山大学、有
- ・「大学におけるビジネス日本語コミュニケーション教育の挑戦—持続可能な社会と個人の幸福を目指して—」、金孝卿、第 8 回大阪大学専門日本語教育研究協議会、2015 年 02 月、於：大阪大学、無
- ・「トンガにおける中等教育日本語シラバス及び教科書開発の実践—協働的開発プロセスから得たもの—」第 8 回協働実践研究会、金孝卿・三浦香菜子、2015 年 02 月、於：早稲田大学、無

10. 講演会

- ・「国士舘大学アジア・日本文学研究センター 日本語教育から見た国際関係 Symposium International Relations from the Perspective of Japanese Language Education」、全体討論、2014 年 08 月、於：国士舘大学
- ・「2014 年後期中等日本語教師職務研修、教育実践と「生教材・ウェブリソース」をどう結びつけるか—日本語教育を通じた 21 世紀型スキルの育成—」国際文化フォーラム、2014 年 11 月、於：国際交流基金ソウル文化センター釜山日本語教育室
- ・「二つ以上の言語で学ぶこと—多様な学習者・学び方と向き合う—」、静岡大学工学部教職員 事業開発マネジメント専攻学生及び OB・OG 対象 FD「真のグローバル化の経験と知恵」、2015 年 01 月、於：静岡大学

1. 専門分野

留学生教育、社会心理学、ディスコース分析

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

- 春学期；日本の社会とイデオロギー
- 秋学期；日本のメディアとコミュニケーション

(7) その他

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP) 春学期 60名

国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP) 秋学期 75名

(6) その他

Summer Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention 12名

Japanese Short-stay In-session Program (J-ShIP)

44名 (H26.06.20-08.14) 22名 (H26.12.08-H27.01.30)

阪神地区3大学連携「日韓学生会議」21名 (H27.02.04-2.10)

於：関西大学；慶熙大学校5、漢陽大学校4、関西大学4、関西学院大学4、大阪大学4

AEARU サマーキャンプ (H.26.08.19-08.26)

北京大学4名、清華大学2名、南京大学2名、復旦大学2名、中国科学技術大学2名（以上、中国12）、国立台湾大学2名、国立清華大学4名（以上、台湾6）、韓国科学技術院 (KAIST) 2名、浦項工科大学校2名（以上、韓国4）、京都大学1名、筑波大学2名、東北大学3名、大阪大学33名（以上、日本39）計13大学61名

4. 教育（学外）

広島大学・客員教授

5. 学内運営

G30 企画室兼任

全学教育推進機構兼任

グローバルアドミッションズオフィス兼任

学生交流プログラム検討ワーキング

学生交流プログラム検討ワーキング OUSSEP ワーキング座長

6. 外部資金

科学研究費補助金挑戦的萌芽研究、「留学生宿舎設置・運営方針の研究: QOL と留学目標達成評価の視点から」 研究代表者

7. 研究業績

(2) 論文

「教育学入門」(岡田昭人編; ミネルバ書房) で「日本の近代化と教育制度」(2015年5月) 査読なし
「English in Malaysia」(T.Yamaguchi 編; Continuum) で「第9章; Impact of the English Language on University Policy in Malaysia and Japan」(2015年11月刊行予定) 査読あり

8. 学外運営

大阪府国際化戦略実行委員会委員
(公財)大阪府国際交流財団理事
(公財)吹田市国際交流協会理事
留学生交流拠点整備事業「H.O.M.E」阪大側運営委員
日本学生支援機構短期プログラム審査委員
官民協働「トビタテ! 留学 Japan」学識者選考委員
(公財)業務スーパージャパンドリーム財団選考委員
留学生教育学会理事副会長
グローバル人材育成教育学会理事副会長
アゴラブリタニカ (イギリス研究会) 副会長

9. 会議運営

2015/01/31 「関西発のグローバル人材育成: おばちゃんに学ぶ」を主宰。共催グローバル人材育成教育学会

11. 報 道

米国からの留学生 魅力的な条件整え増やそう 朝日新聞全国版「私の視点」欄 (2015/02/04)

12. その他

2015/10 吹田市国際交流協会理事として、関西大学、北千里高校、本学東南アジアセンターと協働して「Sakura Science プラン」でのタイ人高校生9人の受入実施

1. 専門分野

日英・英日翻訳研究、レトリック・メタファーに関する認知言語学的研究

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○ 春学期

言語と翻訳

○ 秋学期

翻訳と翻訳者たち

(7) 短期英語研修プログラム

○ 夏 季

エセックス大学語学研修プログラム

○ 春 季

モナシュ大学語学研修プログラム

5. 学内運営

- ・ OUSSEP 運営 Sub WG
- ・ 海外派遣候補者選考 WG

7. 研究業績

(1) 論 文

- ・ Translation shifts in Japanese-English translations of speech scripts: Case study of two speeches given by Empress Michiko、通訳翻訳研究、(14)、研究ノート、有、pp.203-218

(2) 著 書

A Study on Metaphorical Evaluation in Written Texts from a Perspective of Cognitive Linguistics. 大阪大学出版会. 2014年7月

(3) 口頭発表

「留学生との協働を中心とした海外留学事前教育」、2014年08月28日—30日、大学英語教育学会第53回国際大会、於：広島市立大学

「語り手によるメタファー操作とその効果—音楽に関するTED講演の分析から—」、2014年09月21日、日本認知言語学会第15回全国大会、於：慶應義塾大学

「日英語翻訳テキストを題材とした認知言語学的メタファー分析」2014年12月13日、日本通訳翻訳学会関西支部第37回例会、於：西宮市大学交流センター

1. 専門分野

日本語教育学、社会言語学、教育工学

2. 授業担当

(1) 共通教育

- 春学期
専門日本語

- 秋学期
専門日本語

(2) 学際融合教育科目

- 春学期
上級日本語（アカデミックプレゼンテーション）

- 春学期
上級日本語（アカデミックプレゼンテーション）

(3) 大学院

- 春学期
応用マルチメディア論A

- 秋学期
応用マルチメディア論B

(5) 国際交流科目

- 春学期
総合日本語 JA400

- 秋学期
総合日本語 JA400

(6) インターナショナルカレッジ

- 春学期
国際コミュニケーションセミナー日本語 403

- 秋学期
国際コミュニケーションセミナー日本語 403

(7) その他

- 春学期
留学生日本語選択コース JP600/700) アカデミックプレゼンテーション)

- 秋学期
留学生日本語選択コース JP600/700) アカデミックプレゼンテーション)

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 3 (うち留学生は2)
- (2) 博士前期課程 3 (うち留学生は2)

4. 教育 (学外)

- ・ 広島大学教育学部日本語教育系コース 「日本語学習とマルチメディア」 (集中講義)

5. 学内運営

- ・ インターナショナルカレッジ教務委員会
- ・ 教育情報化 WG
- ・ CALL システム WG
- ・ 広報・出版委員会

7. 研究業績

10. 講演会

- ・ 「デジタル日本語学習支援のすゝめ」 千葉大学国際教育センター日本語教育研修会 2014年11月22日 於千葉大学国際教育センター
- ・ 「日本語教育における ICT を活用した協同学習」 日本語教育機関教員と留学生進学先教育機関の教育担当者との研究協議会 2015年2月7日 於日本学生支援機構 (JASSO) 東京日本語教育センター

1. 専門分野

日本語教育学、言語心理学

2. 授業担当

(3) 大学院

○ 春学期

応用言語学研究 A

言語文化教育論特別研究 A

○ 秋学期

応用言語学研究 B

言語文化教育論特別研究 B

(5) 国際交流科目

○ 春学期

総合日本語 JA300-1

○ 秋学期

総合日本語 JA300-1

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

○ 秋学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

(7) その他

○ 夏季 J-ShIP (ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2014 年 6 月 24 日－8 月 12 日までの 9 週間) のコーディネーション支援と期間中週 3 コマの授業担当

○ 超短期プログラム (2014 年 8 月 6 日－8 月 25 日の 3 週間) のコーディネーション支援

○ 総合日本語集中 JAcc300 (J-ShIP プログラム、2014 年 12 月 10 日－2015 年 1 月 29 日) のコーディネーション支援

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 5 (うち留学生は 4)

(2) 博士前期課程 3 (うち留学生は 2)

4. 教育 (学外)

・立命館大学言語情報教育研究科 日本語教育学Ⅶ (集中講義)

・関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科 日本語教育研究 F (集中講義)

・京都外国語大学外国語学研究科 日本語教育研究Ⅲ (集中講義)

5. 学内運営

- ・評価委員会
- ・OUSSEP 運営サブ WG
- ・Maple 運営 サブ WG
- ・日本語・日本文化研修留学生プログラム実施 WG
- ・博士課程教育リーディングプログラム 未来共生イノベーター博士課程プログラム 兼任 (選抜・審査ワーキング・グループのメンバー)

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「基礎日本語の習得と教育に関する基本的な問題 — 自己表現活動中心のマスターテキスト・アプローチの系譜」、西口光一、招待、『台湾日本語文学報』35 (2014 年前期)、学術論文、無、pp.19-31
- ・「ジャンル論のエッセンス」、西口光一、招待、『複言語教育』vol.3、学術論文、無、pp.3-15
- ・「ことばのジャンルと基礎第二言語教育のデザイン」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第 19 号、学術論文、有、pp.1-11

(3) 口頭発表

- ・「媒介語を必要としないパワーポイント・カミシバイを使った基礎日本語の指導法」、2014 年 8 月 5 日、平成 26 年度日本語学校教育研究大会、於：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・「基礎日本語教育における PPT かみしばいのポテンシャル」、2014 年 9 月 6 日、日本語教育学会関西研究集会、於：大阪 YWCA 国際専門学校
- ・「ジャンルと言葉遣いとことばの胚」、2014 年 12 月 7 日、日本現象学・社会科学会第 31 回大会、於：龍谷大学大宮キャンパス

10. 講演会

- ・「バフチン言語哲学のエッセンス」、2014 年 7 月 27 日、第 6 回日本大学 NU-CEFR 研究会、於：日本大学文理学部
- ・「自己表現活動と基礎 (初級) 日本語の教育」、2014 年 9 月 20 日、J-GAP ヨーロッパ / 国際交流基金日本語教師研修会、於：国際交流基金ロンドン日本文化センター
- ・「ことばのジャンルと基礎日本語教育のデザイン」、2014 年 10 月 17 日、於：台湾東海大学日本語学科
- ・「言語事項を超える」、2014 年 10 月 18 日、逢甲大学第 4 回外国語教育国際学術シンポジウム、於：台湾逢甲大学
- ・「第二言語教育におけるラングとジャンル」、2015 年 1 月 16 日、日本大学外国語教育センター第 2 回講演会、於：日本大学文理学部
- ・「基礎第二言語教育におけるラングとジャンル」、2015 年 1 月 24 日、関西学院大学言語コミュニケーション文化研究会、於：関西学院大学梅田キャンパス
- ・「ジャンルとラングの共促進 — NEJ を活用した基礎日本語教育」、2015 年 2 月 18 日、立命館大学

日本語教育センター FD 研修会、於：立命館大学衣笠キャンパス

- ・「OUS の経験と基礎日本語教育の革新」、2015 年 3 月 10 日、スーパーグローバル大学創生支援事業講演会「グローバル時代における大学の日本語教育を考える」、於：名古屋大学国際言語センター
- ・「新しい基礎日本語教育のデザインと教師の役割 — NEJ を活用した日本語教育の実践」、2015 年 3 月 28 日、九州日本語教育連絡協議会・鹿児島日本語教育研究会主催 2014 年度 3 月研究会、於：鹿児島大学

1. 専門分野

比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 秋学期

多文化コミュニケーション（日本語）／多文化コミュニケーションセミナー II

(2) 学際融合教育科目

○ 春学期

アカデミックリーディング（日本語）

○ 秋学期

アカデミックリーディング（日本語）

(3) 大学院

○ 春学期

言語文化政策論 A

○ 秋学期

言語文化政策論 B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング（日本語）

○ 秋学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディング（日本語）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 2（うち留学生 1）

(2) 博士前期課程 1（うち留学生 1）

(3) 日本語研修生 17

(5) 日韓共同理工系学部留学生（予備教育生） 7

5. 学内運営

- ・日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討 WG（日本語科目コーディネーター）
- ・人権問題委員会

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号：25283009 平成25年度～平成27年度「東南アジアの自治体エリートサーヴェイ分析ータイ、インドネシア、フィリピンの比較」(研究代表者：永井史男)、研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号：24320093 平成24年度～平成26年度「日韓プログラム予備教育における総合的な『日韓共同(協働)教育を目指す実践的研究』」(研究代表者：太田亨)、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・“Do Mayors' Orientation affect Performance in each Island Group?: Empirical Evidence from a Local Government Survey in the Philippines”, Kenichi Nishimura, Jun Kobayashi and Masao Kikuchi、投稿、『多文化社会と留学生交流』第19号、無、pp.75-81.

(3) 口頭発表

- ・“Determinant Factors for Good Local Governance 1: Mayor Factor”, August 13, 2014, at the International Symposium on Comparative Study of Local Government Survey in Southeast Asia, NCPAG, University of the Philippines.
- ・“Do Mayors' Orientation affect Performance?: Empirical Evidence from a Local Government Survey in the Philippines”, November 17, 2014, at The 3rd International Conference on ASEAN Connectivity, Mahasarakham University, Thailand.

8. 学外運営

- ・兵庫県立高等学校 学校評議員

10. 講演会

- ・「防災とフィリピンの地方自治体」科研費プロジェクト(研究代表：東京大学・城所哲夫准教授)「気候変動下のアジア大都市における空間適応マネジメント手法の総合的研究」研究会、於：東京大学、2015年2月19日

12. その他

- ・日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーションおよびホームルーム担当
- ・国際教育交流センター省エネ担当

1. 専門分野

機械工学, 留学生教育

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 春学期

多文化コミュニケーション (日本語), “Communication in Multicultural Contexts (Japanese)”

多文化コミュニケーションセミナー I, “Multicultural Communication Seminar I”

(3) 大学院

○ 春学期

プロダクトデザイン, “Product Design”

○ 秋学期

プロダクトデザイン, “Product Design”

(5) 国際交流科目

○ 春学期

数学とその工学応用 (I), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (I)”

○ 秋学期

数学とその工学応用 (II), “Topics in Mathematics and its Engineering Applications (II)”

3. 学生指導

(1) 博士後期課程

TA 1 名, RA 3 名 (全て留学生)

(2) 博士前期課程

TA 1 名 (留学生)

(4) 短期留学特別プログラム

国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)

FrontierLab@OsakaU

Summer Intensive Program Japanese Language and Disaster Prevention (Summer Short-term)

Summer Japanese Short-stay In-session Program (Summer J-ShIP)

Winter Japanese Short-stay In-session Program (Winter J-ShIP)

Spring Intensive Program Japanese Language (Fundamental Academic Japanese: Spring Short-term)

5. 学内運営

- ・ファカルティ・ディベロップメント委員会 委員
- ・東アジア研究型大学協会 (Association of East Asia Research Universities: AEARU) Student Summer Camp 2014 実行委員会 委員
- ・国際交流委員会 海外派遣候補者選考ワーキンググループ 委員
- ・国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP) 運営サブワーキンググループ 委員
- ・FrontierLab@OsakaU 運営企画会議 委員/コーディネータ
- ・FrontierLab@OsakaU Summer Program 運営企画会議 委員/コーディネータ
- ・大学院工学研究科兼任教員
- ・国際教育交流センター広報出版委員会 委員
- ・国際教育交流センター将来計画および評価に関する原案の作成を行う WG 委員
- ・国際教育交流センター研究会 実行委員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「国際交流に係る学生支援方針の研究 ― 統合支援システムを用いた実証試験 ―」(平成 26～28 年度)

7. 研究業績

(1) 論文

- ・宮原啓造「国際教育交流における人名の表記法に関する考察」大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流, 第 19 号

(3) 口頭発表

- ・MIYAHARA, Keizo and TANAKA, Toshihiro, “On-Campus 'Hands-on' Research Opportunities for International Exchange Undergraduate Students,” Proceeding of the IEEE International Conference on Teaching, Assessment and Learning for Engineering (TALE2014), December 8-10, 2014, New Zealand, 査読有
- ・MIYAHARA, Keizo, “Engineering Education in Non-native Language,” Proceeding of the 2015 International Conferences on Socio-Cultural Relationship and Education Pedagogy Learning Sciences (SOCIO-CULTURAL 2015), pp.1-6, January 31-February 1, 2015, Indonesia, 査読有

8. 学外運営

- ・応用物理学会 論文誌 Applied Physics Express (APEX), Japanese Journal of Applied Physics (JJAP) 登録閲読者
- ・International Journal of Advanced Robotic Systems 査読者

10. 講演会

- ・Public Lecture, “Introduction to Robotics Research and Technology,” December 4, 2014, Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIIT), Malaysia.

12. その他

- ・ Best Paper Award, “Engineering Education in Non-native Language,” the 2015 International Conferences on Socio-Cultural Relationship and Education Pedagogy Learning Sciences (SOCIO-CULTURAL 2015), January 31-February 1, 2015, Indonesia.

1. 専門分野

日本語教育学、アカデミック・ライティング研究、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

- 春学期
専門日本語
- 秋学期
専門日本語

(2) 学際融合教育科目

- 春学期
上級専門日本語（アカデミック・ライティング）A
- 秋学期
上級専門日本語（アカデミック・ライティング）B

(3) 大学院

- 春学期
言語技術特殊研究 A
言語コミュニケーション論特別研究 A
- 秋学期
言語技術特殊研究 B
言語コミュニケーション論特別研究 B

(4) 留学生日本語プログラム

- 春学期
日本語集中（研修）コース IJ200（読解）
選択コース JW500/600（アカデミックライティング）
- 秋学期
日本語集中（研修）コース IJ200（読解）
選択コース JW500/600（アカデミックライティング）

(7) その他

- 韓国超短期プログラム「アカデミックジャパニーズ基礎」コーディネータ担当（2015年2月）

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 3
- (2) 博士前期課程 3（うち留学生は2）
- (3) 日本語研修生 14
- (4) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 7

5. 学内運営

- ・教育課程委員会委員
- ・全学教育推進機構兼任教員、企画開発部・言語教育部門、日本語教育セクション長
- ・日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討ワーキング座長
- ・コミュニケーションデザイン・センター兼任教員
- ・G30 企画室会議委員
- ・国際教育交流センター教務委員会委員長
- ・国際教育交流センター財務委員会委員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号：26284072 平成 26 年度～平成 29 年度「大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価」、研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究挑戦的萌芽研究 課題番号：25580113 平成 25 年度～平成 27 年度「海外の大学教員との連携を目指す協働的日本語ライティング教育開発のための調査研究」、研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号：24320093 平成 24 年度～平成 26 年度「日韓プログラム予備教育における総合的な『日韓共同（協働）教育』を目指す実践的研究」（研究代表者：太田亨）、研究分担者
- ・科学研究費補助金特定領域研究(B) 課題番号：23320107 平成 23 年度～平成 26 年度「実践的な読解教育実現のための日本語学習者の読解・困難点・読解技術の実証的研究」（研究代表者：野田尚史）、連携研究者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「ワークショップ『日本語アカデミック・ライティングの核心をつかむ』実施報告および受講者へのアンケート調査の結果と考察」、村岡貴子・因京子（2014）、銘傳日本語教育、銘傳大學（台湾）、第 17 期、pp.1-21、招待

(2) 著書

- ・『専門日本語ライティング教育 ―論文スキーマ形成に着目して―』、村岡貴子（2014）、大阪大学出版会
- ・「第 1 章 日本語表現に潜むジェンダー」（Part 1 ことば・アートとジェンダー）、村岡貴子（2015）、牟田和恵編『大阪大学新世紀レクチャー 改訂版 ジェンダー・スタディーズ 女性学・男性学を学ぶ』大阪大学出版会、pp.2-17

8. 学外運営

- ・国立大学法人日本語教育研究協議会理事、2007 年 10 月～2014 年 5 月
- ・日本語教育学会学会誌委員（主査委員）、2009 年 7 月～2015 年 6 月
- ・専門日本語教育学会編集幹事（副編集委員長）、2013 年 3 月～2015 年 2 月
- ・日本語教育学会代議員、2013 年 7 月～2015 年 6 月

10. 講演会

- ・「日本語でのアカデミック・ライティングの学び方を意識化する」、カセサート大学人文学部東洋言語学科特別講義、2015年2月24日、於：タイ、カセサート大学
- ・「大学の日本語教育におけるライティングのあり方と意義」、2015年3月9日、東京大学日本語教育連絡協議会及び講演会、於：東京大学日本語教育センター

12. その他

- ・日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目アドバイザー担当
- ・国立国語研究所共同プロジェクト（「コミュニケーションのための言語と教育の研究」）共同研究員、2012年4月～

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○ 春学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーション A

○ 秋学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーション B

(3) 大学院

○ 春学期

言語コミュニケーション論 A

○ 秋学期

言語コミュニケーション論 B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春学期

日本語集中（研修）コース LJ100（コーディネーターおよび授業担当）

日本語集中（研修）コース LJ150（コーディネーターおよび授業担当）

選択コース JC500/600（アカデミックコミュニケーション）

○ 秋学期

日本語集中（研修）コース LJ100（コーディネーターおよび授業担当）

選択コース JC500/600（アカデミックコミュニケーション）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3（うち留学生は 1）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は 1）

(3) 日本語研修生 27

(4) 研究生 2（うち留学生は 2）

5. 学内運営

- ・ 大学院言語文化研究科兼任教員
- ・ 学生生活委員会委員
- ・ キャンパスライフ支援センター兼任教員
- ・ 国際教育交流センター教務委員会委員
- ・ 国際教育交流センター評価 WG 委員
- ・ いちょう日本語プログラム コーディネーター

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：25370589 平成 25 年度～平成 27 年度「日本語教育学研究の体系化および方法論の確立」、研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「日本人中学生の異文化受容態度とその関連要因—米国・中国との比較から—」潘英峰・義永美央子、『異文化間教育』40号、pp.138-149、2014年8月、査読有（調査報告）
- ・「ライフストーリーから見られた非漢字圏日本語学習者の漢字学習への動機づけ—L2 Motivational Self System の観点から—」Buasaengtham Arnon・義永美央子、『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第19号、pp.13-34、2015年3月、査読有（学術論文）
- ・「『いちよう日本語プログラム』活動報告—外国人研究者および外国人配偶者向け有料日本語プログラム—」義永美央子・小関祐子・鹿島実夢、『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第19号、pp.95-102、2015年3月、査読無（実践報告）
- ・「日本語教育と『やさしさ』—日本人による日本語の学び直し—」義永美央子、義永美央子・山下仁（編）『ことばの「やさしさ」とは何か—批判的社会言語学からのアプローチ—』所収、pp.19-43、2015年3月、査読無（学術論文）

(2) 著書

- ・『ことばの「やさしさ」とは何か—批判的社会言語学からのアプローチ—』義永美央子・山下仁編、三元社、2015年3月

(3) 口頭発表

- ・「日本語教育学の体系化に向けて—生活者としての日本語学習への3つのアプローチによる検討—」義永美央子・岩田一成・本田弘之、シドニー日本語教育国際研究大会（Sydney ICJLE）2014 パネルセッション、2014年7月（於：シドニー工科大学）、査読有

8. 学外運営

- ・(社)日本語教育学会査読協力者 2013年6月～

10. 講演会

- ・外国人とのコミュニケーション、竹の子にほんご交流会・マチカネにほんご交流会合同研修会、2015年3月18日（於：大阪大学）

12. その他

- ・大阪大学総長奨励賞（研究部門） 2014年7月
- ・国立国語研究所共同プロジェクト（「日本語を母語あるいは第二言語とする者による相互行為に関する総合的研究」）共同研究員
- ・平成 26 年度大阪大学研究支援員制度（大阪大学男女共同参画推進オフィス）

- ・大阪大学男女共同参画推進オフィス・ロールモデル集に紹介記事掲載
http://www.osaka-u.ac.jp/sp/diversity_webbook/#page=29

資料1

国際教育交流センターが提供する日本語科目 2014年度 時間割

春学期・吹田キャンパス

□ : 専門日本語

□ : 一般日本語

★国際交流科目、★★共通教育科目(単位取得可能科目)

| 時間帯 | 講義室 | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | |
|------------------------|-----|----|----|-----------|---|-----------|-----------------------|-------------------|---------------------------|-------------------|----------------------------------|
| | | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 |
| I 8:50 ~10:20 | 1 | | | JB100-1 | 総合日本語 田中 | IJ100 | 藤永 | JB100-T1-2 | 総合日本語 大平 | JK201 | 笹川 |
| | 2 | | | | | | | | | ★JA400-T2 | 滝井 |
| | 3 | | | | | | | | | ★JA500-T2 | 岡崎 |
| | 4 | | | | | | | | | ★JA200-T2 | 上仲 |
| | 5 | | | | | JK202/302 | 漢字と語彙 (漢字系) 笹川 | JK301 | 漢字と語彙 (非漢字系) 陳 | ★JA100-T2 | 櫻井 |
| | 6 | | | JB200-1 | 総合日本語 山崎 | | | JB200-2 | 総合日本語 野々口 | ★JA300-T2 | 浦木 |
| II 10:30 ~12:00 | 1 | | | | | IJ100 | 菅 | JC400 | アカデミック コミュニケーション 梅本 | JB100-T2-2 | 竹内 |
| | 2 | | 福良 | | IJ200 | IJ200 | 村上 | | IJ200 | | 山崎 |
| | 3 | | | | IJ300 | IJ300 | 西村 | | IJ300 | チュートリアル | TA 笹川 |
| | 4 | | | | | IJ150 | 藤永 | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | |
| | 6 | | | チュートリアル | IJ100/150 (漢字と語彙) TA 藤原 埋橋→ 新庄 | TA 甲斐 | 金 | BJ400/ 500/600 | ピジネス日本語 講義 | チュートリアル | IB100/150 (漢字と語彙) TA 安本 |
| III 13:00 ~14:30 | 1 | | | | IJ100 | IJ100 | 菅 | | IJ100 | | 浦木 |
| | 2 | | 福良 | | IJ200 | IJ200 | TA 隊 | チュートリアル | IJ200 | | 山崎 |
| | 3 | | | | IJ300 | IJ300 | 西村 | | IJ300 | | |
| | 4 | | | | IJ150 | IJ150 | 浦木 | | IJ150 | | |
| | 5 | | | | | | 金 | JB100-T2-1 | 総合日本語 | JR400 | 梅本 |
| | 6 | | | | | | 藤澤 | JB300-1 | 総合日本語 | | 林 |
| IV 14:40 ~16:10 | 1 | | | | IJ100 | IJ100 | 岡田 | JP500/600 | アカデミック プレゼンテーション 難波 | | 浦木 |
| | 2 | | | | | | | JP400 | アカデミック プレゼンテーション 村上 | | |
| | 3 | | 磯野 | | IJ300 | | | | | | |
| | 4 | | | | IJ150 | IJ150 | 浦木 | | IJ150 | | 梅本 |
| | 5 | | | | | | 金 | | JG300/400 | 文法講義 埋橋→ 梅本 | |
| | 6 | | | JC500/600 | アカデミック コミュニケーション 義永 | JW400 | アカデミック ライティング 金 | | | EJS300/400 | 英文和訳 井上 |
| V 16:20 ~17:50 | 1 | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | 専門日本語 磯野 | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | | | |
| | 6 | | | JW500/600 | アカデミック ライティング 西村 | | | | | | |

| 時間帯 | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | | | | |
|----------------------------|-----------------------------------|----|------|--------------------------|-----------|-----------|-----------------------------------|----|-----------|---------------------|------|------|----------------------------|--|
| | 授業 | 担当 | 講義室 | 授業 | 担当 | 講義室 | 授業 | 担当 | 講義室 | 授業 | 担当 | 講義室 | | |
| I 8:50 ~ 10:20 | ★JA100 -T1/T2 (総合日本語 講義) | 金 | C104 | ★JA100 -T1 (総合日本語) | 埋橋→ 岡田 | C107 | ★JA100 -T1 (総合日本語) | 花井 | A203 | | | | | |
| | ★JA200 -T1/T2 (総合日本語 講義) | 磯野 | C305 | ★JA200 -T1 (総合日本語) | 上仲 | C204 | ★JA100 -T2 (総合日本語) | 櫻井 | C404 | | | | | |
| | ★JA300 -T1/T2 (総合日本語 講義) | 西口 | A214 | ★JA300 -T1 (総合日本語) | 新庄 | 文法経 演5 | ★JA200 -T1 (総合日本語) | 滝井 | A313 | | | | | |
| | ★JA400 -T1 (総合日本語) | 菅 | A203 | ★JA400 -T1 (総合日本語) | 藤澤 | A103 | ★JA300 -T1 (総合日本語) | 新庄 | 文法経 演5 | | | | | |
| | ★JA500 -T1/T2 (総合日本語 講義) | 大谷 | A114 | ★JA500 -T1 (総合日本語) | 田中 | C405 | ★JA400 -T1/T2 (総合日本語 講義) | 難波 | 文法経 31 | | | | | |
| | ★JA400 -T2 (総合日本語) | 滝井 | C204 | ★JA250 (総合日本語) | 花井 | B306 | ★JA500 -T1 (総合日本語) | 小原 | 文法経 演3 | | | | | |
| | ★JA250 (総合日本語) | 岡崎 | C107 | | | | ★JA200 -T2 (総合日本語) | 岡崎 | 法経 演1 | | | | | |
| | | | | | | | ★JA300 -T2 (総合日本語) | 陸山 | C107 | | | | | |
| | | | | | | | ★JA500 -T2 (総合日本語) | 伊藤 | C204 | | | | | |
| | | | | | | | ★JA250 (総合日本語 講義) | 西口 | 文法経 32 | | | | | |
| II 10:30 ~ 12:00 | | | | | | | | | | EJT500/ 600 | 英文和訳 | 井上 | ラーニン グモ ズ(総合 図書館) | |
| III 13:00 ~ 14:30 | | | | | | | | | | | | | | |
| IV 14:40 ~ 16:10 | | | | | | | | | | | | | | |
| V 16:20 ~ 17:50 | ★★★専門日本語 | 難波 | C107 | ★★★総合日本語 | 大谷 | C207 | ★★★専門日本語 | 村岡 | C405 | ★★★総合日本語 | 金 | C205 | | |
| | ★★★ 多文化コミュニケーション | 伊藤 | C307 | ★★★ 多文化コミュニケーション | 菅原 | C203 | ★★★ 多文化コミュニケーション | 磯野 | C207 | ★★★総合日本語 | 磯野 | C207 | | |
| | | | | | | | ★★★ 多文化コミュニケーション | 大谷 | B307 | ★★★ 多文化コミュニケーション | 有川 | B206 | | |

| 時間帯 | 講義室 | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | |
|------------------------|-----|---------------|----------|------------|-----------|-----------------------------|---------|------------|---------------------|--------------|----------|
| | | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 |
| I 8:50 ~10:20 | 1 | | | JB100-T1-1 | 田中 | IJ100 | 義永 | | | ★JA400-T2 | 滝井 |
| | 2 | | | | | | | | | ★JA200-T2 | 上仲 |
| | 3 | | | | | | | | | ★JA300-T2 | 浦木 |
| | 4 | | | | | 理系 日本語① JK202/ 302 | 村上 | | | ★JA500-T2 | 岡崎 |
| | 5 | | | | | 漢字と語彙 (漢字系) | 笹川 | JK301 | 漢字と語彙 (非漢字系) | ★JA100-T2 | 櫻井 |
| | 6 | | | JB200-1 | 山崎 | | | 野々口 | 総合日本語 | JK201 | 笹川 |
| II 10:30 ~12:00 | 1 | チュートリアル | TA 藤原 | チュートリアル | TA アノン | IJ100 (漢字と語彙) | 義永 | チュートリアル | IJ100 (漢字と語彙) | チュートリアル | TA 武藤 |
| | 2 | | 福良 | | 山崎 | IJ200 | TA 陳 | | IJ200 | | 山崎 |
| | 3 | | 陸山 | | 小原 | | 菅 | | IJ300 | チュートリアル | TA 笹川 |
| | 4 | 専門基礎 日本語① | | | | 理系 日本語② | 村上 | | | 専門基礎 日本語③ | 上仲 |
| | 5 | | | JC400 | 岡田 | | | | | JB100-T2-2 | 竹内 |
| | 6 | | | | | ビジネス日本語 講義 | 金 | | | JB300-T2-2 | 梅本 |
| III 13:00 ~14:30 | 1 | | 陸山 | | 岡田 | IJ100 | 花井 | | IJ100 | | 浦木 |
| | 2 | | 福良 | | 山崎 | IJ200 | 村上 | | IJ200 | | 山崎 |
| | 3 | | 西村 | | 小原 | | 磯野 | | IJ300 | | |
| | 4 | 専門基礎 物理 | | | | KOSMOS ルーム | ホーム | | | 専門基礎 日本語④ | 上仲 |
| | 5 | | | | | JB100-T2-1 | 菅 | JP400 | アカデミック プレゼンテーション | JR400 | 林 |
| | 6 | | | | | JB300-T2-1 | 藤澤 | JB100-T1-2 | 総合日本語 | | |
| IV 14:40 ~16:10 | 1 | | 陸山 | | 岡田 | IJ100 | 金 | | IJ100 | | 浦木 |
| | 2 | | | | | | | | IJ200 | | |
| | 3 | | | | | | | | | | |
| | 4 | 専門基礎 物理 | | 寺井 | | | | | | 専門基礎 日本語⑤ | |
| | 5 | JG300/ 400 | | 新庄 | | 西口 | 難波 | JP500/600 | アカデミック プレゼンテーション | JB300-T1-2 | 山崎 |
| | 6 | JG500/600 | | 義永 | | | | | | EJS300/400 | 井上 |
| V 16:20 ~17:50 | 1 | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | 専門教科 英語 | 井上 |
| | 5 | | | | | | | | | | |
| | 6 | JR500/600 | | 西村 | | 村岡 | | | | | |

| 時間帯 | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | |
|----------------------------|-------------------------|----|------|------------------------|----|-----------|---------------------------|----|------------|------|
| | 授業 | 担当 | 講義室 | 授業 | 担当 | 講義室 | 授業 | 担当 | 授業 | 担当 |
| I 8:50 ~ 10:20 | ★JA100 総合日本語 (講義) | 金 | B316 | ★JA100 総合日本語 -T1 | 岡田 | C107 | ★JA100 総合日本語 -T1 | 花井 | A313 | |
| | ★JA200 総合日本語 (講義) | 磯野 | C104 | ★JA200 総合日本語 -T1 | 上仲 | C204 | ★JA200 総合日本語 -T1 | 滝井 | C204 | |
| | ★JA300 総合日本語 (講義) | 西口 | C305 | ★JA300 総合日本語 -T1 | 新庄 | 文法経 演5 | ★JA300 総合日本語 -T1 | 新庄 | 文法経 演5 | |
| | ★JA400 総合日本語 (講義) | 菅 | C304 | ★JA400 総合日本語 -T1 | 藤澤 | A103 | ★JA400 総合日本語 -T1/T2 | 難波 | 文法経 演31 | |
| | ★JA500 総合日本語 (講義) | 大谷 | C404 | ★JA500 総合日本語 -T1 | 田中 | C405 | ★JA500 総合日本語 -T1 | 小原 | C107 | |
| | ★JA400 総合日本語 | 滝井 | C204 | ★JA250 総合日本語 | 花井 | B306 | ★JA100 総合日本語 -T2 | 櫻井 | 文法経 演12 | |
| | ★JA250 総合日本語 | 岡崎 | C107 | | | | ★JA200 総合日本語 -T2 | 岡崎 | C404 | |
| | | | | | | | ★JA300 総合日本語 -T2 | 陸山 | A203 | |
| | | | | | | | ★JA500 総合日本語 -T2 | 伊藤 | 文法経 演3 | |
| | | | | | | | ★JA250 総合日本語 | 西口 | 法経 演1 | |
| II 10:30 ~ 12:00 | 専門教科 化学 | 立光 | C-S4 | | | | 日本事情・ 異文化適応 | 磯山 | C204 | A304 |
| | | | | | | | | | | |
| III 13:00 ~ 14:30 | 専門教科 化学 | 立光 | A311 | | | | 専門教科 数学 | 下村 | C-S4 | |
| | | | | | | | | | | |
| IV 14:40 ~ 16:10 | 専門教科 数学 | 宮田 | A311 | | | | 専門基礎 日本語③ | 磯野 | C-S4 | |
| | | | | | | | | | | |
| V 16:20 ~ 17:50 | ★★専門日本語 | 大谷 | C207 | ★★専門日本語 | 村岡 | C405 | ★★総合日本語 | 金 | C205 | |
| | ★★ 多文化コミュニケーション | 西村 | C203 | ★★ 多文化コミュニケーション | 磯野 | C207 | ★★総合日本語 | 磯野 | C207 | |
| | ★★ 多文化コミュニケーション | | | ★★ 多文化コミュニケーション | 大谷 | B307 | | | | |

資料2 2014年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数一覧

2-1 春学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

| 研究科 / 学部 | 総計 | 身分別内訳 | | | | |
|------------------|-----|-------|------|-------|----------|----------|
| | | 学部学生 | 大学院生 | 研究生*1 | 特別研究学生*2 | 特別聴講学生*2 |
| 文学研究科/文学部 | 1 | | | 1 | | |
| 人間科学研究科/人間科学部 | 8 | | 1 | 3 | | 4 |
| 法学研究科/法学部 | 4 | | | 3 | | 1 |
| 経済学研究科/経済学部 | 2 | | | 2 | | |
| 理学研究科/理学部 | 5 | | 5 | | | |
| 医学研究科/医学部 | 6 | | 4 | 2 | | |
| 薬学研究科/薬学部 | 2 | | 1 | | | 1 |
| 工学研究科/工学部 | 44 | 1 | 33 | 9 | 1 | |
| 基礎工学研究科/基礎工学部 | 4 | | 3 | 1 | | |
| 歯学研究科/歯学部 | 0 | | | | | |
| 言語文化研究科 | 4 | | | 4 | | |
| 外国語学部 | 1 | | | | | 1 |
| 国際公共政策研究科 | 3 | | 2 | 1 | | |
| 情報科学研究科 | 9 | | 6 | 3 | | |
| 生命機能研究科 | 6 | | 4 | 1 | 1 | |
| 産業科学研究所 | 1 | | | 1 | | |
| 社会経済研究所 | 1 | | | 1 | | |
| 接合科学研究所 | 1 | | | 1 | | |
| レーザーエネルギー学研究センター | 1 | | | 1 | | |
| 国際教育交流センター*3 | 4 | | | 4 | | |
| 計*4 | 107 | 1 | 59 | 38 | 2 | 7 |

【特記事項】

- *1. 研究生：大学院レベル、学部レベル、および予備教育生（日本語集中（研修）コース）。
研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中（研修）コース生15名は、所属部局欄に記載されている。
- *2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・Frontier Labのほか、iExpoの学生が含まれる。
- *3. 国際教育交流センター欄の研究生4名は、他大学配属日本語集中（研修）コース生。
- *4. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。
また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

| 選択レベル | 総計 | 身分別内訳 | | | | |
|--------------|-----|-------|------|-----|--------|--------|
| | | 学部学生 | 大学院生 | 研究生 | 特別研究学生 | 特別聴講学生 |
| (未習) 100 | 16 | | 14 | 2 | | |
| 200 | 24 | | 14 | 9 | | 1 |
| 300 | 27 | | 16 | 8 | 2 | 1 |
| 400 | 17 | | 9 | 5 | | 3 |
| 500 | 14 | | 3 | 10 | | 1 |
| (超上級レベル) 600 | 9 | 1 | 3 | 4 | | 1 |
| 計 | 107 | 1 | 59 | 38 | 2 | 7 |

2-2 秋学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

| 研究科 / 学部 | 総計 | 身分別内訳 | | | | |
|--------------------------|-----|-------|------|-------------------|----------------------|----------------------|
| | | 学部学生 | 大学院生 | 研究生 ^{*1} | 特別研究学生 ^{*2} | 特別聴講学生 ^{*2} |
| 文学部 | 1 | | | | | 1 |
| 人間科学部 | 9 | 1 | | 8 | | |
| 法学研究科/法学部 | 3 | | 1 | 2 | | |
| 経済学研究科/経済学部 | 4 | | | 3 | | 1 |
| 理学研究科/理学部 | 6 | | 5 | 1 | | |
| 医学系研究科/医学部 | 15 | | 6 | 9 | | |
| 歯学部 | 1 | | | 1 | | |
| 薬学研究科 | 2 | | 2 | | | |
| 工学研究科/工学部 | 78 | | 52 | 14 | 2 | 10 |
| 基礎工学研究科/基礎工学部 | 10 | | 5 | 4 | | 1 |
| 外国語学部 | 1 | | | | | 1 |
| 言語文化研究科 | 11 | | | 11 | | |
| 国際公共政策研究科 | 3 | | | 3 | | |
| 情報科学研究科 | 13 | | 6 | 7 | | |
| 生命機能研究科 | 3 | | 3 | | | |
| 産業科学研究所 | 4 | | | 4 | | |
| 蛋白質研究所 | 1 | | | | 1 | |
| 社会経済研究所 | 1 | | | 1 | | |
| 接合科学研究所 | 1 | | | 1 | | |
| 国際教育交流センター ^{*3} | 2 | | | 2 | | |
| 計 ^{*4} | 169 | 1 | 80 | 71 | 3 | 14 |

【特記事項】

- *1. 研究生：大学院レベル、学部レベル、および予備教育生（日本語集中（研修）コース）。
研究生のうち、他大学配属日本語研修生以外の日本語集中（研修）コース生14名は、所属部局欄に記載されている。
- *2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・Frontier Labのほか、iExpoの学生が含まれる。
- *3. 国際教育交流センター欄の研究生2名は、他大学配属日本語集中（研修）コース生。
- *4. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。
また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

| 選択レベル | 総計 | 身分別内訳 | | | | |
|--------------|-----|-------|------|-----|--------|--------|
| | | 学部学生 | 大学院生 | 研究生 | 特別研究学生 | 特別聴講学生 |
| (未習) 100 | 42 | | 28 | 5 | 3 | 6 |
| 200 | 29 | | 15 | 11 | | 3 |
| 300 | 41 | | 23 | 16 | | 2 |
| 400 | 22 | | 11 | 10 | | 1 |
| 500 | 16 | | 1 | 13 | | 2 |
| (超上級レベル) 600 | 19 | 1 | 2 | 16 | | |
| 計 | 169 | 1 | 80 | 71 | 3 | 14 |

資料3 国際交流科目授業時間割

(平成 26 年度春学期)

| 時限 | 時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----|---------------------|------------------------------|---|--|---|--|
| | | 吹田キャンパス | 豊中キャンパス | 豊中キャンパス/吹田キャンパス | 豊中キャンパス | 吹田キャンパス/箕面キャンパス |
| I | 8:50 10:20 | | 日本語 JA (100, 200, 250, 300, 400-1, 400-2, 500) 《国際教育交流センター》 | 日本語 JA (100-1, 200-1, 250, 300-1, 400-1, 500-1) 《国際教育交流センター》 | 日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 250, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2) 《国際教育交流センター》 | 日本語 JA (100-2, 200-2, 300-2, 400-2, 500-2) 《国際教育交流センター》 |
| | | | 100 : 金 孝嗣 200 : 磯野 英治 250 : 岡崎 洋三 300 : 西口 光一 400-1 : 菅 祺子 400-2 : 滝井 未来 500 : 大谷 晋也 | 100-1 : 埋橋 淑子 200-1 : 上仲 淳 250 : 花井 理香 300-1 : 新庄 あいみ 400-1 : 藤澤 好恵 500-1 : 田中 真衣 | 100-1 : 花井 理香 100-2 : 櫻井 千穂 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 岡崎 洋三 250 : 西口 光一 300-1 : 新庄 あいみ 300-2 : 陸山 拓 400 : 難波 康治 500-1 : 小原 俊彦 500-2 : 伊藤 創 | 100-2 : 櫻井 千穂 200-2 : 上仲 淳 300-2 : 浦木 貴和 400-2 : 滝井 未来 500-2 : 岡崎 洋三 |
| | | | 100 : 全学教育 C104 200 : 全学教育 C305 250 : 全学教育 C107 300 : 全学教育 A214 400-1 : 全学教育 A203 400-2 : 全学教育 C204 500 : 全学教育 A114 | 100-1 : 全学教育 C107 200-1 : 全学教育 C204 250 : 全学教育 B306 300-1 : 文法経講義棟演 5 400-1 : 全学教育 A103 500-1 : 全学教育 C405 | 100-1 : 全学教育 A203 100-2 : 全学教育 C404 200-1 : 全学教育 A313 200-2 : 法経講義棟演 1 250 : 文法経講義棟 32 300-1 : 文法経講義棟演 5 300-2 : 全学教育 C107 400 : 文法経講義棟 31 500-1 : 文法経講義棟演 3 500-2 : 全学教育 C204 | 100-2 : IC Hall Room 5 200-2 : IC Hall Room 4 300-2 : IC Hall Room 6 400-2 : IC Hall Room 2 500-2 : IC Hall Room 3 |
| II | 10:30 12:00 | 我が国の保健サービスと 医療ケア 《医学部》 | 哲学的思考と日本の伝統 《文学部》 | 入門経済学 《経済学 研究科》 | 特別講義 (比較契約法・ 不法行為法の 諸問題) 《法学研究科》 | 近代日本文学における大阪 《言語文化研究科》 |
| | | 松本 博志 | 上野 修 | 西村 幸浩 | チアノ レオナルド | 村上 スミス・アンドリュウ |
| | | IC Hall Room 5 | 文法経講義棟 12 | 全学教育 C304 | 文法経研究 講義棟 22 | 全学教育 B206 |
| III | 13:00 14:30 | 応用理工学入門 《工学部》 | 日本法の諸問題 《法学部》 | 日本の社会とイデオロギー 《国際教育交流センター》 【吹田】 | 日本の社会保障 《国際教育交流センター》 | 異文化理解演習 《外国語学部》 |
| | | 榎本 俊之 | ペドリサ・ルイス | 近藤 佐知彦 | 伊藤 ゆかり | 堀川 智也 |
| | | 工学部 R1-214 | 文法経講義棟 23 | 人間科学部東館 106 号室 | 全学教育 スチューデント・commons 開放型セミナー室 | 外国語学部 A216 |
| IV | 14:40 16:10 | 言語と翻訳 《国際教育交流センター》 | 今日の生物科学 《理学部》 | | バイオエシックスとヘルス・ ロー: バイオテクノロジー、先 端医療、ヘルスケア・システム における法的諸問題 《法学部》 | |
| | | 歳岡 冴香 | 小倉 明彦 | | 瀬戸山 晃一 | |
| | | IC Hall Room 5 | 理学部 B302 | | 文法経講義棟 22 | |
| V | 16:20 17:50 | | オンライン・リソースを活用した L2 学習 《国際教育交流センター》 | | 数学とその工学応用 (I) 《国際教育交流センター》 | |
| | | | 魚崎 典子 | | 宮原 啓造 | |
| | | | 全学教育 A304 | | 全学教育 C107 | |

網がけ授業は箕面キャンパス

(平成 26 年度秋学期)

| 時限 | 時間 | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | |
|-----|---------------------|--------------------------|-------------------|---|----------------------------|---|---------------------------|--|-----------------------------------|--|--------------------------|---|
| | | 吹田キャンパス | | 豊中キャンパス | | 豊中/吹田キャンパス | | 豊中キャンパス | | 吹田/箕面キャンパス | | |
| I | 8:50 10:20 | | | 日本語 JA (100, 200, 250, 300, 400-1, 400-2, 500) 《国際教育交流センター》 | | 日本語 JA (100-1, 200-1, 250, 300-1, 400-1, 500-1) 《国際教育交流センター》 | | 日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 250, 300-1, 300-2, 400, 500-1, 500-2) 《国際教育交流センター》 | | 日本語 JA (100-2, 200-2, 300-2, 400-2, 500-2) 《国際教育交流センター》 | | |
| | | | | 100 : 金 孝脚 200 : 磯野 英治 250 : 岡崎 洋三 300 : 西口 光一 400-1 : 菅 摂子 400-2 : 滝井 未来 500 : 大谷 晋也 | | 100-1 : 岡田亜矢子 200-1 : 上仲 淳 250 : 花井 理香 300-1 : 新庄あいみ 400-1 : 藤澤 好恵 500-1 : 田中 真衣 | | 100-1 : 花井 理香 100-2 : 櫻井 千穂 200-1 : 滝井 未来 200-2 : 岡崎 洋三 250 : 西口 光一 300-1 : 新庄あいみ 300-2 : 陸山 拓 400 : 難波 康治 500-1 : 小原 俊彦 500-2 : 伊藤 創 | | 100-2 : 櫻井 千穂 200-2 : 上仲 淳 300-2 : 浦木 貴和 400-2 : 滝井 未来 500-2 : 岡崎 洋三 | | |
| | | | | 100 : 全学教育 B316 200 : 全学教育 C104 250 : 全学教育 C107 300 : 全学教育 C305 400-1 : 全学教育 C304 400-2 : 全学教育 C204 500 : 全学教育 C404 | | 100-1 : 全学教育 C107 200-1 : 全学教育 C204 250 : 全学教育 B306 300-1 : 文法経講義棟 演 5 400-1 : 全学教育 A103 500-1 : 全学教育 C405 | | 100-1 : 全学教育 A313 100-2 : 文法経講義棟 12 200-1 : 全学教育 C204 200-2 : 全学教育 C404 250 : 法経講義棟 演 1 300-1 : 文法経講義棟 演 5 300-2 : 全学教育 A203 400 : 文法経講義棟 31 500-1 : 全学教育 C107 500-2 : 文法経講義棟 演 3 | | 100-2 : IC Hall Room 1 200-2 : IC Hall Room 2 300-2 : IC Hall Room 3 400-2 : IC Hall Room 5 500-2 : IC Hall Room 4 | | |
| II | 10:30 12:00 | 翻訳と翻訳者たち 《国際教育交流センター》 | | 日本における文化と言語の多様性 《文学研究科》 | 社会学 I (人間科学部) | 人類学 II (人間科学部) | 数学とその工学応用 《国際教育交流センター》 | | 国際経営入門 《経済学研究科》 | 社会学 II 《人間科学部》 | 高齢者心理学 《国際教育交流センター》 | |
| | | 蔵岡 冴香 | | 川村 邦光 | Viktoriya KIM | Christie LAM | 宮原 啓造 | | 関口 倫紀 | Viktoriya KIM | 権藤 恭之 | |
| | | IC Hall Room 5 | | 豊中総合学館 301 | 全学教育 C304 | 全学教育 A313 | 全学教育 C205 | | 文法経講義棟 32 | 全学教育 A203 | 人間科学部本館 32 | |
| III | 13:00 14:30 | グローバル化と大学教育 《人間科学部》 | | 比較法の諸問題 《法学部》 | | ジェロントロジー(老年学)総論 《人間科学研究科》 | | 近代・現代日本文学 《言語文化研究科》 | 市民社会運動 《人間科学部》 | 異文化理解演習 《外国語学部》 | ジェンダー論 《人間科学研究科》 | |
| | | 石川 真由美 | | ベドリサ・ルイス | | 上田 博司 | | 村上スミス アンドリュウ | Christie LAM | 堀川 智也 | 山本 ペバリー アン | |
| | | 人間科学部本館 31 | | 文法経講義棟 23 | | 人間科学研究科本館 第 12 講義室 | | 全学教育 A214 | 全学教育 A203 | 外国語学部 A216 | 人間科学研究科 東館 303 講義室 | |
| IV | 14:40 16:10 | 多変量統計科学 (人間科学部) | 日本のサル学 (人間科学部) | 文化: その理解へのアプローチ 《国際教育交流センター》 | | 実験数学 《理学研究科》 | | グローバルシティズンシップ 《人間科学部》 | 日本のメディアとコミュニケーション 《国際教育交流センター》 | | | |
| | | 足立 浩平 | 中道 正之 | 有川 友子 | 鈴木 譲 | | Christie LAM | 近藤 佐知彦 | | | | |
| | | 人間科学部本館 33 | 人間科学部本館 41 | 人間科学部東館 207 | サイバーメディアセンター 情報教育第 2 教室 | | 全学教育 A203 | 全学教育 A214 | | | | |
| V | 16:20 17:50 | | | コンピュータを活用した語学学習 《国際教育交流センター》 | 国際法概論 《人間科学部》 | | 精密科学入門 《工学部》 | | 日本の法・政治制度と法・政治文化入門 《法学部》 | | 経済学 II | 地球総合工学入門 -持続可能な開発における地球総合工学の役割- 《工学研究科》 |
| | | | | 魚崎 典子 | 仲宗根 卓 | 桑原 裕司 | | 瀬戸山 晃一 | | Jeremiah MOCK | 木多 道宏 | |
| | | | | 全学教育 A304 | 全学教育 C405 | 工学部 R1-214 | | 文法経講義棟 22 | | 人間科学部東館 303 | 工学部 U1W-618 | |

網がけ授業は箕面キャンパス

資料4 日本語授業についてのアンケート

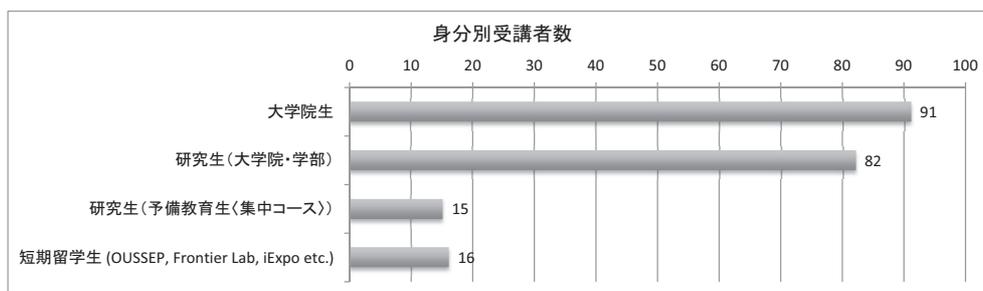
2014年度 春学期 日本語授業についてのアンケート集計

(回答者：選択コース受講学生)

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分 (2014年度春学期 科目別受講者数調べより (のべ受講者数))

| | |
|--|----|
| (1) 大学院生 | 91 |
| (2) 研究生 (大学院・学部) | 82 |
| (3) 研究生 (予備教育生 (集中コース)) | 15 |
| (4) 短期留学生 (OUSSEP, Frontier Lab, iExpo etc.) | 16 |



A. あなたの受講状況について

(5：高評価) 全科目平均値

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

| 50%未満 | 50-70% | 70-80% | 80-90% | 90%以上 | 平均値 |
|-------|--------|--------|--------|-------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 4.3 |

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

| 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う | 平均値 |
|----------|--------|-----------|------|--------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 4.2 |

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。

| 全くしない | ～30分 | ～60分 | ～90分 | 90分以上 | 平均値 |
|-------|------|------|------|-------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 3.4 |

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。

| 全くしない | ～30分 | ～60分 | ～90分 | 90分以上 | 平均値 |
|-------|------|------|------|-------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 2.5 |

(5) あなたは、この授業中(90分)にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

| 一度もしなかった | 1回 | 2～3回 | 4～5回 | 6回以上 | 平均値 |
|----------|----|------|------|------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 3.1 |

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

| ぜんぜん上達しなかった | ほとんど上達しなかった | すこしだけ上達した | かなり上達した | とても上達した | 平均値 |
|-------------|-------------|-----------|---------|---------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 4.2 |

B. 授業への感想

(5：高評価)

| 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う |
|----------|--------|-----------|------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

| | |
|--------------------------------|------------|
| (1) この授業は体系的に構成されていた。 | 4.6 |
| (2) 教師は十分な準備をしていた。 | 4.7 |
| (3) 教師の説明はわかりやすかった。 | 4.7 |
| (5) 練習やアクティビティは役に立った。 | 4.7 |
| (6) クイズや課題・テストなどは適切だった。 | 4.5 |
| (7) 宿題の量は適切だった。 | 4.3 |
| (8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。 | 4.6 |
| (9) この授業を受講してよかったと思う。 | 4.7 |

2014年度 春学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者: 選択コース受講学生)
Students' Evaluation of the Japanese Language Class

| | | |
|--------|-----------|-------|
| 受講者数 | アンケート回答者数 | 回答率 |
| のべ204名 | のべ42名 | 20.6% |

○各科目平均集計

1. 選択コース

* 延べ総受講者 204名内、アンケート回答者数 42名 (全体の約20.6%)

| 質問項目 | 科目名 | 全科目平均値 | JB100 | JB200 | JK202/302 | JB300 | JG300/400 | JC400 | JW400 | JP400 | BUJ400/500/600 | JG500/600 | JR500/600 | JW500/600 | JP500/600 |
|------|-----------|---------|-------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-------|-------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| A. | 受講者数/回答者数 | 128/348 | 5/18 | 6/27 | 2/13 | 2/9 | 7/21 | 2/6 | 1/8 | 3/5 | 1/10 | 4/15 | 5/12 | 1/13 | 3/9 |
| | (1) | 4.4 | 3.8 | 4.8 | 4.0 | 4.5 | 3.7 | 4.5 | 5.0 | 4.3 | 4.0 | 5.0 | 4.4 | 5.0 | 4.0 |
| | (2) | 4.2 | 4.2 | 3.5 | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 4.5 | 5.0 | 4.7 | 4.0 | 4.3 | 4.4 | 4.0 | 4.3 |
| | (3) | 3.2 | 3.6 | 2.2 | 3.0 | 2.5 | 2.1 | 2.5 | 5.0 | 3.7 | 1.0 | 2.8 | 3.2 | 5.0 | 4.7 |
| | (4) | 2.5 | 3.2 | 1.8 | 3.0 | 2.5 | 2.0 | 2.5 | 2.0 | 3.7 | 1.0 | 2.3 | 2.4 | 4.0 | 2.3 |
| | (5) | 3.2 | 3.2 | 2.3 | 2.0 | 3.5 | 2.9 | 2.9 | 2.5 | 4.0 | 4.0 | 3.0 | 3.4 | 4.0 | 3.7 |
| | (6) | 4.2 | 4.4 | 5.0 | 3.5 | 3.5 | 3.9 | 4.0 | 5.0 | 4.7 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 5.0 | 4.0 |
| | (7) | 4.4 | 4.2 | 4.2 | 4.5 | 4.0 | 4.0 | 4.4 | 4.5 | 5.0 | 4.7 | 4.0 | 3.5 | 4.4 | 5.0 |
| | (8) | 4.6 | 4.0 | 4.3 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.7 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 3.8 | 4.4 | 5.0 | 5.0 |
| | (9) | 4.6 | 4.0 | 4.2 | 4.5 | 4.5 | 4.0 | 4.6 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.2 | 5.0 | 5.0 |
| B. | (1) | 4.4 | 4.2 | 4.2 | 4.5 | 4.0 | 4.4 | 4.5 | 5.0 | 4.7 | 4.0 | 3.5 | 4.4 | 5.0 | 5.0 |
| | (2) | 4.6 | 4.0 | 4.3 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.7 | 5.0 | 5.0 | 4.0 | 3.8 | 4.4 | 5.0 | 5.0 |
| | (3) | 4.6 | 4.0 | 4.2 | 4.5 | 4.5 | 4.0 | 4.6 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 3.8 | 4.2 | 5.0 | 5.0 |
| | (4) | 4.5 | 4.2 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.6 | 5.0 | 4.7 | 5.0 | 3.5 | 4.2 | 5.0 | 5.0 |
| | (5) | 4.3 | 4.4 | 3.5 | 4.0 | 4.0 | 3.9 | 3.9 | 5.0 | 4.7 | 4.0 | 3.5 | 4.2 | 5.0 | 5.0 |
| | (6) | 4.2 | 4.2 | 3.3 | 3.5 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 5.0 | 4.0 | 4.7 | 3.5 | 4.2 | 5.0 | 5.0 |
| | (7) | 4.4 | 4.2 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.7 | 4.5 | 4.0 | 4.7 | 5.0 | 4.8 | 5.0 | 5.0 |
| | (8) | 4.4 | 4.2 | 4.3 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.7 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.0 | 4.4 | 5.0 | 5.0 |
| | (9) | 4.6 | 4.2 | 4.3 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.7 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 3.8 | 4.4 | 5.0 | 5.0 |

【設問内容】

A あなたの受講状況について

A1: あなたの日本語科目レベル

A2: 受講したクラス

A3: あなたは、次のどのカテゴリーにあてはまりますか。

- 大学院生 (博士) / Graduate school student (DC)
- 大学院生 (修士) / Graduate school student (MC)
- 日本語集中 (研修) コース生 / Student enrolled in the Intensive Japanese Language Course
- 短期留学生 / (OUSSEP, Frontier Lab, iExpo etc.)
- その他

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

| | | | | |
|-------|--------|--------|--------|-------|
| 50%未満 | 50~70% | 70~80% | 80~90% | 90%以上 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したいと思いますか。

| | | | | |
|----------|--------|-----------|------|--------|
| 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

| | | | | |
|-------|------|------|------|-------|
| 全くしない | ~30分 | ~60分 | ~90分 | 90分以上 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

| | | | | |
|-------|------|------|------|-------|
| 全くしない | ~30分 | ~60分 | ~90分 | 90分以上 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(5) あなたは、この授業中(90分)にいつものどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

| | | | | |
|----------|----|------|------|------|
| 一度もしなかった | 1回 | 2~3回 | 4~5回 | 6回以上 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

| | | | | |
|-------------|-------------|-----------|---------|---------|
| ぜんぜん上達しなかった | ほとんど上達しなかった | すこしだけ上達した | かなり上達した | とても上達した |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

B 授業への感想

全くそう思わない

| | | | | |
|----------|--------|-----------|------|--------|
| 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(1) この授業は体系的に構成されていた。

(2) 教師は十分な準備をしていた。

(3) 教師の説明はわかりやすかった。

(4) 教師は質問に丁寧に答えてくれた。

(5) 練習やアクティビティは役に立った。

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

(7) 宿題の量は適切だった。

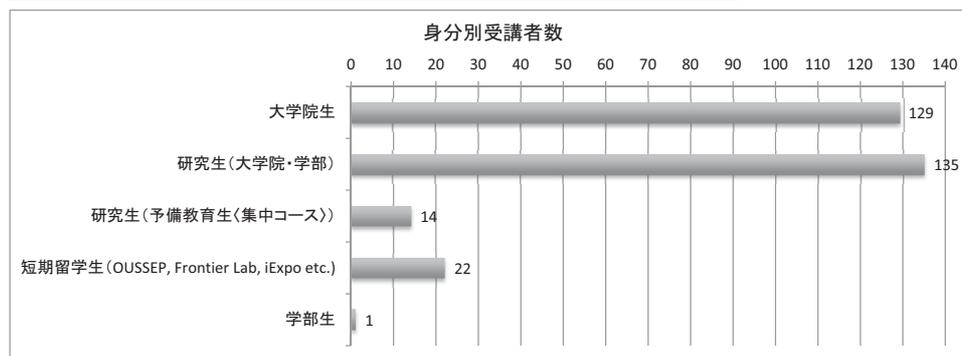
(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

(9) この授業を受講してよかったと思う。

2014年度 秋学期 日本語授業についてのアンケート集計
 (回答者：選択コース受講学生)
Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆ 身分 (2014年度 秋学期 科目別受講者数調べより (のべ受講者数))

| | |
|---|-----|
| (1) 大学院生 | 129 |
| (2) 研究生(大学院・学部) | 135 |
| (3) 研究生(予備教育生(集中コース)) | 14 |
| (4) 短期留学生(OUSSEP, Frontier Lab, iExpo etc.) | 22 |
| (5) 学部生 | 1 |



* 延べ総受講者 301名の内、アンケート回答者数47名 (全体の約15.6%)

A. あなたの受講状況について

(5：高評価) 全科目平均値

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

| 50%未満 | 50~70% | 70~80% | 80~90% | 90%以上 | 平均値 |
|-------|--------|--------|--------|-------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 4.4 |

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

| 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う | 平均値 |
|----------|--------|-----------|------|--------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 4.4 |

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎どのくらい時間をかけましたか。

| 全くしない | ~30分 | ~60分 | ~90分 | 90分以上 | 平均値 |
|-------|------|------|------|-------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 3.2 |

(4) あなたはこの授業の復習に、毎どのくらい時間をかけましたか。

| 全くしない | ~30分 | ~60分 | ~90分 | 90分以上 | 平均値 |
|-------|------|------|------|-------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 2.9 |

(5) あなたは、この授業中(90分)にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

| 一度もしなかった | 1回 | 2~3回 | 4~5回 | 6回以上 | 平均値 |
|----------|----|------|------|------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 3.7 |

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

| ぜんぜん上達しなかった | ほとんど上達しなかった | すこしだけ上達した | かなり上達した | とても上達した | 平均値 |
|-------------|-------------|-----------|---------|---------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 4.2 |

B. 授業への感想

(5：高評価)

| 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う |
|----------|--------|-----------|------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

| | |
|--------------------------------|------------|
| (1) この授業は体系的に構成されていた。 | 4.1 |
| (2) 教師は十分な準備をしていた。 | 4.4 |
| (3) 教師の説明はわかりやすかった。 | 4.3 |
| (5) 練習やアクティビティは役に立った。 | 4.3 |
| (6) クイズや課題・テストなどは適切だった。 | 4.3 |
| (7) 宿題の量は適切だった。 | 4.1 |
| (8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。 | 4.0 |
| (9) この授業を受講してよかったと思う。 | 4.3 |

2014年度 秋学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者: 選択コース受講学生)
Students' Evaluation of the Japanese Language Class

| | | |
|--------|-----------|-------|
| 受講者数 | アンケート回答者数 | 回答率 |
| のべ301名 | のべ47名 | 15.6% |

○各科目平均集計

1. 選択コース

* 延べ総受講者 301名の内、アンケート回答者数 47名 (全体の約 15.6%)

| 質問項目 | 科目名 | 全科目平均値 | JB100 | JB200 | JK202/302 | JB300 | JK301 | JG300/400 | EJS300/400 | JC400 | JW400 | JP400 | JR400 | JC500/600 | JR500/600 | JW500/600 | JP500/600 | JP500/600 |
|------|-----------|--------|-------|-------|-----------|-------|-------|-----------|------------|-------|-------|-------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| A. | 受講者数/回答者数 | 47/301 | 5/43 | 4/22 | 5/14 | 9/23 | 1/16 | 4/27 | 4/13 | 1/14 | 1/8 | 1/11 | 4/7 | 2/17 | 2/12 | 1/13 | 3/10 | 3/10 |
| | (1) | 4.4 | 4.0 | 4.0 | 5.0 | 4.4 | 4.0 | 4.8 | 4.8 | 5.0 | 5.0 | 4.0 | 4.3 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.7 |
| | (2) | 4.4 | 4.2 | 4.0 | 5.0 | 4.3 | 4.0 | 4.0 | 4.5 | 5.0 | 5.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 5.0 |
| | (3) | 3.2 | 2.2 | 3.8 | 2.4 | 3.3 | 4.0 | 4.0 | 2.0 | 4.0 | 5.0 | 3.0 | 2.3 | 4.0 | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 4.0 |
| | (4) | 2.9 | 2.4 | 3.5 | 2.0 | 2.7 | 4.0 | 4.0 | 3.0 | 2.8 | 5.0 | 3.0 | 2.5 | 2.0 | 2.0 | 3.0 | 3.0 | 2.3 |
| | (5) | 3.7 | 3.0 | 3.3 | 3.6 | 3.2 | 4.0 | 4.0 | 2.8 | 4.3 | 4.0 | 4.0 | 3.0 | 4.0 | 4.0 | 5.0 | 5.0 | 3.7 |
| | (6) | 4.2 | 4.0 | 4.5 | 3.8 | 4.1 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 5.0 | 5.0 | 4.0 | 3.8 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 3.7 |
| | (7) | 4.1 | 3.0 | 4.3 | 4.2 | 3.3 | 4.0 | 4.0 | 2.8 | 4.0 | 5.0 | 3.0 | 3.0 | 4.5 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.7 |
| | (8) | 4.4 | 3.0 | 4.8 | 4.8 | 3.9 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 5.0 | 4.0 | 4.0 | 4.8 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.3 |
| B. | (9) | 4.3 | 2.8 | 4.5 | 4.4 | 3.8 | 4.0 | 3.8 | 4.0 | 5.0 | 5.0 | 4.0 | 4.8 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.3 |
| | (1) | 4.3 | 2.8 | 4.3 | 4.6 | 3.2 | 4.0 | 3.8 | 4.0 | 5.0 | 5.0 | 4.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.7 |
| | (2) | 4.3 | 2.8 | 4.5 | 4.6 | 3.3 | 4.0 | 3.8 | 4.0 | 4.0 | 5.0 | 4.0 | 4.5 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.7 |
| | (3) | 4.3 | 2.8 | 4.3 | 4.4 | 3.6 | 4.0 | 3.5 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 4.3 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.7 |
| | (4) | 4.0 | 2.4 | 4.8 | 4.2 | 3.6 | 4.0 | 3.3 | 3.8 | 4.0 | 4.0 | 3.0 | 4.8 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.7 |
| | (5) | 4.3 | 2.8 | 4.3 | 4.6 | 3.8 | 4.0 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 5.0 | 4.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 4.7 |

【設問内容】

A あなたの受講状況について

A1: あなたの日本語科目レベル

A2: 受講したクラス

A3: あなたは、次のどのカテゴリーにあてはまりますか。

- 大学院生 (博士) / Graduate school student (DC)
- 大学院生 (修士) / Graduate school student (MC)
- 日本語集中 (研修) コース生 / Student enrolled in the Intensive Japanese Language Course
- 短期留学生 / (OUSSEP, Frontier Lab, iExpo etc.)
- その他

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

| | | | | |
|-------|--------|--------|--------|-------|
| 50%未満 | 50~70% | 70~80% | 80~90% | 90%以上 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したいと思いますか。

| | | | | |
|----------|--------|-----------|------|--------|
| 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

| | | | | |
|-------|------|------|------|-------|
| 全くしない | ~30分 | ~60分 | ~90分 | 90分以上 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

| | | | | |
|-------|------|------|------|-------|
| 全くしない | ~30分 | ~60分 | ~90分 | 90分以上 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(5) あなたは、この授業中(90分)にいくつものくらしい自分から質問や発言をしましたか。

| | | | | | | |
|----------|----|---|------|---|---|---|
| 一度もしなかった | 1回 | 2 | 2~3回 | 3 | 4 | 5 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

| | | | | |
|-------------|-------------|-----------|---------|---------|
| ぜんぜん上達しなかった | ほとんど上達しなかった | すこしだけ上達した | かなり上達した | とても上達した |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

B 授業への感想

| | | | | |
|----------|--------|-----------|------|--------|
| 全くそう思わない | そう思わない | どちらともいえない | そう思う | 強くそう思う |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- (1) この授業は体系的に構成されていた。
- (2) 教師は十分な準備をしていた。
- (3) 教師の説明はわかりやすかった。
- (4) 教師は質問に丁寧に答えてくれた。
- (5) 練習やアクティビティは役に立った。
- (6) クイズや課題・テストなどは適切だった。
- (7) 宿題の量は適切だった。
- (8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。
- (9) この授業を受講してよかったと思う。

International Exchange Subjects 2014 Fall Semester

Final Questionnaire on the Subject you attended

Conducted by Center for International Education and Exchange

***Note:**

This format of the questionnaire is for all exchange students. If you are NOT an exchange student, please answer to the Japanese questionnaires instead. (Those who are G30 students can answer to either English version or Japanese one.)

The main purpose of this survey is to enhance the educational effect and teaching quality of the instructors in the rest of the semester. The information may be used only by the instructor, coordinator and the staff of the program as reference for study and educational purposes.

Your answers to the questions below are irrelevant to your grade. Do NOT write your name.

Please spend at least 10 minutes to answer the questionnaires.

Do NOT submit this sheet to the instructor, please submit it after you have filled in to the designated students.

1. Which is your program?

A: OUSSEP B:iExPO C: Frontier Lab D: Maple

E: International-College (G30) CBCMP, F: International-College (G30) HUS, G: Others

2. Title of the Subject:

3. Name of the instructor:

4. Which below-mentioned field is your major close to?

1Dentistry, 2Economics, 3Engineering, 4Engineering-Science
5Foreign Studies, 6Human Sciences, 7Information Science and Technology,
8International Public Policy, 9Language and Culture, 10Law and Politics, 11Letters,
12Medicine, 13Pharmaceutical, 14Sciences, 15Others

5. How often did you attend this class so far?

A: all B:80%~ C:60%~ D:50~59% E:less than half

6. (a) Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?

(Osaka University would encourage the international students to transfer the academic credits)

Yes No

(b) If "No", please choose the reason.

A: I'm an Osaka University's student.

B: I can transfer, but I don't need credits.

C: I cannot transfer.

D: other

7. Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.

8. To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?

A: yes, very much B: to some extent C: not so much D: not at all

<Continue to the reverse side>

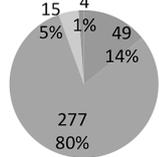
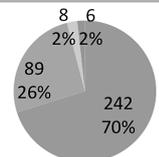
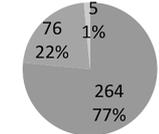
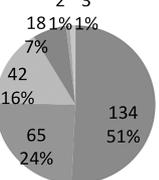
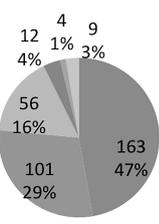
9. Is the lecture understandable?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
10. Does the instructor speak English understandably?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
11. Is the class conducted in accordance with the syllabus?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
12. Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
13. Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.
A: too much B: adequate C: not enough (insufficient)
14. Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently?
Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?
A: yes, very much B: to some extent C: not at all
15. Is there any TA (Teaching Assistant) in the class? Yes No
If Yes, how well does the TA contribute?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
16. Are you satisfied with this class?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
17. Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. Audio-visual material, Field trip, Experiments, discussion, quiz, etc.)
18. Let us know your suggestion or advice to improve the class.
19. Please write other comments and frank opinions freely, if any.

Thank you so much for your cooperation!

資料6 国際交流科目 授業アンケート (結果)

| 国際交流科目 2014年秋 最終授業アンケート集計結果 (英語版全体) | | | | |
|--|--|--|------|---|
| Exchange international students.(English) | | | | |
| 1 | Which is your program? | Answer | Num. | <ul style="list-style-type: none"> ■ A. OUSSEP ■ B. iExPO ■ C. Frontier Lab ■ D. Maple ■ E. G30-CBCMP ■ F. G30-HUS ■ G. Others ■ NA |
| | | A. OUSSEP | 230 | |
| | | B. iExPO | 30 | |
| | | C. Frontier Lab | 8 | |
| | | D. Maple | 0 | |
| | | E. G30-CBCMP | 7 | |
| | | F. G30-HUS | 28 | |
| | | G. Others | 41 | |
| | | NA | 1 | |
| | | Total Num. | 345 | |
| 4 | Your Major | Answer | Num. | <ul style="list-style-type: none"> ■ Dentistry ■ Economics ■ Engineering ■ Engineering-Science ■ Foreign Studies ■ Human Sciences ■ Information Science and Technology ■ International Public Policy, ■ Language and Culture ■ Law and Politics ■ Letters ■ Medicine ■ Pharmaceutical, ■ Sciences ■ Others ■ NA |
| | | Dentistry | 0 | |
| | | Economics | 40 | |
| | | Engineering | 41 | |
| | | Engineering-Science | 10 | |
| | | Foreign Studies | 24 | |
| | | Human Sciences | 77 | |
| | | Information Science and | 19 | |
| | | International Public Policy, | 11 | |
| | | Language and Culture | 19 | |
| | | Law and Politics | 56 | |
| | | Letters | 42 | |
| | | Medicine | 5 | |
| | | Pharmaceutical, | 0 | |
| | | Sciences | 22 | |
| | | Others | 1 | |
| NA | 1 | | | |
| Total Num. | 368 | | | |
| 5 | How often did you attend this class so far? | Answer | Num. | <ul style="list-style-type: none"> ■ A:all ■ B:80%~ ■ C:60%~ ■ D:50~59% ■ E:less than half ■ NA |
| | | A:all | 131 | |
| | | B:80%~ | 202 | |
| | | C:60%~ | 10 | |
| | | D:50~59% | 1 | |
| | | E:less than half | 0 | |
| | | NA | 1 | |
| Total Num. | 345 | | | |
| 6 (a) | Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution? | Answer | Num. | <ul style="list-style-type: none"> ■ A. Yes ■ B. No ■ NA |
| | | A. Yes | 191 | |
| | | B. No | 153 | |
| | | NA | 1 | |
| Total Num. | 345 | | | |
| 6 (b) | If "No", please choose the reason. | Answer | Num. | <ul style="list-style-type: none"> ■ A:I'm an Osaka University's student ■ B:I can transfe, But I don't need credits. ■ C:I cannot transfer. ■ D:Other ■ NA |
| | | A:I'm an Osaka University's student | 42 | |
| | | B:I can transfe, But I don't need credits. | 44 | |
| | | C:I cannot transfer. | 59 | |
| | | D:Other | 7 | |
| | | NA | 1 | |
| Total Num. | 153 | | | |

| 7 | Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|---|--------|------|-----------------|-----|------------------|----|------------------|-----|---------------|----|--------------|---|------------|-----|---|--------|--|------------|-----------------|------------|-----------------|------------------|-----|-----------------|---------------|-----|------------------|--------------|-----|---------------|----|----|--------------|---|----|----|---|----|
| | *It's relevant to my final paper at my university. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Interesting. Related to my own exchange experience. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Wanted to re-inforce my backgrounds. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Know more about other study field. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Professor is supportive. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Recommendation from London University professor. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Something that is not offered in my home university. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *My friend from last period told me about this subject and she said that it's the most interesting subject to take. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Its an English class, which is easy to understand. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Need it to my home studies. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *I wanted to refresh my mind about it & understand some application of it. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Improve my English ability and interested in this subject. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *When in my home country I will have to rely on the methods presented here to study Japanese. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Compulsory course for the course. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *I had to take it and I'm happy about it because it was a very good course. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *I wanted to gain insight on new subjects and learn new things. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Opening mind to fresh ideas. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | *Expand my statistic knowledge | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>B:to some extent</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>C:not so much</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>D:not at all</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:yes,very much | 58 | B:to some extent | 92 | C:not so much | 118 | D:not at all | 73 | NA | 4 | Total Num. | 345 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>58</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>B:to some extent</td> <td>92</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>C:not so much</td> <td>118</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>D:not at all</td> <td>73</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | Percentage | A:yes,very much | 58 | 17% | B:to some extent | 92 | 27% | C:not so much | 118 | 34% | D:not at all | 73 | 21% | NA | 4 | 1% | | | | | |
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 58 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:to some extent | 92 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:not so much | 118 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not at all | 73 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Answer | Num. | Percentage | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 58 | 17% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:to some extent | 92 | 27% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:not so much | 118 | 34% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not at all | 73 | 21% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 4 | 1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | Is the lecture understandable? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>202</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:yes,very much | 202 | B:almost always | 90 | C:to some extent | 46 | D:not so much | 3 | E:not at all | 0 | NA | 4 | Total Num. | 345 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>202</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>90</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>46</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>3</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | Percentage | A:yes,very much | 202 | 59% | B:almost always | 90 | 26% | C:to some extent | 46 | 13% | D:not so much | 3 | 1% | E:not at all | 0 | 0% | NA | 4 | 1% |
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 202 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 46 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Answer | Num. | Percentage | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 202 | 59% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 90 | 26% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 46 | 13% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 3 | 1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 0 | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 4 | 1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | Does the instructor speak English understandably? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>203</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:yes,very much | 203 | B:almost always | 91 | C:to some extent | 47 | D:not so much | 0 | E:not at all | 0 | NA | 4 | Total Num. | 345 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>203</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>91</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>47</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | Percentage | A:yes,very much | 203 | 59% | B:almost always | 91 | 26% | C:to some extent | 47 | 14% | D:not so much | 0 | 0% | E:not at all | 0 | 0% | NA | 4 | 1% |
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 203 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 91 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 47 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Answer | Num. | Percentage | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 203 | 59% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 91 | 26% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 47 | 14% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 0 | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 0 | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 4 | 1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | Is the class conducted in accordance with the syllabus? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>232</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:yes,very much | 232 | B:almost always | 78 | C:to some extent | 20 | D:not so much | 7 | E:not at all | 1 | NA | 7 | Total Num. | 345 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>232</td> <td>67%</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>78</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>20</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>7</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>1</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>7</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | Percentage | A:yes,very much | 232 | 67% | B:almost always | 78 | 23% | C:to some extent | 20 | 6% | D:not so much | 7 | 2% | E:not at all | 1 | 0% | NA | 7 | 2% |
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 232 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 78 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Answer | Num. | Percentage | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 232 | 67% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 78 | 23% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 20 | 6% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 7 | 2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 1 | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 7 | 2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>225</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:yes,very much | 225 | B:almost always | 88 | C:to some extent | 24 | D:not so much | 3 | E:not at all | 0 | NA | 5 | Total Num. | 345 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>225</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>88</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>24</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>3</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>5</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | Percentage | A:yes,very much | 225 | 65% | B:almost always | 88 | 26% | C:to some extent | 24 | 7% | D:not so much | 3 | 1% | E:not at all | 0 | 0% | NA | 5 | 1% |
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 225 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 88 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Answer | Num. | Percentage | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 225 | 65% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 88 | 26% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 24 | 7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 3 | 1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 0 | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 5 | 1% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 13 | Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment. | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:too much</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>B:adequate</td> <td>277</td> </tr> <tr> <td>C:not enough(insufficient)</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:too much | 49 | B:adequate | 277 | C:not enough(insufficient) | 15 | NA | 4 | Total Num. | 345 |  <ul style="list-style-type: none"> ■ A:too much ■ B:adequate ■ C:not enough (insufficient) ■ NA | | | | |
|--|--|---|--------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|----------------------------|---------------|---------------|--------------|---|-----|---|------------|------------|---|--|
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:too much | 49 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:adequate | 277 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:not enough(insufficient) | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>242</td> </tr> <tr> <td>B:to some extent</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>C:not at all</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:yes,very much | 242 | B:to some extent | 89 | C:not at all | 8 | NA | 6 | Total Num. | 345 |  <ul style="list-style-type: none"> ■ A:yes,very much ■ B:to some extent ■ C:not at all ■ NA | | | | |
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 242 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:to some extent | 89 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:not at all | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | Is there any TA in the class? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: Yes</td> <td>264</td> </tr> <tr> <td>B: No</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A: Yes | 264 | B: No | 76 | NA | 5 | Total Num. | 345 |  <ul style="list-style-type: none"> ■ A: Yes ■ B: No ■ NA | | | | | | |
| | Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A: Yes | 264 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B: No | 76 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| If YES, how well does the TA contribute? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>264</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:yes,very much | 134 | B:almost always | 65 | C:to some extent | 42 | D:not so much | 18 | E:not at all | 2 | NA | 3 | Total Num. | 264 |  <ul style="list-style-type: none"> ■ A:yes,very much ■ B:almost always ■ C:to some extent ■ D:not so much ■ E:not at all ■ NA | |
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 134 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 65 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 42 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 264 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | Are you satisfied with this class? | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Answer</th> <th>Num.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A:yes,very much</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>B:almost always</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>C:to some extent</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>D:not so much</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>E:not at all</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>NA</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>Total Num.</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table> | Answer | Num. | A:yes,very much | 163 | B:almost always | 101 | C:to some extent | 56 | D:not so much | 12 | E:not at all | 4 | NA | 9 | Total Num. | 345 |  <ul style="list-style-type: none"> ■ A:yes,very much ■ B:almost always ■ C:to some extent ■ D:not so much ■ E:not at all ■ NA |
| Answer | Num. | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:yes,very much | 163 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:almost always | 101 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:to some extent | 56 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:not so much | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| E:not at all | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| NA | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Total Num. | 345 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | <p>Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain.</p> <p>*There's a good balance of activities and lecture.</p> <p>*I like the powerpoints because they make it easier to follow the class. Also, discussions are nice.</p> <p>*A lot of practical examples.</p> <p>*I really appreciated the class debates and the use of audio-video material.</p> <p>*Very well organized slides</p> <p>*Field trip</p> <p>*The whole blog system is very well organized and refreshing.</p> <p>*Facebook group activities</p> <p>*Experiments were good.</p> <p>*TAs are really helpful in this class!</p> <p>*I like the photos included in the handouts, as well as the videos we are shown, because they make it easier to visualise the points the teacher makes.</p> <p>*Although it may be because of the number of Japanese students who are taking this class but there were few opportunites to talk with those students.</p> <p>*Field trip was very nice, however, many students did not participate-I think it would had been fair if they would had been obliged to do some extra work instead.</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----|---|
| 18 | Let us know your suggestion or advice to improve the class. |
| | *More group discussion. |
| | *Slightly decrease amount of readings, but overall good. |
| | *It is really annoying that the text materials given at the beginning of the semester were barely if not never used and discussed in class. |
| | *Print out the presentations or upload them to CLE would be helpful. |
| | *I enjoyed the class so much, thank you. And it is good to have Prof. feedback on every of our assignments. |
| | *Guest lecturers |
| | *Time management should be improved. |
| | *Sometimes the debate topics are not related to lectures that confused me. |
| | *Time limits of presentation. |
| | *Following the syllabus or adapting the essey topics to what we ended up studying would have been a good idea. |
| | *Seemed like there was no direction or clear objective in this class. |
| | *Try not to dwell on the same idea for so long people lose interest when it takes too long to get your point across. |
| | *Teachers should not stand in front and just reach a paper. There needs to be a microphone for quiet teachers. |
| | *It would be nice if we got slides printed in every class. |
| | *Be more strict when people talk & are loud. Be more strict about people coming late. |
| | *Simply, lack of class time for too much rich content. |
| | *I would appreciate if more Japanese students would join. Maybe some materials could be made available in Japanese for them. |
| | *I think the title of the lecture is a little misleading, it should be changed. |
| | *Making the method of grading clear right from the start. |
| | *More clear explanation on what we will be assessed on. No explanation of any quizzes, tests, homework, etc. |
| | *Clearer instructions on assignments. Ealier instructions on final project/paper. |
| | *Less theoretical more practical |
| | |
| 19 | Please write other comments and frank opinions freely, if any. |
| | *It's a very good course. The level seems adequate for an international exchange program. |
| | *Some students monopolize the class and didn't let others talk. |
| | *I think sometimes the discussions lack of objectivity. |
| | *The professor is very knowledgeable and is dedicated to the class. |
| | *Sometimes I had the feeling that we didn't really get to the core of the topics we discussed. I think that handing out a papers covering the respective topics might help. |
| | *It was a good class with a good workload & good questions to take to our future. |
| | *Would take again the class if I had the choice. |
| | *The welcome party was very nice and was a good way to meet new people. |
| | *Sensei was always very encouraging & friendly to all the students as well as his TAs. One of the friendliest and more openminded professors I encountered at Handai. |
| | *It was nice to know from students of different cultures. |
| | |

2014年度 年 報

2015年7月20日 発行

編集・発行者：大阪大学国際教育交流センター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号

電 話：06-6879-7118 FAX：06-6879-7077

印刷所：榊一心社